鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

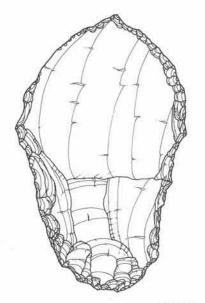






鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

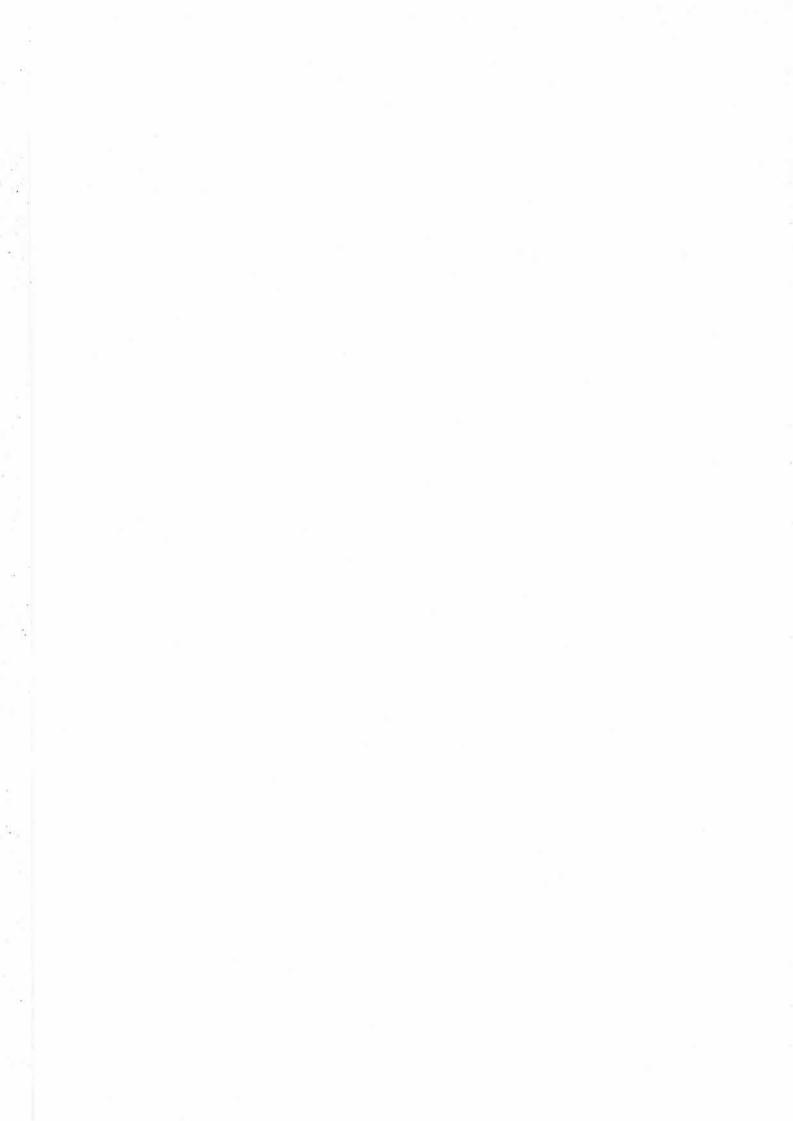
鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



D区出土 荒屋型彫器

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



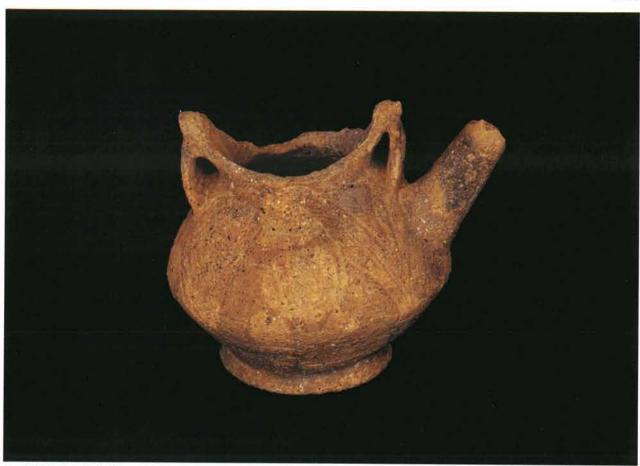


1. 鳥取福藏寺Ⅱ遺跡調査区(D区)

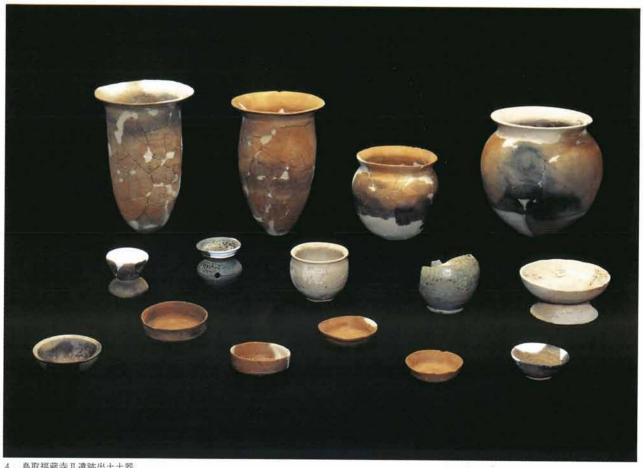


2. 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土旧石器

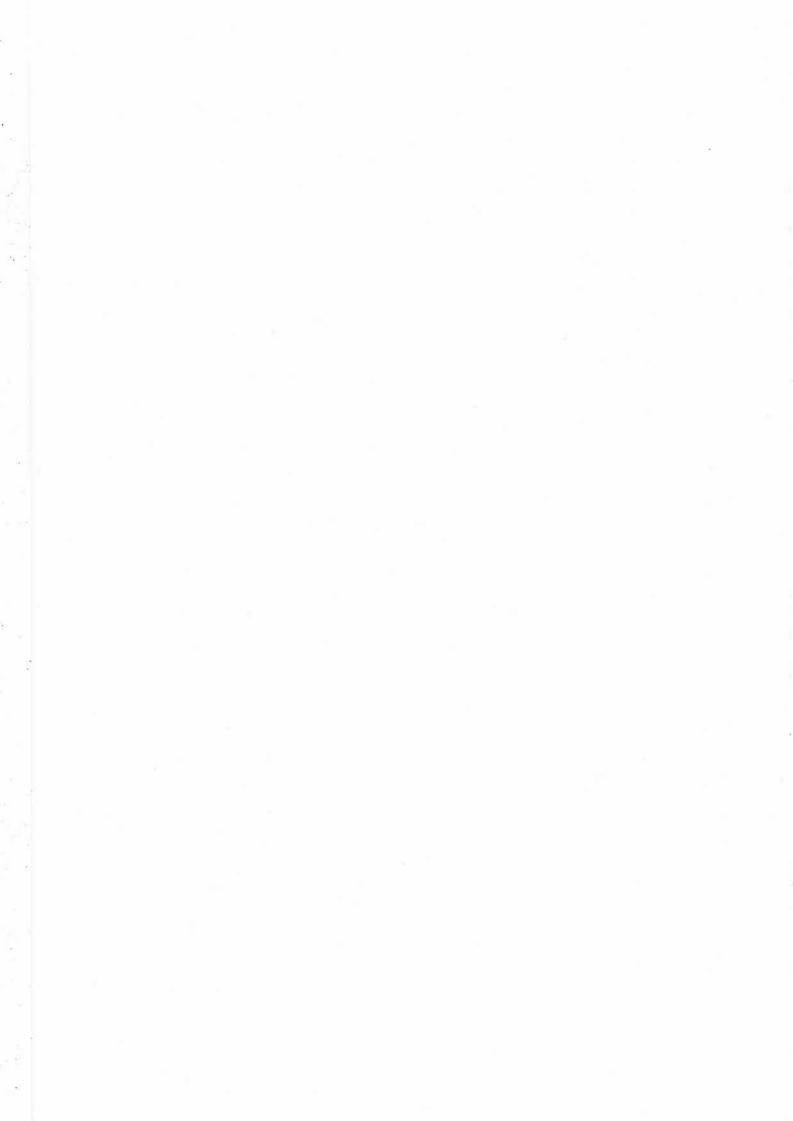




3. 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土注口土器



4. 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土土器



はじめに

北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と 榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる、水と緑にあふれた地に前橋市はあ ります。

前橋は古代より文化に富んだ地で、東国の奈良と称されています。今から二 万八千年前の旧石器から9基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前 橋城、明治からの発展を物語る群馬県庁などの近代化遺産を始めとして多くの 文化財があります。

自然環境に恵まれたこの地では、人々が古代から生活を営んできた跡が市内 いたるところに見られます。古代東国の中心としての生産力のある土地とも言 え、埋蔵文化財の宝庫とも言えます。古代の遺跡の発掘調査による歴史を変え る発見が毎年のようにあり、本年の発掘調査でも貴重な資料を得ることができ ました。

前橋市芳賀地区は市内でも遺跡の多い地区と言われ、古代から近世の史跡が残っています。縄文時代の土器も芳賀団地遺跡より数多く発見されており、貴重な資料となっています。また、中世の城跡である嶺城も良好な状態で残されています。

この芳賀地区の鳥取地区土地改良事業実施にともなう発掘調査が行われ、平成10年度は鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡で縄文の土器、古墳時代の住居跡、溝、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物、等の調査を行いました。特に今回発見された旧石器は地区で初めての発見であるとともに、豊富な資料であり特筆すべき調査成果となりました。

芳賀鳥取地区にとっての初めての発見も多く、前橋市の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。発掘調査は今後も続きますが、また新たな発見が期待されます。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました農村整備課、地元関係者、 酷暑の中調査に従事されました皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

平成11年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団 長 渡 辺 勝 利

例

- 1. 本報告書は、鳥取町土地改良事業に伴う鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡発掘調査報告書である。
- 2. 本遺跡は、群馬県前橋市鳥取町613-1他に所在する。
- 3. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 4. 発掘調査担当並びに調査期間は次のとおりである。

整理·報告書作成期間 平成10年12月11日~平成11年3月26日

- 5. 本書の原稿執筆・編集は林・福田が行った。なお、「V 遺構と遺物」中の「5. 工房址について」ならびに「6. 掘立柱遺構について」は井上唯雄(前橋市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財保史跡整備指導員)が執筆した。なお、旧石器時代細石器文化層については、ユニットの半分を調査にしたに留まった。今後、機会をとらえて残りの部分の調査を計画し、分析を必要とする。
- 6. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

赤城美代子 栗岡エミ子 石原義夫 岩木 操 岩田敏子 内田カホル 生形かほる 大塚美智子 鬼塚成子 加藤萩江 岸フクエ 佐藤作子 佐藤花江 佐藤治吉 佐野貴恵子 柴崎まさ子 下田正衛 渡木秋子 戸丸澄江 中澤光江 名塚久枝 樋高紀美子 平林克己 平林クニ子 平林しのぶ 深沢由紀子 舩津明美 松田富美子 湯浅たま江 湯浅道子

7. 発掘調査で出土した遺物は、当調査団により前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育 委員会文化財保護課で保管されている。

凡

- 1. 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 2. 挿図に建設省国土地理院発行の1/5万地形図(前橋)と1/2,500地形図(前橋)を使用した。
- 3. 本遺跡の略称は、10C19である。
- 4. 各遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

 J …縄文時代の住居址
 H … 古墳・奈良・平安時代の住居址
 D … 土坑
 I … 井戸址

 W … 溝址
 P … 柱穴・貯蔵穴
 B … 掘立柱遺構

5. 遺構・遺物の実測図等の縮尺は次のとおりである。

遺 構 住居址・土坑・井戸址・溝址・掘立柱遺構・工房址…1/60 炉・竈断面図…1/30

遺 物 土器・石器 (旧石器を除く)・石製品・鉄器・鉄製品…1/3・1/4 旧石器…礫器1/2、その他の旧石器…4/5

旧石器分布図 分布地形図…1/400、器種別平面分布図・垂直分布図…1/100

6. スクリーントーンの仕様は次のとおりである。

遺構平面図 粘土…斑、遺構断面図・構築面…斜線、炉址…淡点

遺物実測図 施釉範囲…霰、黒色処理…網、炭化物(煤付着等)…斑、須恵器断面…黒塗り、 灰釉陶器断面…濃点、擦痕・朱…淡点

—— 目 次 ——

	は	Ľ		85	12		i.
Ť	調用:	本じ	· 45	ス級	2 旅行		1
7	D/HJ	E. V	- 王	S 113	: MF		1
II	遺品	亦の	位置	置と現	景境		
	1	遺	跡	の位	置		1
	2	歴	史	的環	境		3
ш	報	木	0	女叉),m.		
Ш	調	查		経			
	1	調	查				
	2	調	查	経	過		5
IV	層				序		8
V	潰	構	٢	遺	物		
Y					100		
	1	住		居			
	2	土			坑		17
	3	溝			址		19
	4	井		戸	址		20
	5	工		房	址		20
	6	垌	寸	柱 漕	椿	,	20
	J	3/11	-16-	11. 18	1895		20
VI	ŧ		Ł		め		39

付編 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の細石刃文化について

版 図

- 口絵 1 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡調査区(D区)
 - 2 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土旧石器
- PL. 1 A区·住居址 (H-44·48·49·50) 全景
 - 2 B区・住居址 (H-51) 全景、 遺物出土状態 (H-48·50·51)
 - 3 住居址 (J-3·H-45·52·53)·工房址1·2全景
 - 4 住居址 (J-4·H-56·59)·D-123全景、 遺物出土状態(J-3·H-56·D-123·工房址1)
 - 5 C·D区全景
 - 6 住居址全景(J-7·H-54·60·61·63·64·66·68)
 - 6 住居址全景(J-7・H-54・00・01・05・01

 - 遺物出土状態 (H-82·74·85·86)
 - 10 旧石器検出・出土状態、調査を終えて
 - 11 H-43~46・48~51号住居址出土の土器
 - 12 H-52~54・56・61号住居址出土の土器
 - 13 H-61・63~66・68~70号住居址出土の土器
 - 14 H-70・73・74・76・77号住居址出土の土器

- 3 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土注口土器
- 4 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土土器
- PL. 15 H-77·78·81·82·85·86号住居址· D-124·126·198号土坑·工房址1号· W-3号溝址·A·E区出土の土器
 - 16 J-3·H-60·77号住居址· D-123・173号土坑出土の土器
 - 17 縄文式土器
 - 18 石器・石製品
 - 19 鉄器·鉄製品·特殊遺物
 - 20 旧石器 (細石核・スキー状削片・稜付削片)

 - 24 旧石器 (礫器)
 - 25 旧石器(礫器)
 - 26 旧石器(礫器・ストーンリタッチャー)

挿 义

			頁			頁
Fig.	1	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の位置	vi F	ig. 31	H-65·68号住居址	72
	2	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡周辺図	2	32	H-67号住居址、D-167号土坑 ··············	73
	3	調査区位置図	4	33	H-69・70号住居址、D-140号土坑	74
	4	グリッド設定図	7	34	H-72・73・75号住居址、D-181号土坑	75
	5	標準土層図	8	35	H-74号住居址 ······	76
	6	遺跡地形図	43	36	H-76 · 77号住居址 ······	77
	7	遺構分布図(A区)	44	37	H-78·79号住居址 ······	78
	8	遺構分布図(B区)	45	38	H-80·81号住居址	79
	9	遺構分布図 (C区)	46	39	H-82号住居址、D-213号土坑 ····································	80
	10	遺構分布図 (D区)	47	40	H-83⋅84⋅85⋅86号住居址	81
	11	遺構分布図 (E区)	48	41	J-3 · 4号住居址 ······	82
	12	D区旧石器平面分布図 ······	49	42	J-5⋅6号住居址、D-193号土坑	83
	13	D区旧石器器種別平面分布図 ······	51	43	J-7・8号住居址、D-233号土坑	84
	14	D区旧石器垂直分布図 ······	52	44	B-1·2·3号据立柱遺構 ·······	85
	16	遺跡・遺構全体図(B区)	53	45	B-4号掘立柱遺構 ······	86
	19	遺跡·遺構全体図(E区)	55	46	B-5-6号掘立柱遺構	87
	15	遺跡·遺構全体図 (A区)	57	47	B-7·8号掘立柱遺構	88
	17	遺跡・遺構全体図 (C区)	58	48	B-9号掘立柱遺構、工房址1·2号、	
	18	遺跡・遺構全体図(D区)	59		W-4号溝址 ······	89
	20	H-43·44·46号住居址 ······	60	49	$D-87 \cdot 93 \cdot 96 \cdot 97 \cdot 101 \cdot 102 \cdot 104 \cdot 107 \sim$	
	21	H-45·47号住居址	61		113 · 115 ~ 118 · 120 · 123 ~ 131号土坑	90
	22	H-48·49号住居址 ·······	62	50	D-132~134 · 136~139 · 141~146 · 148 ·	
	23	H-50·52号住居址 ·····	63		149 · 154 · 160 ~ 162 · 164 · 165 · 169 ·	
	24	H-51号住居址 ······	64		170~173·175·182·184号土坑	91
	25	H-53·54·56号住居址 ·······	65	51	$D - 190 - 192 \cdot 195 \cdot 196 \cdot 199 \cdot 201 - 203 \cdot 207$	4.1
	26	H-55⋅57⋅58号住居址、W-3号溝址 ········	66		208 · 224 · 225 · 227~231 · 233 · 236号土坑、	
	28	H-61号住居址、D-158号土坑 ····································	67		I-3号井戸址、W-1・2・5号溝址	92
	27	H-59·60号住居址 ······	69 注	記 …		93
	29	H-62·66·71号住居址 ······	70	52	H-43~46・48~51号住居址出土の土器 ······	96
	30	H-63·64号住居址 ······	71	53	H-51~54·56·57号住居址出土の土器 ······	97

			貝						貝
Fig.	54	H-59~67号住居址出土の土器	98	Fig.	65	旧石器	(1)		109
	55	H-68~70·73号住居址出土の土器 ·········	99		66	旧石器	(2)		110
	56	H-73·74·76~79·81·82·84号			67	旧石器	(3)		111
		住居址出土の土器	100		68	旧石器	(4)		112
	57	H-85·86号住居址、工房址1号、			69	旧石器	(5)		113
		W-3号溝址、D-124·126·198号土坑、			70	旧石器	(6)		114
		A・E区出土の土器、縄文式土器(1) ······	101		71	旧石器	(7)		115
	58	縄文式土器 (2)	102		72	旧石器	(8)		116
	59	縄文式土器 (3)	103		73	旧石器	(9)	······	117
	60	縄文式土器(4)			74	旧石器	(10)		118
	61	縄文式土器 (5)			75	旧石器	(11)	••••••	-
	62	縄文式土器(6)	106		76	旧石器	(12)	***************************************	120
	63	石器・石製品(1)	107		77	旧石器	(13)		121
	64	石器・石製品(2)、特殊遺物、			78	旧石器	(14)		122
		鉄器·鉄製品 ·····	108						
40									
表									
			頁						頁
Tab.	1	鳥取福藏寺Ⅱ遺跡遺構一覧表	23	Tab.	4	石器·	石製品	·特殊遺物観察表	28
	2	土器観察表	26		5	縄文式	上器観	察表	29
	3	鉄器·鉄製品観察表	28		6	旧石器	観察表		32

調査参加者	赤城美代子	栗岡エミ子	石原義夫	岩木 操	岩田敏子	内田カホル
	生形かほる	大塚美智子	鬼塚成子	加藤萩江	岸フクエ	佐藤作子
	佐藤花江	佐藤治吉	佐野貴惠子	柴崎まさ子	下田正衛	渡木秋子
	戸丸澄江	中澤光江	名塚久枝	樋高紀美子	平林克已	平林クニ子
	平林しのぶ	深沢由紀子	舩津明美	松田富美子	湯浅たま江	湯浅道子

調 査 協 力 前橋市鳥取土地改良事業共同施行 前橋市農政部農村整備課

加藤市郎 松本光好 前原 豊

(敬称略)

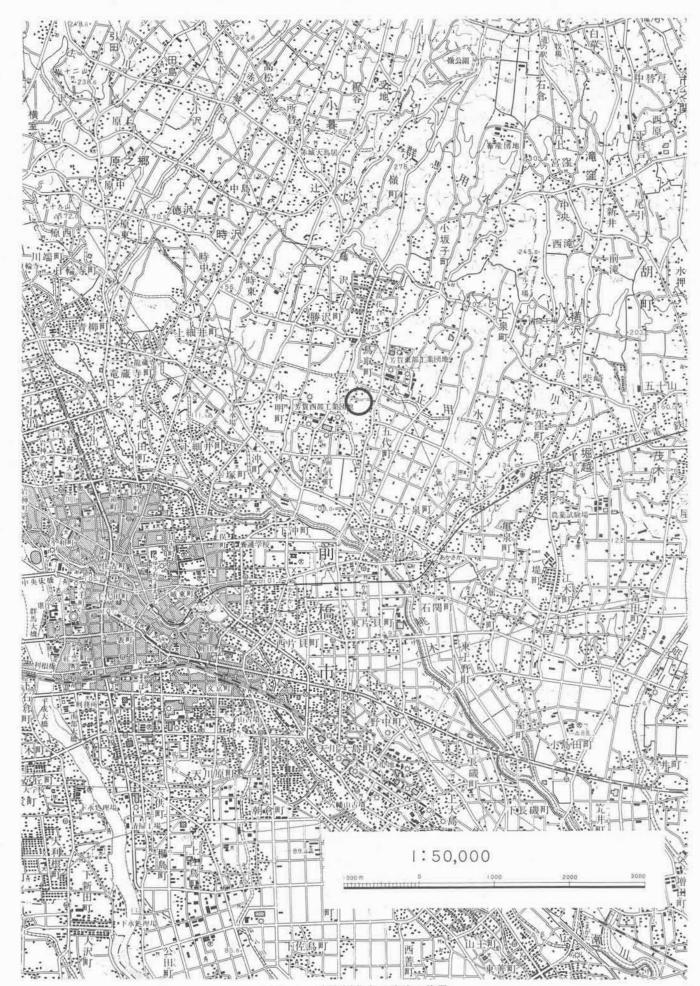


Fig. 1 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の位置

Ⅰ 調査に至る経緯

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡発掘調査は、鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成10年7月から12月にかけて実施された。発掘調査に至る経緯は以下のとおりである。

本遺跡の発掘調査は、前橋市鳥取町を対象とした土地改良事業(2年次)実施に伴い行われた。平成10年6月23日付で鳥取土地改良事業共同施行(施行委員長 平林克己)より鳥取町の土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け、前橋市教育委員会文化財保護課が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 渡辺勝利)との間で協議・調整を行い、平成10年7月9日に両者の間で本発掘調査の委託契約を締結、発掘調査を開始するに至った。実施方法は、前年度調査(鳥取福蔵寺遺跡)と同様に、平成元年4月3日締結の前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団が取り交わした埋蔵文化財に関する覚書に準拠する。遺跡名称は「鳥取福蔵寺 II 遺跡」とし、遺跡略称は10C19とした。なお、遺跡名称の「福蔵寺」は旧地籍の小字名を採用している。

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡は、前橋市街地から北東へ約4.5kmの鳥取町613-1他に所在する。遺跡地の前橋市鳥取町は、昭和29年に前橋市に合併されたもので、それまでは勢多郡芳賀村字鳥取であった。このため、遺跡地を含んだ旧芳賀村の地域は、芳賀地区の呼称もある。旧芳賀村は赤城山南麓にあって、南北に細長い三角形状を呈している。頂点に当たる北端は標高620m、底辺に当たる南端は旧利根川の河川敷とされる沖積地で、その標高は110mを測り、平均斜度は約5/100である。本遺跡地は、赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に属する傾斜地上にある。赤城火山斜面は台地上の地形であり、ところどころの山麓に源を発する中小の河川が南流し部分的に開析谷を形成している。そして、この斜面の末端部は比高差10m前後の直線的な段丘崖をなしており、旧利根川のつくった広瀬川低地に接している。本遺跡から南へ約1km下った県道前橋今井線付近(端気町)がこれに当たり、ここから南に関東平野が広がっている。なお、現在こうした地形上には、開析谷の低地には水田が、谷と谷の間の丘陵状の舌状台地には集落が、その周辺には畑が開かれ、人々の生活に深い係わりをもつ所となっている。

周辺は、台地部を中心に遺跡の濃密分布地域で、市内でも大規模な芳賀北部団地遺跡、芳賀西部工業団地遺跡、芳賀東部工業団地遺跡が指呼の間にあり、縄文、古墳、歴史時代の遺構が多数検出された。また、奈良三彩小壺を出土した桧峯遺跡、中世の嶺城跡なども含んで、古くから人々の生活の舞台となってきた地域である。

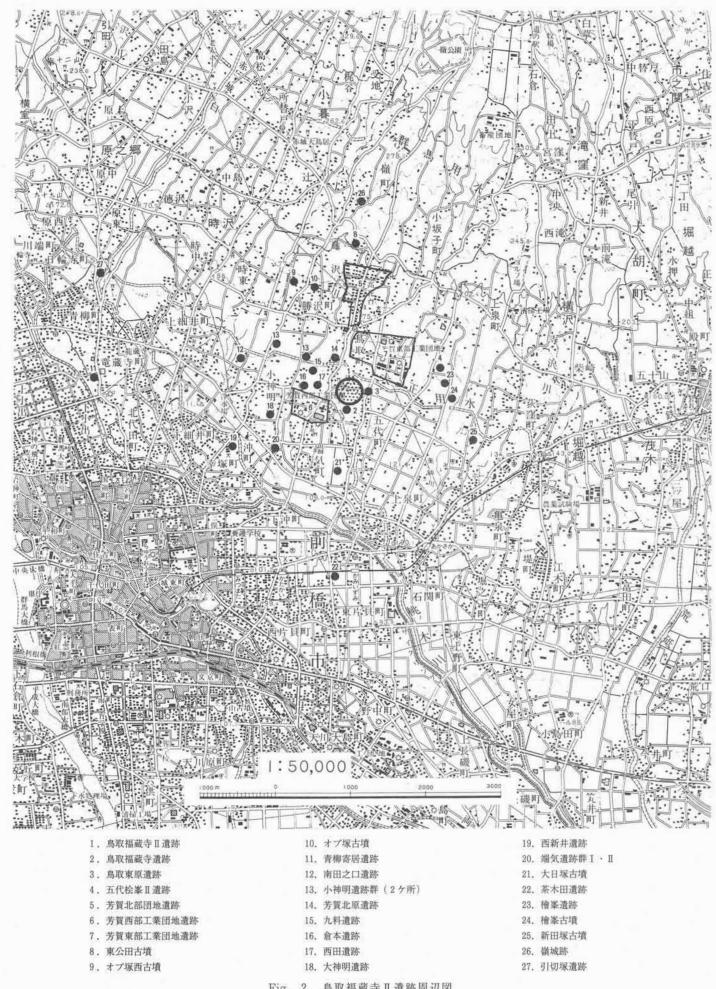


Fig. 2 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡周辺図

2. 歷史的環境

鳥取福蔵寺 Ⅱ 遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、縄文時代から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、文化財の宝庫として知られている。

芳賀地区は、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて実施された芳賀遺跡群の発掘調査によって、縄文時代から近世に至るまで、ほぼ各時代の遺構が確認されたところである。周辺図をみても分かるとおり、このとき実施された芳賀団地遺跡群(芳賀北部団地遺跡、芳賀東部工業団地遺跡、芳賀西部工業団地遺跡)の発掘調査は芳賀地区の中心部約40万㎡を全面的に掘り返すものであり、前橋の発掘史のなかでも特筆されるものであった。ここでは、この昭和48年から昭和55年に及ぶ芳賀団地遺跡群の発掘調査を中心に、その後現在まで行われてきた中小の発掘調査の成果をふまえながら同地区の歴史を概観してみたい。

まず、芳賀団地遺跡群の概略であるが、調査面積約6.1ha の芳賀北部団地遺跡 (5) では、奈良・平安時代の竪穴住居址231軒を始め、縄文時代前期・中期の竪穴住居址、中期の敷石住居址、および中世の勝沢城址の一部が検出された。調査面積約33ha の芳賀東部工業団地遺跡 (7) では芳賀北部団地遺跡と同じく、奈良・平安時代の竪穴住居址420軒、掘立柱建物跡が194軒が検出されたのを始め、縄文時代前期の竪穴住居址39軒、後期の敷石住居址6軒等が検出された。調査面積約2.5ha の芳賀西部工業団地遺跡 (6) からは縄文時代前期の竪穴住居址、埴輪棺等のほか、古墳総覧記載漏れの古墳31基が検出された。昭和10年の古墳調査において芳賀地区では64基の古墳があるとされ、赤城山南麓では、旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村についで古墳の多いところとされている。しかし、昭和50年、前述した芳賀西部工業団地遺跡 (6) の調査では記載漏れの古墳が31基も確認されたほか、小神明遺跡群(西田遺跡)(17)、嶺町東公田地内(8) にもあり、これらの古墳を併せると芳賀地区には実に100基もの古墳が存在し、赤城山南麓における古墳の集中地域の1つである。周辺にはオブ塚西古墳(9)、オブ塚古墳(10)、桧拳古墳(24)、新田塚古墳(25)の存在が知られ、芳賀団地遺跡群を代表とする集落址と併せて、この地域の繁栄の様子がうかがわれる。

また、現在芳賀地区は「和名類聚抄」に記載されている「藤沢郷」に比定されている。奈良・平安時代の住居址群が多数検出されていることから、古墳時代に続き、奈良・平安時代においても、芳賀地区は赤城南麓における政治的、文化的に中心的な地域であったとみられる。

このように、昔から人々の生活の場であった台地上から今回の調査で新たに旧石器時代の石器が検出され、同地区における人々の営みは縄文時代以前に行われていたことが明らかになった。

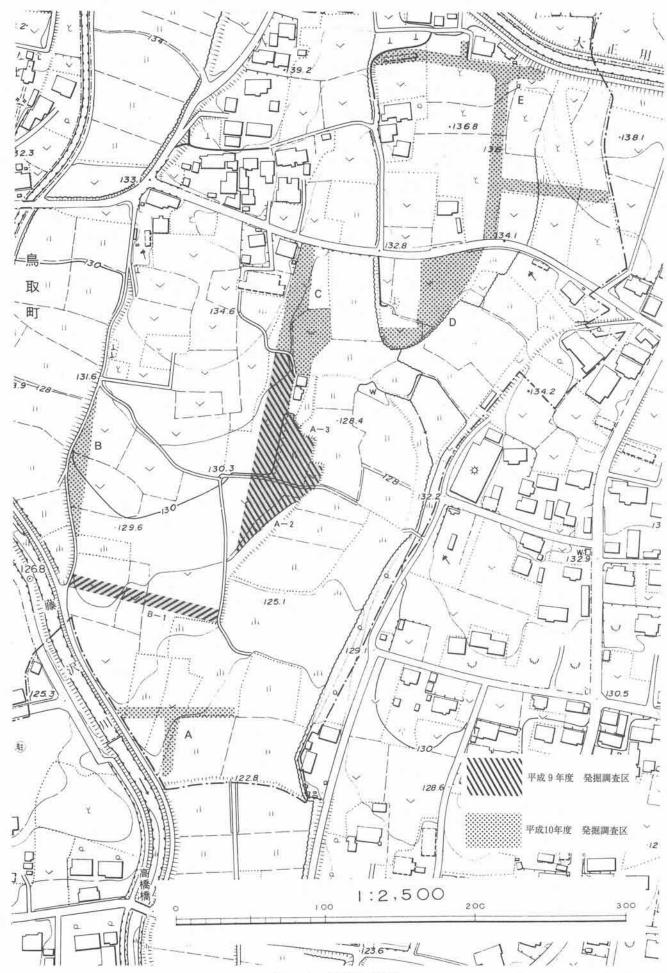


Fig. 3 調查区位置図

Ⅲ調查経過

1. 調查方針

委託された調査箇所は計画道路部分、切り土部分を中心とした7,000㎡である。調査範囲の形状から全体を $A\sim E$ 区の5 調査区に区分した。なお、委託箇所のうち、水田、用水路等に緊密に接し、またそれらを毀損するおそれのある夥しい湧水を生ずる可能性が強い、幅員が極めて狭いため掘削機械等の投入ができず、また掘削した場合土砂崩落の危険性があるなどして、調査が困難な箇所については、必要に応じ可能な範囲内にミニトレンチを入れた。その結果、いずれも遺構は確認できなかったため、先の実状と勘案し本調査範囲より除外することとした。これにより、発掘調査面積は5,727㎡となった。実施に際しては、調査区ごとに4 mグリッドを設定し、これを最小単位とした。各グリッドの呼称方法は南北方向をY 軸とし、北から南个Y 1、Y 2、Y 3 …、東西方向をX 軸とし、西から東个X 1、X 2、X 3 …で表し、それぞれ北西の交点をグリッド名とした。その他、調査実施段階での方針は以下のとおりである。

- 1. 土層観察は原則として遺構中央部で交差するセクションベルトを設けて行う。
- 2. 10cm四方以上の遺物は縮尺1/20にて図化し、それ以下についてはドット標記した平面図を作成し、 取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。
- 3. 竈は原則として縮尺1/10で図化し、遺構平面図は原則として縮尺1/20にて実施する。 なお、今年度の測量の基準点はX80、Y40グリッドで公共座標は第IX系(X=+46,040m、Y=-64,880m)である。

2. 調查経過

2年計画の最終年次となる本年度の調査は、7月9日付で委託契約を締結、開始の運びとなった。本遺跡の調査区は5つに分かれており、それぞれをA~E区と呼称することとした。現地での調査態勢の整った21日より、まず最も南に位置するA区の調査に着手した。表土掘削に続きプラン確認・精査を開始した。また、並行して28日からそのほぼ北側に位置するB区の表土掘削を実施した。さらに盆明けの8月27日より、D区半面を除く残る3調査区の表土掘削を行い、9月の半ばには予定された全調査区の一通りのプラン確認をほぼ終えた。並行して進めてきたA区調査も8日に終了、同区の中央部東寄りからは、前年度調査区からの延長と見られる傾斜面整地箇所が認められた。

22日、D区より旧石器(荒屋型彫器、細石刃等)が検出された。これにより同調査区における旧石器分布域の精査が必要となった。また、30日からのD区残り半面の表土掘削及びプラン確認により、本遺跡の遺構等検出状況の全容がほぼ明らかになったため、10月2日付で想定遺構検出量減少に伴う発掘調査変更委託契約を締結した。

7日、B区の調査を終了、南北に細長く展開する同区では、その中央部より鉄製品に関する工房址 と見られる土坑群が確認された他、掘立柱遺構3棟が検出された。また、縄文期の土坑よりほぼ原型 をとどめた注口土器が出土した。19日、A・B両区の空中写真撮影を実施した。

30日には、B区北東に近接して位置するC・D両区の調査(旧石器を除く)を終了した。C区では、中央部から西の台地部分より相当量の遺構検出を想定していたが、案に反して検出量は微々たるものであった。また東側の谷地状部分北寄りについては湧水を伴い遺構も確認できなかったことから、ト

レンチを入れた後に埋め戻した。D区からは、住居址と重複して掘立柱遺構が1棟検出された他、墨 書土器数点が出土した。

11月に入り残るE区の精査に着手した。道路幅の調査区であったが、東西南北に広がり、比較的多くの遺構を検出した。調査区南端近くに掘立柱遺構5軒が検出された他、中央部より南寄りの住居址からは腺が出土、また西寄りに検出された住居址の竈はことのほか残存状態が良好であった。しかし、トレンチを入れた東側の谷地状部分には遺構は認められず、湧水が広がりはじめたため一部を除いて埋め戻した。17日、同区の調査を終了、翌18日にC~E区の空中写真撮影を実施した。

20日よりD区における旧石器分布域の精査を開始した。上州名物「赤城おろし」が冷たく肌を突き刺しはじめ、霜の心配も出てくる時期に差しかかり、進捗を急がねばならない段階にきた。先の9月に数点が検出されたD区中央部西寄りを起点に放射状に2~4mのグリッドを組み、検出状況を見ながら徐々に精査域を広げていった。最終的には10箇所余りのグリッド内に300を越えるタワーが立ち並び、2箇所に集中した形で旧石器分布域が浮き彫りにされた。検出器種も細石核、細石刃、彫器、掻器、礫器など多岐に及んだ。12月4日、ハイライダーにより分布域全景を撮影、7日には旧石器に係る調査を終え、10日現地におけるすべての調査を完了するに至った。

11日から翌年3月26日まで文化財保護課城南収蔵庫にて整理作業を行い、本遺跡調査に係る全作業を完成させる運びとなった。

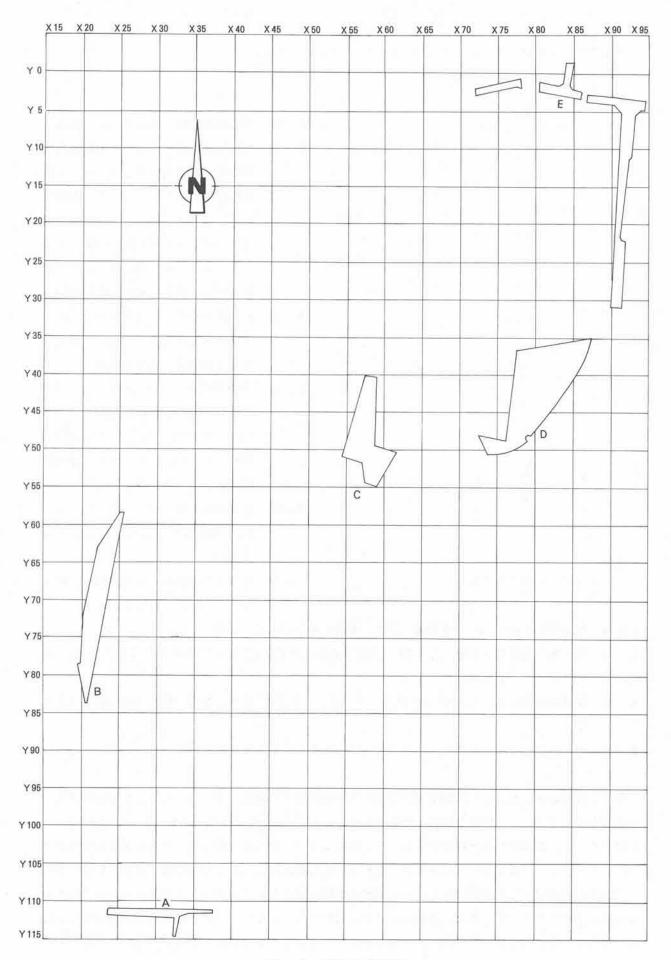
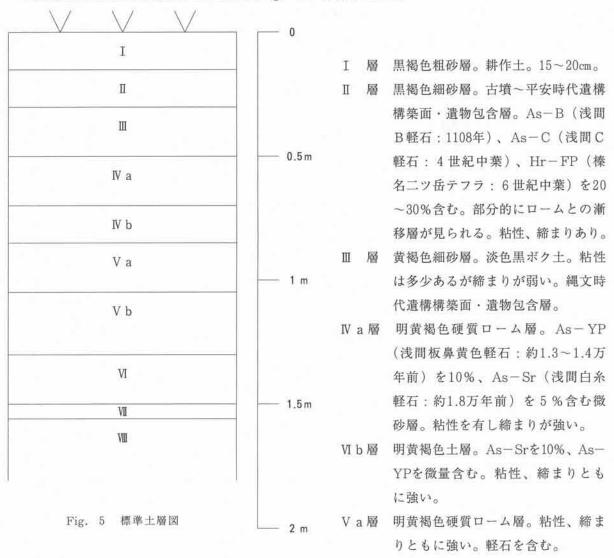


Fig. 4 グリット設定図

本遺跡地内の地層の堆積は、基本的にはFig. 5のとおりである。



- V b 層 明黄褐色土層。As-Srを微量に含む。粘性は強いが締まりは弱い。
- Ⅵ 層 明黄褐色硬質ローム層。As-BP (浅間板鼻褐色軽石:約1.6~2.1万年前)を40%含む。粘 性、締まりともに強い。
- ™ 層 明黄褐色粘土層。暗色帯。粘性は強いが、締まりはあまりない。

今回、各調査区において土層観察用の深掘を入れ基本層序を確認した。 $A \sim E$ 区とも層厚等に若干の差はあるものの、ほぼ同様な層位が認められた。ここでは、旧石器が検出されたD区の土層(X76-Y44グリッド)を基に標準土層図を作成した。図のように、表土層(耕作土)から約20cm程度掘り下げたところでローム層を切り込む遺構面が表れる。旧石器が検出されたのはIII層下部からIV層にかけてである。各調査区とも南東に行くにつれIII層の堆積が厚くなることから、本遺跡の旧地形は北西から南東にかけてやや下がりぎみに傾斜していたと判断できる。またロームが落ち込む谷地状部分からは、遺構はほとんど確認されなかった。おそらくは、そこまでが居住域の限界であったのであろう。

V 遺構と遺物

本年度の調査区から検出された遺構は、竪穴住居址50軒、土坑84基、溝址5条、井戸址1基、工房址2軒、掘立柱遺構9棟である。竪穴住居址の時期概要は、縄文時代6軒、古墳時代12軒、奈良・平安時代29軒、不明3軒であり、その大半が粘性と締まりの弱い褐色ローム層を掘り込む形で構築されている。そのため確認は容易であったが、調査区によっては表土が浅いため耕作により削平を受けているところも見られた。また、各調査区における検出の内訳は、A区8軒、B区9軒、C区2軒、D区15軒、E区16軒である。昨年度の「鳥取福蔵寺遺跡」で報告されている住居址を合わせると93軒となる。掘立柱遺構はB・D・E区で確認された。工房址はB区のみで検出され、時期は9世紀後半と考えられる。土坑はA区以外の各調査区から検出され、溝址はA区、B区、E区から検出された。土坑、溝址は時代的に多岐にわたると考えられる。C区で検出された井戸址については、時期は不明である。

なお、A区は台地の南西端に、B区は台地西端の藤沢川による崖際に、C区は台地状地形東端部と その東に展開する谷地状に、D区は舌状台地末端に、E区は台地中央部から東端に位置している。

1. 住居址

J-3号住居址 (B区、Fig. 41、PL. 3・4・16)

(形状) 隅丸不整形。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 6 基検出。P, (30×29×10cm)、P, (46×35×11.5cm)、P, (47×34×14.5cm)、P, (40×38×15cm)、P, (36×32×15.5cm)、P, (36×30×8.5cm)。(遺物) 総数648点。石器 8 点。(備考) 中央部北西寄りに焼土範囲を検出。出土遺物などから本住居址は縄文時代後期と思われる。

J-4号住居址 (C区、Fig. 41、PL. 4)

(形状)住居東側が削平されており、全形は不明であるが隅丸方形を呈すると思われる。(床面)平坦で堅緻。(柱穴)1基検出。P、(30×26×20cm)。(遺物)総数1点。石斧1点。(備考)判定の基準となる遺物もなく時期の特定は困難である。

J-5号住居址(E区、Fig. 42)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが隅丸不整形を呈するとみられる。(床面)平坦であるが堅緻面は認められない。(柱穴) 1基検出。P₁(31×30×43cm)。(遺物)総数21点。(備考)出土遺物などから本住居址は縄文時代中期と思われる。

J-6号住居址 (E区、Fig. 42、PL. 8)

(形状)住居東側が調査区外であり、また北側は削平を受けていることから、全形は不明であるが隅丸不整形を呈するとみられる。(床面)平坦であるが堅緻面は認められない。(柱穴) 2 基検出。 P_1 ($26\times25\times21$ cm)、 P_2 ($34\times26\times41$ cm)。(炉)石組みの炉がほぼ中央部に位置するとみられ、径65 cmを測る。石組みはほぼ復原することができた。(重複)D-193と重複し、構築順は本遺構 $\rightarrow D-193$ である。(遺物)総数87点。石斧 2 点・石錐 1 点・石器22点。

(備考) 出土遺物などから本住居址は縄文時代中期と思われる。

J-7号住居址(D区、Fig. 43、PL. 6)

(形状) 隅丸方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(炉) ほぼ中央部に位置するとみられ、長径50cm、短径42cmを測る。(柱穴) 10基検出。P₁(27×24×36cm)、P₂(35×31×39.5cm)、P₃(26×20×21cm)、P₄(26×22×38cm)、P₃(27×22×48cm)、P₃(33×30×27cm)、P₁(28×22×12cm)、P₃(24×18×24cm)、P₃(22×20×21cm)、P₁₀(27×21×20cm)。(重複) D−233と重複し、構築順は本遺構→D−233である。(遺物) 総数105点。石斧 2点・石器29点。(備考) 出土遺物などから本住居址は縄文時代前期と思われる。

J-8号住居址 (D区、Fig. 43)

(形状) 隅丸方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 6基検出。P₁(28×26×20cm)、P₂(30×25×22.5cm)、P₃(30×28×15cm)、P₄(32×28×22.5cm)、P₅(32×33×19cm) P₆(90×87×58.5cm)。(遺物) 総数 2 点。石器 1 点。(備考) 出土遺物などから本住居址は縄文時代前期と思われる。

H-43号住居址 (A区、Fig. 20·52、PL. 11)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置すると思われる。北側が調査区外であり規模は不明。(重複) H-46・ H-51と重複し、構築順はH-51→H-46→本遺構である。(遺物) 総数351点。土師坏1点・灰釉 陶器片2点・土錘1点・鉄滓1点。(備考) 出土遺物などから本住居址は8世紀後半と思われる。

H-44号住居址 (A区、Fig. 20·52、PL. 1·11)

(形状)住居北端が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置し、全長120cm、焚口部幅30cmを測る。(貯蔵穴) 1 基検出 (93×58 ×39.5cm)。(重複) H-50・H-51と重複し、構築順はH-51→H-50→本遺構である。(遺物) 総 数477点。土師坏 2 点・灰釉陶器片 1 点。(備考)中央部に床下土坑 1 基を検出。出土遺物などから 本住居址は 9 世紀中頃と思われる。

H-45号住居址 (B区、Fig. 21·52、PL. 3·11)

(形状)長方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長90cm、焚口部幅53cmを測る。(柱穴)3基検出。P₁(100×52×32cm)、P₂(30×22×40cm)、P₂(115×86×7.5cm)。(重複)H-57と重複し、構築順はH-57→本遺構である。(遺物)総数363点。須恵高台境1点・灰釉陶器片1点・陶磁器片4点・鎌・刀子各1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀後半~9世紀初頭のものと思われる。

H-46号住居址 (A区、Fig. 20·52、PL. 11)

(形状) 住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 4基検出。 P_1 (75×60×115cm)、 P_2 (22×20×17cm)、 P_3 (76×65×109cm)、 P_4 (68×50×110cm)。(重複) $H-43\cdot W-1$ と重複し、構築順は本遺構→ $H-43\cdot W-1$ である。(遺物) 総数593点。土師坏・土師瓶各1点・土師甕2点・須恵坏1点・土錘1点。(備考) 周溝有り。出土遺物などから本住居址は7世紀末~8世紀初頭のものと思われる。

H-47号住居址 (A区、Fig. 21)

(形状)住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(遺物)総数147点。(備考)床直上より検出された遺物もなく、年代特定は困難である。

H-48号住居址 (A区、Fig. 22·52、PL. 1·2·11)

(形状)住居南端が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置し、全長107cm、焚口部幅36cmを測る。(貯蔵穴・柱穴) 3 基検出。 P₁(30×26×21cm)、P₂(28×26×13.5cm)、P₃(貯蔵穴)(148×78×20cm)。(遺物)総数1,116点。土師坏・土師甕各1点・鉄器1点・鉄滓2点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀末~9世紀初頭のものと思われる。

H-49号住居址 (A区、Fig. 22·52、PL. 1·11)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(柱穴) 3基検出。P₁(55×48×64cm)、P₂(32×32×94.5cm)、P₃(83×73×131.5cm)。 (遺物)総数130点。土師坏1点・鉄器1点。(備考)出土遺物などから本住居址は8世紀初頭と思 われる。

H-50号住居址 (A区、Fig.23·52、PL. 1·2·11)

(形状)住居西北隅が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置し、全長112cm、焚口部幅62cmを測る。(柱穴) 5 基検出。P₁(38×35×15cm)、P₂(30×28×7cm)、P₃(36×28×11cm)、P₄(43×40×20cm)、P₃(116×92×29cm)。(重複) H-44・51と重複し、構築順はH-51→本遺構→H-44である。(遺物)総数1,107点。土師坏1点・須恵坏・須恵高台埦各1点・砥石1点・鉄器1点・鉄滓3点。(備考) 周溝有り。中央部西壁寄りに床下土坑1基検出。出土遺物などから本住居址は8世紀末~9世紀初頭のものと思われる。

H-51号住居址 (A区、Fig. 24·53、PL. 2·11)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(炉) ほぼ中央部に位置すると思われる。長径30cm、短径 (16cm) を測る。(柱穴) 8 基検出。 P_1 (32×30×47cm)、 P_2 (103×11×12cm)、 P_3 (33×29×14cm)、 P_4 (32×29×13cm)、 P_5 (62×11×8 cm)、 P_6 (26×13×20cm)、 P_7 (89×62×57cm)、 P_8 (20×25×15cm)。(重複) H-43・44・50と重複し、構築順は本遺構→H-43→H-50→H-44である。(遺物) 総数140点。坩・土師高坏・土師甕各1点・石製模造品1点。(備考) 間仕切り溝2条を検出(ベッド状遺構とみられる)。出土遺物などから本住居址は4世紀中頃であると思われる。

H-52号住居址 (B区、Fig. 23·53、PL. 3·12)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置し、全長80cm、焚口部幅38cmを測る。(柱穴) 2基検出。P₁(68×60×50cm)、P₂(77×70×35.5cm)。(遺物)総数549点。土師坏1点・須恵坏・須恵蓋各1点・鉄器1点。(備考)出土遺物などから本住居址は9世紀前半であると思われる。

H-53号住居址 (B区、Fig. 25·53、PL. 3·12)

(形状)住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 1基検出。 P_+ (44×36×16cm)。(重複) H-56と重複し、構築順は本遺構→H-56である。(遺物)総数280点。須恵耳皿・土師質須恵高台塊各1点・灰釉陶器片4点・鉄滓3点。(備考) 周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀後半であると思われる。

H-54号住居址 (D区、Fig. 25⋅53、PL. 6⋅7⋅12)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長97cm、焚口部幅49cmを測る。(遺物)総数1,371点。土師坏3点(墨書土器2点)・須恵坏4点・須恵皿2点・陶磁器片1点・鉄器1点・鉄滓2点。(備考)西辺北寄に床下土坑1基(160×88×42cm)検出。周溝有り。床面北東隅等にも周溝跡が認められ、存続中に住居規模を広げたものとみられる。また竈上部より煙道部煙出しに使用したとみられる甕が出土。出土遺物などから本住居址は8世紀末~9世紀前半のものと思われる。

H-55号住居址 (B区、Fig. 26)

(形状)住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(柱穴) 2基検出。P₁ (96×72×40cm)、P₂ (80×68×25cm)。(遺物)総数78点。灰釉陶器 片 2点・陶磁器片 1点。(備考) 出土遺物などから本住居址は10世紀後半であると思われる。

H-56号住居址 (B区、Fig. 25·53、PL. 4·12)

(形状) 方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置し、全長70cm、焚口部幅62cmを測る。(柱穴) 2 基検出。P₁ (96×112×27.5cm)、P₂ (170×100×39cm)。

(重複) H-53・工房址1・2と重複し、構築順はH-53・工房址1・2→本遺構である。(遺物) 総数544点。土師質須恵高台埦(墨書土器)1点・灰釉高台埦1点・灰釉陶器片25点・砥石1点・鉄 鏃1点・鉄滓3点。(備考)南側に周溝有り。中央部に床下土坑1基検出。出土遺物などから本住居 址は10世紀後半であると思われる。

H-57号住居址(B区、Fig. 26·53)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) ほとんど残っていないが一部に堅緻面。(竈) 東壁南寄りに位置し、全長38cm、焚口部幅37cmを測る。

(柱穴) 1基検出。P. (64×52×37cm)。(重複) H-45と重複し、構築順は本遺構→H-45である。 (遺物) 総数52点。土師甕1点。(備考) 出土遺物などから本住居址は8世紀前半と思われる。

H-58号住居址(B区、Fig. 26)

(形状)住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦であるが堅緻面は認められず。(重複) W-3と重複し、構築順は本遺構 \rightarrow W-3である。(遺物) 総数25点。(備考) 出土遺物などから本住居址は11世紀初頭と思われる。

H-59号住居址(B区、Fig. 27·54、PL. 4)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長63cm、焚口部幅36cmを測

る。(柱穴) 2 基検出。 P_1 (26×22×15cm)、 P_2 (34×24×12cm)。(重複) $D-129\cdot136$ と重複し、構築順はD-136→本遺構 $\rightarrow D-129$ である。(遺物)総数231点。土師質須恵高台塊 1 点・灰釉陶器片 5 点。(備考) 周溝有り。出土遺物などから本住居址は 9 世紀後半と思われる。

H-60号住居址 (D区、Fig. 27·54、PL. 6·16)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長74cm、焚口部幅37cmを測る。(柱穴)(壁面及び周囲に)8基検出。P₁(78×44×27cm)、P₂(37×37×24cm)、P₃(54×52×22.5cm)、P₄(35×46×20cm)、P₅(44×35×12cm)、P₆(30×28×36cm)、P₇(30×26×29cm)、P₈(34×32×36cm)。(遺物)総数193点。土師坏3点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀後半と思われる。

H-61号住居址 (D区、Fig. 28·54、PL. 6·7·12·13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)西壁南寄りに位置し、全長98cm、焚口部幅46cmを測る。(貯蔵穴・柱穴)11基検出。P:(48×45×57cm)、P。(45×42×70cm)、P。(86×60×60cm)、P。(72×48×60cm)、P。(隅丸方形の貯蔵穴)(130×100×93cm)、P。(70×68×26cm)、P;(62×57×36cm)、P。(90×70×37cm)、P。(25×22×51cm)、P。(40×38×12cm)、P』(50×46×28cm)。(重複)D−144・158・160・161・236・掘立柱遺構B−4号と重複し、構築順は本遺構→掘立柱遺構B−4号→土坑群である。(遺物)総数565点。土師坏・土師甕各2点。(備考)周溝有り。間仕切り溝9条検出。南辺中央部に馬蹄形の入口部有り。出土遺物などから本住居址は6世紀末~7世紀初頭のものと思われる。

H-62号住居址(D区、Fig. 29·54)

(形状)長方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁南寄りに位置し、全長132cm、焚口部幅33cmを測る。 H-71竈の造り替えとみられる。(貯蔵穴・柱穴)5基検出。P₁(貯蔵穴)(140×110×64cm)P₂ (105×77×32cm)、P₃(66×54×13cm)、P₄(50×28×21.5cm)、P₅(27×24×12cm)。

(重複) H-66・71と重複し、構築順はH-66→H-71→本遺構である。(遺物)総数986点。土師 坏1点・陶磁器片2点・土錘2点・鎌・鉄製紡錘車・鉄斧各1点・鉄器2点・鉄滓1点。(備考) 周 溝有り。H-71の主軸を真東に変え造り替えたものとみられる。出土遺物などから本住居址は9世紀 前半と思われる。

H-63号住居址(D区、Fig. 30·54、PL. 6·7·13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し張出部を有する。全長102cm、焚口部幅25cmを測る。(貯蔵穴・柱穴)4基検出。P.(37×34×35cm)、P.(65×54×38.5cm)、P.(32×32×33.5cm)、P.(68×50×65.5cm)。(遺物)総数107点。土師坏5点・土師小甕1点・陶磁器片1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は5世紀末~6世紀初頭のものと思われる。

H-64号住居址(D区、Fig. 30·54、PL. 6·13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長72cm、焚口部幅25cmを測る。(柱穴)5基検出。P₁(31×31×41.5cm)、P₂(36×30×40cm)、P₃(42×36×42cm)、P₄

(80×70×40cm)、P₅ (95×68×38.5cm)。(遺物)総数167点。土師坏2点・陶磁器片3点・釘3点。 (備考) 周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀初頭と思われる。

H-65号住居址(D区、Fig. 31·54、PL. 13)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 3 基検出。P₁ (26×26×68.5cm)、P₂ (26×19×62cm)、P₃ (15×15×27cm)。(遺物)総数379点。土師高坏脚部1点・鉄器2点。(備考) 周溝有り。間仕切り溝3条検出。床面に火災を受けた痕跡とみられる炭化物が多く認められる。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H-66号住居址(D区、Fig. 29·54、PL, 6·13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)南壁西寄りに位置し張出部を有する。全長76cm、焚口部幅35cmを測る。(柱穴) 6基検出。P,(33×30×19.5cm)、P₂(28×28×33cm)、P₂(76×54×67.5cm)、P₄(35×34×49cm)、P₂(62×48×24cm)、P₂(33×28×25cm)。(重複)H-62・71と重複し、構築順は本遺構→H-71→H-62である。(遺物)総数194点。土師甕1点・鉄器1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は6世紀中頃と思われる。

H-67号住居址(D区、Fig. 32·54)

(形状) 方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 8 基検出。 P_1 (30×22×51.5cm)、 P_2 (38×28×24.5cm)、 P_3 (46×40×86cm)、 P_4 (38×30×21cm)、 P_5 (98×88×102.5cm)、 P_6 (30×25×25cm)、 P_7 (29×27×21.5cm)、 P_8 (30×23×19.5cm)。(重複) $J-7\cdot D-167$ と重複し、構築順はJ-7 →本遺構 D-167である。(遺物) 総数97点。土師甕1点。(備考) 周溝有り。間仕切り溝7条検出。床面に火災を受けた痕跡とみられる炭化物が多く認められる。出土遺物などから本住居址は7世紀後半と思われる。

H-68号住居址 (D区、Fig. 31·55、PL. 6·13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(鑑)東壁南寄りに位置し、全長54cm、焚口部幅35cmを測る。(柱穴)8基検出。P₁(30×30×33.5cm)、P₂(37×33×20.5cm)、P₃(22×18×17.5cm)、P₄(62×46×18.5cm)、P₅(40×20×29.5cm)、P₆(34×32×23cm)、P₇(44×12×50cm)、P₈(30×25×50cm)。(重複)D-162と重複し、構築順は本遺構→D-162である。(遺物)総数82点。土師坏1点・陶磁器片1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀初頭と思われる。

H-69号住居址 (D区、Fig. 33·55、PL. 7·13)

(形状) 住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長76cm、焚口部幅29cmを測る。(柱穴) 8 基検出。 P₁(52×50×31cm)、P₂(27×22×18.5cm)、P₃(30×26×20.5cm)、P₄(37×25×18cm)、P₅(78×66×37.5cm)、P₅(80×56×27cm)、P₇(90×72×33.5cm)、P₈(120×88×42cm)。

(遺物)総数105点。土師坏1点・須恵高台城2点・刀子1点。(備考)出土遺物などから本住居址は9世紀中頃と思われる。

H-70号住居址 (D区、Fig. 33·55、PL. 7·13)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置するとみられ、全長70cm、焚口部幅45cmを測る。(柱穴) 3基検出。 P, (34×34×34cm)、P₂(35×30×26cm)、P₃(70×35×24cm)。(遺物)総数1,574点。土師甕2点・須恵坏・須恵高台埦各2点・灰釉長頸壺・灰釉高台埦各1点・陶磁器片1点・鉄器1点・鉄滓1点。(備考)出土遺物などから本住居址は9世紀末と思われる。

H-71号住居址(D区、Fig. 29、PL. 7)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置し、全長134cm、焚口部幅54cmを測る。(柱穴)1基検出。P₁(36×32×19cm)。(重複)H-62・66と重複し、構築順はH-66→本遺構→H-62である。(遺物)総数143点。墨書土器1点・紡錘車1点。(備考)出土遺物などから本住居址は9世紀初頭と思われる。

H-72号住居址(C区、Fig. 34)

(形状)住居東側が削平されており、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(重複) D-181と重複し、構築順は本遺構 \rightarrow D-181である。(遺物)総数52点。(備考)床 直上から検出された遺物もなく、年代の特定は困難である。

H-73号住居址(E区、Fig. 34·55·56、PL. 8·14)

(形状)住居西及び北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長98cm、焚口部幅40cmを測る。(柱穴) 4 基検出。P₁(28×27×23cm)、P₂(40×32×18.5cm)、P₃(52×50×31cm)、P₄(23×20×27.5cm)。 (遺物)総数63点。土師甕1点・土師質須惠盤・土師質須恵足高高台埦各1点・灰釉陶器片2点・鉄器1点・鉄滓3点。(備考)出土遺物などから本住居址は10世紀後半~末のものと思われる。

H-74号住居址 (E区、Fig. 35·56、PL. 8·14)

(形状)住居南及び北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置するとみられ、全長112cm、焚口部幅26cmを測る。両袖に袖石、天井部・焚口中央部に支柱石、焚口内部に甕3基を検出。(柱穴) 6基検出。P₁(24×22×48.5cm)P₂(21×17×10cm)、P₃(22×21×21cm)、P₄(26×(13)×59cm)Pѕ(22×21×11cm)、Pډ(19×18×37.5cm)。(遺物)総数199点。土師坏・土師小型広口甕各1点・土師甕2点。なお、土師小型広口甕出土位置最寄脇から顔料塊を検出。大きさ・位置から同甕が容器であった可能性が高い。(備考)周溝有り。壁際に盛土跡が認められる。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H-75号住居址(E区、Fig. 34)

(形状)住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長62cm、焚口部幅10cmを測る。(柱穴) 1基検出。 P₁(184×(138)×41cm)。(遺物)総数147点。(備考)出土遺物などから本住居址は6世紀後半~ 7世紀前半のものと思われる。 H-76号住居址 (E区、Fig. 36·56、PL. 8·14)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁南寄りに位置し、全長90cm、焚口部幅50cmを測る。

(柱穴) 1 基検出。P₁ (70×52×22cm)。(重複) H-81と重複し、構築順はH-81→本遺構である。

(遺物)総数175点。須恵高台城1点。(備考)出土遺物などから本住居址は10世紀初頭と思われる。

H-77号住居址(E区、Fig. 36·56、PL. 9·14·15·16)

(形状)住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置するとみられ、全長104cm、焚口部幅45cmを測る。(柱穴) 3 基検出。 P₁(55×52×16cm)、P₂(140×110×35.5cm)、P₃(148×115×15.5cm)。(重複) H−80と重複 し、構築順はH−80→本遺構である。(遺物)総数658点。土師甕1点・須恵坏・須恵高台境各1点・ 鉄滓1点。(備考) 周溝有り。H−80の造り替えとみられる。出土遺物などから本住居址は9世紀後 半と思われる。

H-78号住居址(E区、Fig. 37·56、PL. 15)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置し、全長135cm、焚口部幅40cmを測る。(貯蔵穴・柱穴) 2 基検出。 P₁(貯蔵穴) (38×32×38cm)、P₂((28)×24×23cm)。(遺物) 総数254点。土師坏・土師甕各1 点。(備考) 出土遺物などから本住居址は8世紀末頃と思われる。

H-79号住居址(E区、Fig. 37·56)

(形状)住居東及び西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で堅緻。(柱穴) 3 基検出。P₁(33×25×38.5cm)、P₂(28×20×16.5cm)、P₃(34×23×29 cm)。(遺物)総数46点。土師坏1点。(備考)周溝有り。床面に炭化物検出。出土遺物などから本住居址は6世紀頃のもの思われる。

H-80号住居址 (E区、Fig. 38、PL. 9)

(形状)住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置するとみられ、全長72cm、焚口幅35cmを測る。(重複) H-77と重複 し、構築順は本遺構→H-77である。(遺物) 総数95点。(備考) 南側に周溝有り。出土遺物などか ら本住居址は8世紀頃のものと思われる。

H-81号住居址 (E区、Fig. 38·56、PL. 9·15)

(形状) 長方形。(床面) 平坦で堅緻。(竈) 東壁ほぼ中央に位置し、全長80cm、焚口部幅34cmを測る。(柱穴) 4基検出。P₁(30×26×19cm)、P₂(30×24×22cm)、P₂(32×28×18.5cm)、P₄(30×25×22cm)。(重複) H-76と重複し、構築順は本遺構→H-76である。(遺物) 総数348点。陶磁器片 2 点・鉄器 1 点。(備考) 壁内側周囲に盛土部分検出、壁材とみられる。出土遺物などから本住居址は 9 世紀後半と思われる。

H-82号住居址(E区、Fig. 39·56、PL. 9·15)

(形状) 住居北東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦

で堅緻。(竈) 南西壁ほぼ中央に位置し、全長118cm、焚口部幅18cmを測る。(貯蔵穴・柱穴) 3 基検出。P, (72×62×44.5cm)、P。(68×42×69cm)、P。(貯蔵穴) (114×92×85cm)。

(重複) D-213と重複し、構築順はD-213→本遺構である。(遺物) 総数242点。土師坏・土師小 甕各1点。(備考) 周溝有り。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H-83号住居址 (E区、Fig. 40、PL. 9)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面) 平坦で 堅緻。(竈) 東壁に位置し、全長33cm、焚口部幅14cmを測る。(柱穴) 1基検出。P₁(44×(23)×36 cm)。(遺物) 総数14点。(備考) 床直上から検出された遺物もなく、年代特定は困難である。

H-84号住居址(E区、Fig. 40·56)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(竈)東壁南寄りに位置し、全長50cm、焚口部幅35cmを測る。両袖は認められず。(遺物)総 数91点。(備考)出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H-85号住居址 (E区、Fig. 40·57、PL. 9·15)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で 堅緻。(竈) 東壁南寄りに位置し、全長60cm、焚口部幅36cmを測る。(遺物)総数73点。土師坏1点。 (備考)出土遺物などから本住居址は6世紀中頃と思われる。

H-86号住居址(E区、Fig. 40·57、PL. 9·15)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(竈)北北東壁に位置するが、西側が調査区外であり規模については不明。(柱穴)1基検出。P₁(28×26×16.5cm)。(遺物)総数37点。土師坏1点・須恵腺(5世紀後半~)1点。(備考)出土遺物などから本住居址は6世紀初頭と思われる。

2. 土 坑

D-87号土坑 (B区、Fig. 49)

B区南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数16点。縄文土器片を出土。構築時期は不明。

D-104号土坑 (B区、Fig. 49)

B区北側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、楕円形を呈するものとみられる。遺物 総数14点。滑石製の玦状耳環を出土。構築時期は不明。

D-108号土坑 (B区、Fig. 49)

B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部が楕円形となる。遺物総数27点。灰釉陶器・ 陶磁器片を出土。焼土が検出され、火葬墓の様相を呈する。出土遺物などから構築時期は9世紀末頃 とみられる。 D-123号土坑 (B区、Fig. 49、PL. 4·16)

B区南側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、楕円形を呈するとみられ1段下がって底部になる。遺物総数329点。ほぼ原形をとどめた注口土器(堀之内Ⅱ式・縄文前期) 1 点のほか、硬質頁岩・頁岩製の打製石斧 2 点、縄文土器片を出土。出土遺物などから構築時期は縄文時代前期とみられる。

D-124号土坑(B区、Fig. 57、PL. 15)

B区南側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、円形を呈するとみられ2段下がって底部になる。遺物総数78点。ほぼ完形の坏を含む土師器が多量に出土。出土遺物などから構築時期は8世紀中頃とみられる。

D-125号土坑 (B区、Fig. 49)

B区北側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数31点。灰釉陶器片を出土。出土遺物などから構築時期は10世紀後半とみられる。

D-126号土坑 (B区、Fig. 57、PL. 15)

B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部になる。遺物総数10点。土師質須恵高台城1点、鉄滓を出土。出土遺物などから構築時期は9世紀前半とみられる。

D-127号土坑 (B区、Fig. 49)

B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部になる。遺物総数30点。縄文土器・灰釉陶器 片、鉄滓を出土。構築時期は不明。

D-138号土坑 (D区、Fig. 50)

D区北端で検出。形状は円形を呈する。遺物総数11点。焼土が多量に残り、焼土坑と思われる。出土 遺物などから構築時期は6世紀代とみられる。

D-143号土坑(D区、Fig. 50)

D区北側で検出。形状は楕円形を呈する。遺物総数 8 点。出土遺物などから構築時期は縄文時代とみられる。

D-173号土坑 (C区、Fig. 50、PL. 16)

C区中央南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数61点。縄文浅鉢 1 点、縄文土器片を出土。出土遺物などから構築時期は縄文時代とみられる。

D-193号土坑 (E区、Fig. 42)

E区西側北端で検出。形状は円形を呈し、J-6と重複する。構築順はJ-6→本遺構である。遺物 総数24点。硬質頁岩製の石鏃・打製石斧各1点のほか、縄文土器片、石器を出土。構築時期は不明。 D-199号土坑 (E区、Fig. 51)

E区南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数4点。安山岩製の打製石斧を出土。構築時期は不明。

D-213号土坑 (E区、Fig. 39)

E区西側で検出。形状は南北1.96m、東西1.9mの隅丸長方形を呈し、H-82と重複する。構築順は本遺構→H-82である。両遺構とも主軸が同方向であることなどから、H-82の構築直前に構築しかけた住居の放棄埋土坑であると思われる。遺物総数3点。時期は6世紀後半とみられる。

D-233号土坑 (D区、Fig. 43)

D区北側で検出。形状は円形を呈し、J-7と重複する。構築順はJ-7→本遺構である。遺物総数 46点。縄文土器片を出土。構築時期は不明。

3. 溝 址

W-1号溝址(A区、Fig. 51)

A区西側で検出。調査区を南北に走るが、南側は調査区外、北側でH-46と重複する。構築順はH-46→本遺構である。H-46の南壁を切り、住居内で途切れるものと思われる。断面は不整形である。遺物総数196点。縄文土器・灰釉陶器片出土。構築時期は不明。

W-2号溝址(B区、Fig. 51)

B区中央寄りで検出。調査区東側で二股に分岐し東西に走る。東・西側とも調査区外に続くとみられる。断面はU字形を呈する。遺物総数55点。4面に使用痕の認められる砥石を出土。構築時期は不明。

W-3号溝址(B区、Fig. 26、PL. 15)

B区北側で検出。調査区を東西に走るが、西側は調査区外、東側でH-58と重複する。構築順はH-58→本遺構である。断面はU字形を呈する。遺物総数116点。土師質のカワラケを出土。出土遺物などから構築時期は11世紀初頭とみられる。

W-4号溝址(B区、Fig. 48)

B区ほぼ中央で検出。調査区を東西に走るが、西側は調査区外、東側で工房址1・2と重複する。構築順は本遺構→工房址1・2である。断面はU字形を呈する。遺物総数23点。縄文土器・灰釉陶器片を出土。構築時期は不明。

W-5号溝址(E区、Fig. 51)

E区西側で検出。調査区を南北に走る。南・北側とも調査区外に続くとみられる。断面はU字形を呈する。構築時期は不明。

4. 井 戸 址

I-3号井戸址 (C区、Fig. 51)

C区中央北寄りで検出。規模1.6×1.25m、深さは確認可能範囲で1.32mを測る。形状は隅丸長方形を 呈しローム層を掘り込み構築されているが、一部にカクランが認められる。遺物総数118点。硬質頁 岩・頁岩製の打製石斧3点、縄文土器片を出土。構築時期は不明。

5. 工 房 址

位 置 X21~22, Y73

遺 構 西側に道路が南北に走り、さらに遺構北側にはW-4の溝状遺構が走り、その上、遺構上面の土層がかなり削られていたため、詳細は不明である。にもかかわらず、これを工房址と認定したのは、焼土の入った円形土坑が集中してみられたこと、焼土に混じって鉄滓の小片を伴うものが2~3あったことによる。即ち、周辺の遺跡から発見される鍛治工房址床面を何回も掘り返して滓を埋め込むものが多い事例から想定したものである。

当然、これら焼土を含む土坑は、竪穴状に掘りくぼめた中の床面に鍛治炉を地床炉という形で掘り、その周辺に廃棄穴を掘ることが推定される。しかし、ここでは既に上の面が削りとられていて、竪穴の範囲を確認することはできなかった。

土 坑 東西 6 m、南北 4 m ほどの範囲に14個ほどの小土坑が群在する。土坑の規模は大型で長径150cm、短径100cm、深さ30~40cm、小型で70cm×80cm、深さ30~40cmである。これらの埋土はロームブロックを多量に含むことから、意図的に埋められたことが確実である。

これらの中には重複して掘り込まれたものもあり、やや長期にわたって機能していたことが推察される。この土坑群が1つの竪穴状の範囲におさまるか、2つに分かれるかは、上面での確認が不確実であるため即断できないが、西に寄った部分に炉状の痕跡が認められることからすると2つに分かれることも考えられる。

重複関係 東側に竪穴住居 $H-53 \cdot 55 \cdot 56$ が検出されているが、特に土坑はH-56号住居の中までのびている。前後関係からみるとH-56号住居の床面が上にのる状況が明らかで、工房址が先行する。

時 期 H-56号住居の時期は10世紀後半で、工房址の土坑中から出土した皿状の土器は9世 紀後半の須恵器であるので時期的な齟齬はない。

6. 掘立柱遺構

B-1·2·3号

位 置 B区 X23~24, Y66~67

遺 構 全体的に柱穴状のピットがたくさん検出されたが、明らかに掘立柱建物とするには、

根拠が薄弱なものが多い。ここでは、とりあえず直線上にのる掘り方の類似するものを B-1-3 号まで取り上げたが、それらを整理すると次のようである。

	柱間数	柱間寸法	径 (cm)	深さ (cm)	主軸方位	備	考
B – 1	2	280cm (140+140)	20 ~ 30	35 ~ 50	N-56°-W		
2	2	390cm (160+230)	38 ~ 50	75 内外	N-67"-W	中央重複	
3	2	620cm (310+310)	15 ~ 40	35 ~ 60	N-27*-E	穴がふぞろい	

以上のB-1-3号については、積極的に掘立柱建物を想定することはできない。特にB-3号はピットの不整一さから考えにくい。B-1-2号については掘り方がしっかりしており、形状にもやや統一性がみられるから多少確度は高まるかもしれない。あえて可能性をいえば、B-2号の掘り方、形状などの共通性から、建物又は柵列状のものを想定してよいかもしれない。

時 期 各遺構とも積極的に時期を特定する出土遺物はないが、遺構(柱穴)の掘り方が小型・ 円形であること、規模の統一性に欠けること、方向がH-52・55・56号住居などと近似 すること等から、10世紀頃のものと判断される。

B-4号

位 置 D区 X-81~83, Y-39~40

遺 構 H-61号住居(7世紀初頭)の上に重なる状態で検出された掘立柱建物で、規模もほぼ類似する。西・南側柱列が壁外にあるため比較的明瞭であるので、それを規準に柱間、ならびを考えることにする。

まず南側列のピットは 4 本、西側列にも同数で直交する角度をもつ。主軸方位はN-2°-E、各柱間は西側列600cm(南より 180+210+210)、南側列710cm(西より 250+250+210)の数値が得られた。これでみると、南・東側柱列がやや狭くなる傾向を指摘できる。しかし、他の部分は他遺構と重複するところから不明確であるが、西側列210cm等間 2 間、南側列250cm等間 2 間の身舎に南・東に庇をもつ二面庇建物とみることが妥当と考えられる。

また、柱穴の掘り方からみて、長方形気味の隅丸方形の掘り方の中に柱痕をもつ形の 比較的古い形を残している。

時 期 奈良時代後半頃のものとみられる。

B-5号

位 置 E区 X-86~87, Y-22~23

遺 構 南北にのびる台地の東縁辺部に掘立柱建物の東側柱列とその西の2柱穴を検出したが、他は区域外のため未調査。東西棟、主軸方位はN-10°-E、柱穴掘り方は円形中型で、径は90cm、深さ60cm内外と一定している。現在検出されている柱穴の柱間はすべて200cmで等間である。比較的整った大型掘立柱建物の可能性がある。

時 期 周辺の竪穴住居との位置関係、柱穴からの出土遺物からみて、9世紀後半頃のものと みられる。 B-6号

位 置 E区 X-86~87, Y-27~28

遺 構 小型円形柱穴、2×3間の南北棟である。柱穴の規模は径50cm、深さ40cm内外で一定 している。柱間寸法は東側柱列(桁行720cm (260+210+260))、北側柱列(梁行360cm (180+180))。台地の東側からの方向を意識した中央の柱間を狭くとった間取りであ る。

時期 柱穴のつくり、規模、出土遺物からみて平安期(9世紀後半)頃のものと考えられる。

B-7号

位 置 E区 X-86~87, Y-27~28

遺 構 B-6号と重複する遺構で、東西棟、径30cm、深さ30cmの小規模な柱穴で東側柱3、 北側柱2の柱穴を検出したが、直交させるのに難があり、柱間も180・160・210cmとま ちまちであるので掘立柱建物ではない可能性もある。

時期 柱穴の掘り方が小規模で浅く、時期的には10世紀頃のものか。

B-8号

位 置 E区 X-86~87, Y-27~28

遺 構 B-6号と重複する遺構で、南北2間・東西1間を検出したが、B-7号同様な規模と柱穴配置の傾向が指摘される。南北2間420cm(210等間)、東西間260cmである。

時期 建物とすれば10世紀後半頃のものとみられる。

B-9号

位 置 E区 X-81, Y-11

遺 構 東西方向2間、南北方向2間分の柱穴を検出した。建物として成り立つか否かは疑問。 径30cm弱、深さ30cm内外の円形の掘り方をもつ。各柱穴間の寸法も100・130・90cmとま ちまちである。

時 期 建物とすれば平安後期のものか。

Tab. 1 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡遺構一覧表

住居址一覧表

遺標名(調査区)	位	置	規模(m)東西×南北	面積(㎡)・壁高(畑)	主軸方向	癥	備考		時月	ij	Fig
J-3 (B)	702.1	755	321 × 390	PERCHANTANCE.	N-17°-E		中央部北西寄りに焼土範囲。周囲に6基の柱穴。		3341 2	後 期	10.75
J-4 (C)	X57,	Y49~50	(137)× 357	(4,54) 38,5	N-12°-W	_	北西隅寄りに柱穴1基。床面・壁面残存一部。	縄	文丨	時 代	41
J-5 (E)	X88~89,	Y 2 ~ 3	(354)× (226)	(5.60) 20.5	N-101° - E		東隅付近に柱穴1基。	繩	文	中期	42
J-6 (E)	X83~84,	Y 1 ~ 2	(348)× (450)	(12.29) 21.0	N-10°-E	_	D-193と重複。中央部に石組みの炉址。石錐出土。柱穴 2 基。	縄	文	中期	42
J-7 (D)	X79~80,	Y39~40	335 × (300)	(10.14) 29.0	N-119° - E		D-233と重複。中央部-東西寄り・南東隅・南辺・北辺寄り等に柱穴10基。	縄	文)	前期	43
J-8 (D)	X78~79,	Y38~40	340 × (248)	(7.40) 16.5	N-132° - E		北東隅~北辺・東辺隅に柱穴6基。	縄	文)	前 期	43
H-43 (A)	X31~32,	Y111	(238)× (125)	(2.65) 20.0	N-91°-E	東辺南寄	H-46、51と重複。床面残存一部。	8	С	後	20
H-44 (A)	X33~34,	Y111~112	(286)× (344)	(8.68) 16,0	N-123° - E	東辺中央	H-50、51と重複。東南隅に貯蔵穴・中央部に床下土坑各1基。	9	С	中	20
H-45 (B)	X20~21,	Y78~79	341 × 434	13, 12 45, 5	N-91°-E	東辺中央	周溝。H-57と重複。東南・北西・中央付近に柱穴3基。	8 C	末~	9 C初	21
H-46 (A)	X31~32.	Y111	474 × (267)	(8.67) 38.0	N-73°-E		周溝。H-43、W-1と重複。南辺両隅及び中央部東西辺寄りに柱穴4基。	7 C	末~	8 C初	20
H-47 (A)	X37~38.	Y112~113	(106)× 385	(3,50) 18,0	N-10°-E			不	100	明	21
		Y111~112	434 × (435)	(13.37) 53.0	N-66°-E	東辺南寄	 周溝。竈南に一部カクラン。東辺竈南隣に貯蔵穴1基。北辺寄隅に柱穴2基。	8 C	末~	9 C初	22
H-49 (A)	- 0		433 × (278)	(8,72) 31.0	N-70°-E		東南隅及び中央付近東西辺寄りに柱穴3基。	8	С	初	22
	CASON, CONT	Y111~112	396 × 452	15,58 27,0	N-93°-E	東辺中央	周溝。H-44、51と重複。東南隅から西辺寄りに柱穴5基。床下土坑1基。	8 C	末~	9 C初	23
H-51 (A)	Should the	Y111~112	(631)× (483)	V200 000 1 000 0	N-124° - E		H-43.44.50と重複。中央部に炉。間仕切漉2条(ペッド状造構)。柱穴8基。	4	C	中	24
H-52 (B)	2022 -00	Y 64	(275)× 293	100000000000000000000000000000000000000	N-100° - E	東辺南客	北東隅及び北辺寄りに柱穴2基。	9	С	前	+
H-53 (B)	HC201117 VD90	Y72~73	(305)× 385	(9,16) 26,0		0.55,8117.54	周溝。H-56と重複。南辺中央部寄りに柱穴1基。須恵耳皿出土。	2000	C	後	1110
H-54 (D)		E 12	337 × 375	U-988 -888	NAME OF THE OWNER.	東辺中央	関連。西辺北客りに床下土坑1基。床面に住民拡張の痕跡と見られる旧周溝。懸香土器出土。		末~	9 C前	-
H-55 (B)		Y73~74	(95)× 370	E-50/200 1/03/0	N-5*-E	175	北西及び南西隅に柱穴2基。	10	С	後	10.00
H-56 (B)	WARRY TO SERVE	Y72~73	335 × 477	A 1111122 Depte	90 000 000	市辺中中	Street that to construct out the street. On other street share that the	10	С	後	
H-57 (B)	3100 010	BUS 08	(167)× (384)		-		H-45と重複。床面残存一部。北辺寄りに柱穴1基。	8	C	前	+
H-58 (B)	00000	Y 67~68	(110)× (375)	DAMESTER STORY	N-10°-E	ALAZIM N	W-3と重複。	11	С	初	+
H-59 (B)	Sec. 100	20MS 550	280 × 300	1 7 7 7 7 7	300001/100	重初由中	周溝。D-129、136と重複。北辺及び南辺寄中央部に柱穴2基。	9	C	後	-
H-60 (D)	cone gui	JANSO EVE	398 × 414	ACCOUNT CONST	EMEDIEC VEN	302537.53	周溝。壁面隅及び周囲に柱穴8基。	9	C	後	-
H-61 (D)	Street, and	Y 38~40	680 × 660	100 miles	There's the Sport of		国津。 間仕切清 9 条。 市辺中央部に馬着形入口。 南西隅に方形の貯蔵穴 1 基。 柱穴10基。	WICKS	S2.5 7	7 C初	
H - 62 (D)	3000 3001	Y 44~45	387 × 470	=150 560			周溝。H-66、71と重視。71の造り替えか? 南東隅に貯蔵穴1基。柱穴4基。		C	前	-
H-63 (D)		Y 42~43	414 × 392	1000000 -00000	TOTAL STREET	310000111103	周溝。南東隅に貯蔵穴!基。南西陽・中央付近東西等りに柱穴3基。外斜口緑土師坏出土。	140.00	- M	6 C 初	-
H-64 (D)		Y41	495 × 492	1750-25 SEO	N-88°-E	24.55 EV. 01	周涛。北東・南西隅、南辺中央部に柱穴5基。	9	C	初初	
H-65 (D)	GREEN COSE	COL	(507)× 785	A(40 (1)) (1)(25)	N - 7°-W	State U. By	国講。同任切清3条。北東・南東陽寄りに社穴3基。火災の痕跡と見られる炭化物あり。	6	C	後	-
Te 201255	POWER BOS	GULL DE	484 × 460	777000 VV700	1.7.00000000000000000000000000000000000		周溝。H-62、71と重複。中央部・南辺中央等に柱穴6基。	6	C	中	
H-66 (D)	AUA	51-52 1-23	200	20075 200		HIZZEN	周涛。 J - 7、D - 167と重複。同任切書 7条。柱穴 8基。床面に炭化物、火災住居か?	7	C		-
H-67 (D)	F 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	10000 000	577 × (605)	ELIZABETH STORY	N-15"-E	ar makes	周溝。D-162と重複。四方隅・南辺中央等に柱穴8基。	175-1	- 20	後	
H-68 (D)		503 v 503	370 × 380	The second second	001 205/122	332015	TOTAL	8	C	初中	-
H-69 (D)	1980 C. S. (1)	(T) (M) (C) (C)	372 × (322)	Medical Aed	24/ 50 50	Mee Kas	中央付近・南東隅・南辺南西寄り等に柱穴8基。	9	- 22		-
H-70 (D)	PORCE ARE	2200	350 × (375)	L Marthy System	0.00 00000000		南西・南東隅・北辺中央寄りに柱穴3基。灰釉長頸壺出土。	9	С	末	
H-71 (D)	10000	-	330 × 304			11.000	日-62、66と重複。主軸を真束に変え62に造り替えか? 北西隅に柱穴 1 基。墨書土器。	9	С	初	
H-72 (C)	- Control	Y49~50	(98)× 318	(2,92) 28.(D-181と重複。床面・壁面残存一部。	不	0 16	明	100
H-73 (E)	- T-	Y 1 ~ 2	(197)× (228)	Turners av no-	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	+1000097500	北東・南東隅・南辺外閣等に社穴4基。土師質須恵盤・土師質須恵足高高台堀出土。	10-	C 後	C32	
H-74 (E)	Learner mark	101 (%) 11	(502)× (375)	INVANCE AL ANA	550 180 120	CO.C. TORRESA	周澤。龍両袖に甍、天井部に支柱石。周囲に盛土跡。四方及びその結線上に柱穴6基。	6	C	後	-
H-75 (E)	Street, boy	100 PM	345 × (294)	Combet State	1000000	TV 10 14 17 17	南東隅寄りに柱穴1基。	17.7	160	7 C前	
H-76 (E)			275 × 290		-	77	日-81と重複。南東隅に柱穴1基。	10	С	初	
H-77 (E)		AND DECEMBER OF	420 × 426	- 37 CAV 194 E	(EN. 100 EN.	125,049,000,000	周溝。日-80と重複。80の造り替えか? 中央北辺寄り・北東・南東隅に柱穴3基。		C	後	
H-78 (E)	20000 200	aren a	(136)× 445	March Cold State	DOLL HOUSE		南東隅〜南辺に柱穴2基。うち1基は貯蔵穴。	8	С	未	
H-79 (E)	make nati	51 E E	(504)× (472)	Montesti soc	N -76° - E		周溝。炭化物あり。西辺中央付近に柱穴3基。	6		C	-
H-80 (E)	Received It level	Ve /IIIZUN	332 × 415	974757FC (4200)	Later Constitution	DATE STORY	南側に周溝。Hー77と重複。77に造り替えか?	8	-	C	
H-81 (E)			454 × 380		-	10 10 V	H-76と重複。壁内側周囲の盛土部分は壁材か?四方隅に柱穴4基。	25	С	後	
H-82 (E)	TANKS A	AND THE ST.	(510)× 606	Designation of the second	ISE WAS IN	-	周溝。D-213と重複。南隅に貯蔵穴1基。南・西隅付近に柱穴2基。		С	後	-
H-83 (E)	POSTER	Y19~20	(72)× (217)	(0,77) 24,0		17501000000	南東隅に柱穴1基。	不	-	明	100
H-84 (E)	SERVINOS	Y 24	(154)× 282	151 57/290 58 51555	N-92°-E	100000000000000000000000000000000000000	1027K.25-0-K.	6	С	後	-
H-85 (E)	X89,	Y 27~28	(126)× 336	SELECTION OF SELECTION OF	N-96°-E	100 000 000 000	A WAR TO A CONTROL OF THE A STATE OF THE STA	6	C	中	-
H-86 (E)	X90,	Y14~15	(196)× (297)	(3,08) 24,	N - 33° - E	北北東辺	東隅に柱穴1基。須恵醸出土。	6	C	初	1 40

土坑一覧表

遺構名 (調査区)	位 置	規 模 (m)	深さ(cm)	形状	重複・備考	時期	Fig.
D- 87 (B)	X20~21, Y77	1.18 × 1.08	87,5	円 形			49
D- 93 (B)	X21, Y74~75	0.60 × 0.58	26.5	円 形			49
D- 96 (B)	X20~21, Y74	0.82×0.80	43.0	円 形			49
D- 97 (B)	X 23, Y 72	0.57×0.52	34.0	円 形			49
D-101 (B)	X 23, Y 68	1.35 × 1.18	32.0	円 形			49
D-102 (B)	X23, Y67	0.40 × 0.35	23.0	円 形			49
D-104 (B)	X23~24, Y66~67	(1.57)× 1.36	31.0	楕円形	滑石製の玦状耳環出土。		49
D-107 (B)	X22, Y66	0.56×0.45	43.0	楕 円 形			49
D-108 (B)	X22, Y66	1.85 × 1.72	88.5	円 形	焼土検出。火葬墓の様相を呈する。	9 C 末	49
D-109 (B)	X23, Y66	0.57×0.44	36.0	楕 円 形			49
D-110 (B)	X22~23, Y67	0.43×0.39	86.0	円 形			49
D-111 (B)	X23, Y65~66	1.61 × 0.85	19.0	楕 円 形			49
D-112 (B)	X23, Y67	0.57×0.49	49.0	円 形			49
D-113 (B)	X23, Y66	0.47×0.44	22.0	円 形			49
D-115 (B)	X23, Y66	0.39 × 0.33	47.0	円 形			49
D-116 (B)	X 23, Y 66	0.35×0.30	28.0	円 形			49
D-117 (B)	X 23, Y 66	0.32 × 0.27	51.0	円 形			49
D-118 (B)	X22, Y67	0.45 × 0.42	64.5	円 形			49
O−120 (B)	X22, Y67	0.35 × 0.32	23.5	円 形			49
)-123 (B)	X22, Y75~76	(1,27)×(1,00)	67.0	(楕円形)	(堀之内式Ⅱ)注口土器、打製石斧出土。	縄文前期	49
)-124 (B)	X21-22, Y79~80	(3.02)×(1.46)	90.0	(円 形)	土師器等多量に出土。	8 C 中	57
)-125 (B)	X23, Y67	0.51 × 0.42	68.0	円 形	The control of the co	10 C 後	49
D-126 (B)	X22, Y66~67	0.42 × 0.36	44.0	円 形		9 C 前	57
D-127 (B)	X22, Y67	0.34 × 0.32	24.0	円 形		- 114	49
D-128 (B)	X22, Y67	0.41 × 0.36	43.0	円 形			49
)-129 (B)	X22, Y68	1.65 × 0.98	50,0	隅丸長方形	H-59		49
O−130 (B)	X23, Y67	0.36 × 0.27	16.0	円 形			49
0-131 (B)	X23, Y67	0.40 × 0.34	17.0	円 形			49
)-132 (B)	X23, Y67	0.46 × 0.38	20.0	円 形			50
0-133 (B)	X23, Y67	0.32 × 0.29	10.0	円 形			50
D-134 (B)	X23, Y68	0.27 × 0.21	16.0	円形			50
0-136 (B)	X22, Y68	0.56 × 0.53	24.5	円形	H-59		
0-137 (B)	X21, Y66	0.36 × 0.29	28.0	円形	11 - 05		50
D-138 (D)	X81, Y36	1.16 × 1.13	8,0	円形	焼土坑	6 C	50
D-139 (D)	X82, Y35~36	0.60 × 0.55	18.0	円形	NC.1-96	6 C	50
D-140 (D)	X84, Y36	0.41 × 0.54		181.E			50
D-141 (D)	X82~83, Y36	1.70 × (1.42)	9,5				33
0-142 (D)	X82, Y37		40.0	円 形			50
D-143 (D)	TANKS PART - PRODUCT	1,60 × 1,40	49.0	円 形		AM 1	50
D-144 (D)	X80~81, Y37~38	0.77 × 0.56	56.0	梅 円 形	** **	縄 文	50
	X83, Y38	1.06 × 0.86	42.0	楕円形	H-61		50
)-145 (D)	X83~84, Y39~40	1.32 × 1.00	59.0	楕円形	中に小穴が2つあく。		50
D-146 (D)	X83, Y40	1.42 × 1.26	34.0	円 形			50
)-148 (D)	X83, Y40~41	1.58 × 1.40	39.5	円 形	7. 100		50
)-149 (D)	X82, Y38	0.92 × 0.64	33.0	楕円形	D-162		50
D-154 (D)	X82, Y40	1.38 × 1.28	25.5	円形	92. 30		50
)-158 (D)	X83, Y39	1.43 ×(1.35)	25.0	円 形	H-61		28
)-160 (D)	X83, Y38	0.60 × 0.55	23.5	円 形	H-61		50
)-161 (D)	X82~83, Y38	1.16 × 7.6	31.0	楕 円 形	H-61		50
)-162 (D)	X82, Y38	1.32 × 0.87	31.0	楕 円 形	H-68, D-149		50
)-164 (D)	X77, Y43	1.44 × 1.25	34.5	円 形			50
-165 (D)	X81, Y39~40	1.88 × 1.66	25.5	円 形			50
-167 (D)	X80~81, Y39	1.66×1.35	26.0	円 形	H-67		32
-169 (D)	X83~84, Y39	1.21 × 0.68	29.0	楕 円 形			50
)-170 (D)	X76, Y48	0.55×0.48	33.5	円 形			50
-171 (D)	X77, Y47	0.48 × 0.45	36.5	円 形			50
)-172 (D)	X79, Y45	0.37 × 0.35	30.0	円 形			50
-173 (C)	X56, Y48	1.23 × 1.07	51.5	円 形	縄文浅鉢出土。	縄 文	50
)-175 (D)	X82, Y42	0.77 × 0.63	68.0	楕 円 形			50
)-181 (E)	X56, Y50	0.87 × 0.53	24.0	楕 円 形	H-72		34
)-182 (E)	X80, Y1-2	1.07 × 0.85	53.5	円 形			50
	X80, Y1	0.26 × 0.24	41.0	円形			50
)-190 (E)	X81, Y1~2	1.18 × 1.12	37.0	円形			51

遺構名(調査区)	位 置	規 模 (m)	深さ(cm)	形状	重複・備考	時期	Fig.
D-191 (E)	X81, Y2	0.44 × 0.43	36,0	円 形			51
D-192 (E)	X87~88, Y3	2.13 × 1.87	102.0	円 形			51
D-193 (E)	X83, Y1~2	1.62 × 1.43	44.5	円 形	J-6·石鏃、打製石斧出土。		42
D-195 (E)	X 90, Y 22	0.40×0.38	49.0	円 形			51
D-196 (E)	X91, Y22	0.62×0.46	32.0	楕 円 形			51
D-198 (E)	X90, Y23	0.83×0.78	56.5	円 形			57
D-199 (E)	X90, Y23	0.68 × 0.65	50.0	円 形	打製石斧出土。		51
D-201 (E)	X 90, Y 25	0.51 × 0.45	53,0	円 形			51
D-202 (E)	X89~90, Y25	0.55 × 0.48	48.0	円 形			51
D-203 (E)	X89, Y25	0,54 × 0.50	36.5	円 形			51
D-207 (E)	X 90, Y 27	0.30×0.28	36.0	円 形			51
D-208 (E)	X 90, Y 27	0.48×0.44	42.0	円 形			51
D-213 (E)	X84~85, Y2	1,96 × 1.90	81.0	隅丸長方形	H-82・構築しかけた住居の放棄埋土坑か。	6 C 後	39
D-224 (E)	X89, Y27	0.41 × 0.40	38.5	円 形			51
D-225 (E)	X91, Y4	0.37 × 0.35	33.5	円 形			51
D-227 (E)	X91, Y3	0.62×0.42	40.0	楕円形			51
D-228 (E)	X91, Y3	0.47×0.40	38.0	円 形			51
D-229 (E)	X91, Y3	0.32×0.28	25.0	円 形			51
D-230 (E)	X91, Y3	0.41×0.39	36,0	円 形			51
D-231 (E)	X91, Y3	0.33 × 0.28	50.0	円 形			51
D-233 (D)	X79, Y39	1,34 × 1,08	88.5	円 形	J-7		51
D-236 (D)	X82, Y40	0.48 × 0.75	35.0	円 形	H-61		51

溝址一覧表

遺構名(調査区)	位 置	方 位	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	長さ(m)	備考	時期	Fig.
W-1 (A)	X31~32, Y111~112	N-86°-E	1.2~1.7	1.0~0.4	0,62	2.4	H-46と重複。	不 明	51
W-2 (B)	X20~23, Y68~71	N-72°-W	0.6~1.5	0.2~0.8	0.31	23.4	砥石出土。	不明	51
W-3 (B)	X21~23, Y67~68	N - 74° - W	1.0~1.1	0.5~0.7	0,29	9.9	H-58と重複。	11C初	26
W-4 (B)	X20~22, Y72~73	N -89° - W	0.6~1.1	0.3~0.8	0.28	6.0	工房址1・2と重複。	不 明	48
W-5 (E)	X79, Y0~2	N-170°-W	0.8~1.3	0.4~0.9	0.31	4.2		不 明	51

井戸址一覧表

遺構名(調査区)	位	TASE	規 模	(m)	深さ(cm)	形状	備考	時期	Fig.
I - 3 (C)	X 46,	Y56~58	1.60 ×	1.25	1.32	隅丸長方形	一部カクラン。打製石斧出土。	不 明	51

Tab. 2 土 器 観 察 表

			1 111	vicini in		HI PAL	ж <u>ж</u>		
番号	出土位置	器形	大き口径	さ (cm) 語高	- ①胎土 ②焼成 ③色訓 ④残存	成·整 口 緑 · 胴 部	形方法	備考	Fig.
1	H - 4	3 土 師 坏				外領。横撫で。斃削り。	運削り 。	内外面にタール状の煤付着。雲母。	52
2	H - 4	4 土 師 坏	12.0	3,3	①粗粒②良好③橙④2/3	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	乾燥段階でひび割れになる。雲母。石英。	52
3	H - 4	4 土 師 坏	12.0	3,1	①中粒②良好③にぶい橙①2/3	外傾。横掛で。篦削り。	進削り 。	内面にタール状の煤。雲母。石英。	52
4	H - 4	5 須恵高台城	(67.2)	7.6	①細粒②良好③灰白④1/3	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。		52
5	H - 4	6 土 師 坏	10.2	3,2	①中粒②良好③橙④2/3	内湾。横撫で。篦削り。	蓮削り 。	雲母。石英。	52
6	H - 4	6 須 恵 坏	10.8	3.4	①中粒②良好③灰①完形	外類。轆轤進で調整。	鹿起こし。	口縁部から胴部にかけて歪み有り。	52
7	H - 4	6 土 師 瓶	22,4	14,1	①中粒②良好③にぶい黄橙④4/5	外反。横撫で。篦削り。	不明。	底部穿孔一穴。雲母。石英。	52
8	H - 4	6 土 師 蹇	23.0	34.2	①細粒②良好③黄橙①5/6	外反。横掛で。篦削り。		口縁部に最大径を持つ。雲母。石英。	52
9	H - 4	6 土 節 斃	23.6	36.9	①粗粒②良好③明黄褐④4/5	外反。撫で。たたき後篦削り。	進削り。	口縁部に最大径を持つ。雲母。	52
10	H - 4	8 土 節 坏	13.0	(3.5)	①繝粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾。横撫で。篦削り。		雲母。石英。	52
11	H - 4	8 土 節 斃	(25.0)	(30.7)	①細粒②極良③明赤褐④1/2	外領。横撫で。箆磨き。		胴部に最大径を持つ。雲母。	52
12	H - 4	9 土 師 坏	10.3	3.1	①中粒②良好③橙④1/2強	直立。横撫で。篦削り。	施削り。	雲母。石英。長石。	52
13	H - 5)土 節 坏	11.8	3.3	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。基で。篦削り。	節削り 。	霊母。	52
14	H - 5	1 節 坏	11.6	3.5	①中粒②良好③橙④2/3	外傾。横撫でによる弱い稜。篦	削り。連削り。	素母。石英。	52
15	H - 5	須 恵 坏	11.7	4,2	①織粒②良好③灰④ほぼ完形	外反。轆轤推で調整。	回転糸切未調整。	素母。石英。	52
16	H - 5	須恵高台城	(16, 2)	7,1	①中粒②良好③オリープ灰④1/2	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	高台密着部丁寧な仕上げ。雲母。	52
17	H - 5	坩	(9.6)	9.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外傾。横撫で。丁寧な篦磨き。	篦削り。中央部に窪み。	素母。	52
18	H - 5	土 節 甍	16.2	17.5	①細粒②良好③にぶい赤褐①1/3	外反。横撫で。丁寧な篦磨き。		顕都に磨きとタール状の煤。雪母。石英。	52
19	H - 5	土師高坏	(19.0)	(6.1)	①細粒②極良③にぶい黄橙④1/3	外反。撫で。刷毛目調整。		内面に刷毛目調整後暗文を施す。	53
20	H - 5	土 節 坏	11.2	3.1	①中粒②良好③橙④1/2	やや直立。横撫で。篦削り。	節削り 。	要件。	53
21	H - 5 5	須 恵 蓋	(12.2)	2.7	①細粒②良好③オリーブ灰①1/3	轆轤推で調整。つまみは細い輪		反りは弱い三角形を呈する。	53
22	H - 5 5	須 恵 坏	(11.2)	4.1	①細粒②良好③オリープ灰④2/3	轆轤推で調整。	策起こし。	W 1040, -1100 E 1, VI	53
23	H - 5 3	土師質須恵高台城	11.0	4.1	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外類。轆轤撫で調整。	回転糸切推で調整。高台後付け。	素語」石革 □	53
	H - 5 3	SEL SHI WAS SEL	(9.6)	(2.1)	23/02/10/27 10/27	轆轤推で調整。	進で調整。	雲母。石英。底部穿孔。	53
\vdash	H - 5 4		17041	3.6	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。横進で。篦削り。	篦削り。	委母。石英。	53
	H - 5 4	100 mm mm	11.2	3.1	①細粒②良好③橙①ほぼ完形	外傾。横進で。薫削り。	進削り後指頭痕。	底部に指頭痕を有す。雲母。石英。	53
	H - 5 4	D 200 VO	12.0	(3,2)		外類。横進で。篦削り。	NUMBER OF STREET	墨書土器。胴部に「万」の字。石英。長石。	53
-	H - 5 4	752 775 74	12.8	3,3	①中粒②良好③灰黄①1/2	整幢推で調整。	高台後付け。	石英。	53
29	H - 5 4	V2-1 -335 H13	12,9	3,6	①中粒②良好③灰白④完形	機能推で調整。	回転糸切未調整。	素量。	53
30	H - 5 4		12.4	4.0	①中粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外領。轆轤推で調整。	回転糸切。弱い進で。	墨書主器。胴部「万」の字。内面黒別磨き	53
	H - 5 4	LIANA NOTE NOT	14,0	3,4	①細粒②良好③明緑灰④2/3	帳轄推で調整。	-25 (September 2018)	雲母。石英。	53
	H - 5 4	Tree est 75	12.8	3.3	①細粒②良好③灰①2/3	機械性で調整。	回転糸切未調整。	34: 17:	53
	H - 5 4	265 1/65 U	12,6	3.6	①細粒②良好③灰白④ほほ完形	轆轤横撫で調整。	回転糸切り後推で。	石英。	100
-		土師質須恵高台城		4.4	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	推で外反。推で調整。	差削り。高台後付け。	棚部に「上」の字。雲母。石英。	53
-	_	灰釉高台 塊		4.4	①細粒②良好③灰白④ほぼ完形	糖植横進で調整。	制り出し高台。	相楽ドブづけ。	53
-	H - 5 7	7			①中粒②良好③にぶい掲④1/6	外反。積極で。篦削り。	田 7日 2月日3	口縁部に一条の沈線。頭部に指頭痕。雲母。石英。	-
-		土師質須恵高台境			①中粒②良好③明赤褐①1/2	外反。推で。範制り。	回転糸切未調整。高台後付け。		53
-	H - 6 0		-	-	①細粒②良好③明赤褐④口緑胴部	外反。撫で。能削り。	四科市另本两至。同口区刊刊。	雲母。石英。 墨書土器。『万』の字か。雲母。石英。	54
	H - 60	7.10	_	-	①細粒②良好③にぶい橙④口緑胴部	Total Police Community			54
-	H - 6 0	77 2324 24	_		①細粒②良好③にぶい橙④口緑刷部			墨書土器。判読不能。雲母。	54
	H - 61	100 EAX 100	11.6		①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	The state of the s	Mr Still Is	墨書土器。判読不能。雲母。石英。	54
	H - 6 1	100 100	11.4	5,1		Local Carlotte Control	差削り	内面に篦磨き。雲母。	54
	H - 6 1				①細粒②良好③橙④ほは完形	推で。弱い稜線。 造削り。	差削り 。	要母。 Barrier 1 00 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	54
	H - 61	100 miles 200 miles	18.8	34.7	①中校②良好③にぶい橙④ほぼ完形 ①朝校②良好③にごい格④1/2	Average Parallel Secretario	節削り。	関部に最大径をもつ。雲母。石英。 田宮に最大径をもつ。雲母。石英。	54
-	H - 62	V Ver var	7 - N (- N ()	-33	①粗粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。推で。篦削り。	篦削り。	関部に最大径をもつ。雲母。石英。 ***8 - 工芸	54
-	H - 63	30 -20 A	11.8	30.0	①細粒②良好③橙④完形 ①細粒②良好③橙④完形	外領。構生で。距削り。	節削り。	雲母。石英。 口區が別人教育、教育	54
	10.7 US 10.	TOTAL DESCRIPTION OF THE PERSON OF THE PERSO	12.4	4.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形 ①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	Commission was a state of	節制り 。	口唇部鋭く整形。雲母。	54
	H - 63 H - 63	N 02 200	13.0		①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	The state of the s	発削り 。	口唇部鏡〈整形。雲母。	54
200	10110	22 22 171 3	10.4		①細粒②良好③橙④完形	With With December 1997	差削り。	内面にタール状の煤。雲母。	54
	H - 63	to var your	11.6	12.0	①細粒②良好③橙④4/5		蔥削り 。	口唇部に一条の沈線。	54
00]	H - 6 3	土節坏	13.2	6.3	①細粒②良好③橙①2/3	直立。推で。稜線。篦削り。	篦削り 。	内面篦磨き。雲母。	54

番 号 出土位置	器 形	paragraph by by by	さ (cm) 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ①残存	成・整 引 紅	形方法 底 部	備考	Fig.
200	3 土 節 小 引			①中粒②良好③淡黄④ほぼ完形	横撫で。たたき後篦削り。	篦削り。	底部に異体字。雲母。	54
52 H - 6	4 土 節 は	F 12.4	3.1	①中粒②良好③橙①ほぼ完形	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	墨書土器。「高」の異体字か。雲母。石英。	54
53 H - 6	77 77 794 2	F 12.8	3.2	①中粒②不良③にぶい橙①ほぼ完形	AND THE PROPERTY OF STREET	節削り 。	胴部に指頭痕。雲母。石英。	54
54 H - 6	5 土師高坏脚部	-	(4.3)	①中粒②良好③にぶい橙④脚部	223.52.7.0072	脚部推で。	雲母。石英。	54
55 H - 6	6 土 師 3	£ 16.0	34.9	①粗粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径をもつ。石英。	54
56 H - 6	S 12 22 13	(26.0)		①中粒②良好③にぶい橙④1/10	外領。推で。篦削り。		石英。	54
57 H - 6	in 577. LTSA	F 12.6	3.6	①中粒②良好③橙①完形	内湾。撫で。	(単創り)。	雲母。石英。	55
58 H - 6	0 0 10	K (11.8)		①中粒②良好③橙①1/2	外反。進で。篦削り。	節削り 。	雲母。石英。	55
	9 須 恵 高 台 は		4.5	①細粒②良好③黑④2/3	外反。接で。轆轤推で調整。	高台後付け。	内外面とも黒色を施す。雲母。	55
TANK TO SEE	9 須恵高台は		53774		外反。轆轤推で講整。	回転糸切未調整。高台後付け。	書母。	55
Del Reel Co.	0 灰釉高台与	2010	1	①細粒②良好③明オリーブ灰①3/4	外反。轆轤撫で調整。	回転篦削り。	口縁部にうるし付着。光ケ岡1窯式。	55
62 H - 7	S M MODULE :	13.9	4.0	①中粒②良好③明褐灰④2/3	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切推で調整。	素母。長石。	55
Contract 12	0 須恵高台は		5.1	①中粒②良好③灰白④ほほ完形	態電性で調整。	高台剥離一部残存。	素 母。	55
64 H - 7		F 13.0	3.6	①中粒②良好③灰白①完形	機械推で調整。	回転糸切未調整。	石英。	55
1.51 (1.5)	0 須恵高台は	0.004	1 //	①中粒②良好③明オリーブ灰④1/3	CONTRACTOR CONTRACTOR	回転糸切未調整。高台後付け。	11.00	55
100	0 灰釉長頭多		(13.0)		能幅性で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	自然釉付着。雲母。石英。	55
67 H - 7	Color Service Control	19.0	4	①細粒②良好③におい褐④1/2	外傾。たたき後難削り。	DIMONOMERA PRODUCTO	胴部に最大径をもつ。雲母。	55
68 H - 7		E 20.2			外傾。撫で。篦磨き。		胴部に最大径をもつ。雲母。石英。	55
7	3 土師質須恵高台均	1000		①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。推で。軽蟷推で調整。	高台後付け。	石英。	55
- N - N - N	3 土師質須惠書	100707	A SCHOOL	①中粒②良好③浅黄橙④2/3	外反。推で。模盤推で調整。	高台後付け。入念な撫で。	口唇部内外面に朱塗り。雲母。石英。	55
71 H - 7	o v se	E 24.0		①中粒②良好③にぶい黄橙④1/3	外反。推で。能削り。	布目とみられる圧痕。	型型 (1777 回 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	56
	4 土師小型広口3	-	8.0	①細粒②良好③にぶい畳④ほぼ完形		THE CONTROLLEY	手捏ね。輪積痕。顔料を入れていたか。雲母。石英	100
73 H - 7	the State Court Court of the State Court of the Sta	E -	(16.3)	Tarrel to care annual little annual	節削り。	節削り。	学は40 無負債の納付を入れていたか。会は6 石类 雲母。石英。	56
74 H - 7	18 (2 127)	(16.8)	-	process and proces	口唇部おさえ撫で。口縁部直立	TWO IS A THEODOLOGY OF THE STATE OF THE STAT	会中。 40元年	56
75 H - 7	29 27	E (20.5)	0 201A25	①粗粒②良好③浅黄①1/2	Thirty work secretary was a secretary		口径が1・基十位と1~ 安川 丁芸	56
0.4 2.2 2.4	6 須恵高台は		4	120 Mileson Service (1970)	外反。撫で。篦削り。 轆轤推で調整。	発展り。 回転を加土運動 さんほけけ	口縁部に最大径をもつ。雲母。石英。	100
			0.7	①細粒②良好③灰黄④1/3		回転糸切未調整。高台後付け。	里東山碧 似结了化 亚瓜	56
77 H - 7	171 - 171 - 171		1	①網粒②良好③灰白④口縁胴部	職種推で調整。	切割を加土運動 女人後にいる	墨書土器。判読不能。雲母。 日がに対した材本にかがけれた。 奈の	56
200	7 須恵高台	1 2 2	5.0	①細粒②良好③浅黄①1/2	機械性で調整。		胴部に粘土を補充した痕跡有り。雲母。 	56
79 H - 7	11 27 VIC 15	18.4	100000		外傾。撫で。たたきしめ後撫で。		頭部に指頭痕。口唇部に一条の沈線。雲母。	56
80 H - 7	COLUMN ALON IN		Trans.	①細粒②良好③橙④1/3	外領。横撫で。削り。	削り。	要型。 要型は松菜は、質ないました。	56
81 H - 7		20.4	27.5	①細粒②良好③にぶい赤褐①3/4	外類。撫で。篦削り。	節削り。	頭部に指頭痕。肩部に最大径をもつ。雲母。	56
82 H - 7 83 H - 8	OF 1971 NOTES CO.	12.0	4.1	①細粒②極良③明赤褐④1/3 ①細粒②良好③灰白④3/4	直立。篦削り。	丁寧な篦磨き。	雲母。石英。	56
S 37 E	9 17 320 1	3 300	100	Sum Source (S	With the property there	回転糸切未凋整。	石英。	56
84 H - 8		11.2	1	①細粒②良好③橙①1/2	外類。横撫で。弱い稜線。篦削	ga parente	石英。	56
85 H - 8		15.4	13.9	Value of the Control	外領。横撫で。篦削り。	篦削り 。	石英。	56
86 日-84覆		(19.6)	1		内湾。撫で。篦削り。	a Maria L	口縁部のタール状の媒。雲母。	56
87 H - 8		13.8	5.6	①中粒②良好③にぶい赤褐①完形	外領。横撫で。弱い稜線。篦削	FOR A THE POST OF	胴部にタール状の煤。雲母。	57
88 H - 8	2 22 041 12	12,4	5.3	①細粒②良好③橙④1/2	外領。横撫で。稜線。削り。	発削り。	口縁部へ胴部にタール状の煤。雲母。	57
89 H - 8	2 2 2	10.0	10.8	①細粒②極良③オリーブ灰④ほぼ完形			PATALON TO CHEROLOGICO CONT.	57
90 D - 12	DECEMBER 14	11,5	3.5	①中粒②良好③橙①4/5	直立。横撫で。篦削り。	変削り。	雲母。石英。	57
91 D - 12	W 25 (1	11.0	3.5	①細粒②良好③橙①1/2	内湾。推で。篦削り。	節削り。	工工	57
92 D - 12	2 -	(16.2)	1	①中粒②良好③橙①1/2	外類。横掛で。篦削り。指頭痕。	ALCOHOLO CONTRACTOR CO	雲母。石英。	57
93 D - 12	O V COLUMN STATE OF	16.2	4.2	①細粒②良好③橙①ほぼ完形	外反。横崖で。篦削り。	差削り。	雲母。	57
	6 土師質須恵高台場	100000	-	①中粒②良好③浅黄①1/2	観鐘進で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	委員。	57
95 D-198覆:	194 OT 1	(13.4)	1	①細粒②良好③にあい橙①1/3	外反。横撫で。篦削り。		基 母。	57
96 工房址		10.3	3.4	①網粒②良好③にぶい橙①2/3	口容部おさえ誰で。轆轤推で調整。口		口唇部と内面に朱。雲母。	57
pitt In	土師質カワライ	2000	3.0	①細粒②良好③淡黄①1/2	機能性で調整。	回転糸切未調整。	雲母。	57
Contract Contract	上 灰 釉 高 台 4	3 3 2 2 3	5.7	①細粒②良好③明オリーブ灰①2/3	轆轤推で調整。	削り出しか。	内外面に釉。折戸53号窯式。	-57
99 E 区度	土 前 3	(16,6)	15.8	①細粒②良好③にぶい褐①1/2	轆轤横進で調整。	差削り 。	雲母 。	57

注)表の記載は次の基準で行った。
① 胎土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm) とした。
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
③ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色貼 (小山・竹原1976) に拠った。
④ 大きさは、復元値を () で示した。

番号	出土位置	器種	長さ	中語	厚さ	残ず	Ŧ	備考
1	H-45	織	(3.7)	2.3	0.2	1 /	5	先端部のみ。
2	H-62	鎌	(4.9)	2.1	0,4	1 /	5	先端部のみ。
3	H-64	釘	(6,9)	0.7	0.7	3 /	4	頭部折り曲げ角釘。
4	H-64	釘	(7.2)	0.6	0.7	3 /	4	頭部折り曲げ角釘。
5	H-64	釘	8.9	0.6	0.6	完	形	頭部折り曲げ角釘。
6	H-56	鏃	(8.4)	1.9	0.3	2 /	3	鍛造。有茎。長三角形。
7	H-62	紡 錘 車	(16,4)	0.4	0.4	1 /	2	鉄製紡錘車。軸部のみ。
8	H-62	斧	8.8	4.3	0.5	完	形	袋状鉄斧。
9	H-45	刀 子	(12.6)	1.1	0.3	2 /	3	使い込まれて細身。両茎。
10	H-69	刀 子	(13.8)	1.5	0,5	3 /	4	使い込まれて細身。両茎。

注)表の記載で、大きさの単位は cm であり、現存値は () で示した。

Tab. 4 石器·石製品·特殊遺物観察表

番号	出土位置	器種	長さ	柳繭	厚さ	重さ	石 材 等	備考
1	H-76覆土	石 鏃	1.2	1.2	0.1	0.2	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。
2	工房址覆土	石 鏃	1.5	1.2	0.3	0.5	黒 曜 石	無茎。三角形。
3	H-54覆土	石 鏃	1.8	1.2	0.4	0.7	黒 曜 石	無茎。三角形。
4	H-54覆土	石 鏃	1.9	1.3	0.4	1.0	黒 曜 石	無茎。三角形。
5	H-52覆土	石 鏃	1.6	1.7	0.3	0.8	チャート	無茎。ワタグリ。
6	H-54覆土	石 鏃	2,7	1.5	0.4	1.4	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。
7	H-77覆土	石 鏃	(2,2)	2,1	0.4	0.7	-	
8	D-193覆土	石 鏃	(2.5)	3.2	0.6	0.4	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。大型。
9	I-3覆土	打製石斧	8,7	5.1	2.0	120.0	頁 岩	揆形。
10	H-54覆土	打製石斧	10.2	4.2	1.4	79.0	頁 岩	揆形。
11	H-52覆土	打製石斧	12.6	4.3	1.0	84.0	頁 岩	揆形。
12	H-55覆土	打製石斧	13.0	4.6	1.3	120.2	安 山 岩	両刀形。
13	J - 6	打製石斧	(10.5)	5.1	1.4	87.0	頁 岩	揆形。
14	D - 123	打製石斧	11.2	7.3	2,1	210.0	硬質頁岩	中央に括れ。
15	J - 6	打製石斧	12,0	6.1	1,2	94.0	頁 岩	揆形。
16	I-3覆土	打製石斧	10.5	4.1	1.6	77.0	頁 岩	削器。
17	D - 123	打製石斧	14.5	6.7	2.2	315.0	頁 岩	中央に括れ。
18	J - 4	打製石斧	12.0	4.1	1.6	110.2	頁 岩	揆形。
19	D-193覆土	打製石斧	13.0	5.4	1.3	128.0	硬質頁岩	揆形。
20	H-78覆土	打製石斧	(9,1)	4.7	1.1	51.0	頁 岩	
21	H-78覆土	削器	7.5	6,1	0.8	38.4	頁 岩	石匙状。
22	1-3覆土	打製石斧	(6,2)	5, 1	1,4	63.0	硬質頁岩	揆形先端。
23	H-75覆土	打製石斧	(9,2)	4.4	0.8	55.0	頁 岩	揆形。
24	D-199覆土	打製石斧	(7,8)	4.5	1.5	67.0	安 山 岩	揆形。
25	J - 7	打製石斧	8.0	4.3	9.0	51.5	黑色粘板岩	揆形。
26	J - 7	打製石斧	7,3	4.6	0.6	35.8	頁 岩	揆形。
27	J - 6	石 錐	(5.8)	3,5	0.4	11.0	頁 岩	先端欠損。
28	B区覆土	装 飾 品	3.0	3,4	1.1	6.4	角閃石安山岩	中央に孔。
29	H - 7 1	紡錘車	4.0	4.0	1.8	43, 4	滑 石	円錐台形。側面縦方向に削痕。
30	A区覆土	紡錘車	(4.7)	(2.6)	(1.2)	18.4	流紋岩	残存1/3
31	H - 6 2	土 錘	4,4	1.7	1.6	8.2	土 製	大型。黒色。
32	H - 4 3	土 錘	(4.3)	1.7	1.7	11,6	土 製	小型。黑色。
33	H - 6 2	土 錘	5.8	2,9	2.9	44.0	土 製	小型。褐色。
34	H - 4 6	土 錘	6.3	3.1	(1.3)	29.0	土 製	大型。黒色。
35	H - 5 1	石製模造品	2.3	1.2	0.2	1.0	滑 石	剣形。2孔。
36	W-2覆土	砥 石	(7.6)	2.6	2.1	60.5	泥 岩	4 面使用。
37	H - 5 6	砥 石	11.3	3.2	1.4	74.5	泥 岩	携帯砥。4面使用。
38	H - 5 0	砥 石	(9.7)	(7.4)	(4.6)	380.0	泥 岩	4 面使用。
39	D-104覆土	玦状耳環	(2,0)	0.8	1.1	3.9	滑 石	

注)表の記載で、大きさと重さについての単位はcm、g であり、現存値は()で示した。

Tab. 5 縄 文 式 土 器 観 察 表

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ①残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
1	D - 173	①粗粒②不良③にぶい橙④1/2	表面には縄文RLによる不規則な施文。内面は横方向のナデ。	
2	J - 3	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	無文。	堀 之 内
3	D - 123	①中粒②良好③灰黄褐色④5/6	注口土器。把手蘸状に2単位。胴部中央に稜。底部に網代痕。渦巻・三角形・楕円形等の幾何学文様。縄文(L)。	堀之内 Ⅱ
4	J - 3	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	口辺に1条の横方向の沈線。その下に幾何状の沈線。	堀 之 内
5	J - 3	①中粒②良好③にぶい黄褐④胴部	3~4条の平行沈線。充填縄文LR。	堀之内 I
6	J - 3	①繊維②良好③橙④口緑部	半載竹管によるコンパス文。O段多条の縄文RLによるループ文。	関 山
7	J - 3	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	凹線による微隆起文。充填縄文はO段多条のLR。	加曾利E4
8	J - 3	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	平行する沈線による幾何状文。充填される縄文L Rは細かい。	堀之内Ⅱ
9	J - 3	①細粒②極良③にぶい黄褐④口縁部	行する沈線による幾何状文。充填される縄文LRは細かい。	堀之内Ⅱ
10	J - 3	①細粒②良好③黄褐①注口部	注口土器の注口部。丁寧な磨きで仕上げられる。	规之内 Ⅱ
11	J - 3	①粗粒②良好③にぶい褐④胴部	山形押型文。	押型文
12	J - 3	①粗粒②良好③褐①口縁部	11と同一個体。口唇部にも押型文。口唇に横位に1条の押捺。	押型文
13	J - 3	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	沈線による幾何文。充填縄文LR。	掘之内Ⅱ
14	J - 3	①繊維②良好③にぶい黄橙④口縁部	沈線と円形添付。胴部には縄文RL。	関山川
15	J - 3	①繊維②良好③明赤褐④嗣部	半載竹管によるコンパス文。異条斜縄文。	関山
16	J - 3	①細粒②極良③にぶい黄橙④口縁部	口辺に横走する鎖状の隆帯。	堀之内Ⅱ
17	J - 3	①繊維②良好③明褐④口縁部	O段多条縄文によるループ文。	関 山
18	J - 3	①粗粒②不良③橙④口緑部	結束縄文。	
19	J - 3	①中粒②良好③にぶい黄褐④胴部	平行沈線による幾何文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
20	J - 3	①中粒②良好③灰黄褐①胴部	平行沈線による幾何文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
21	J - 5	①繊維②良好③にぶい黄橙④胴部	O段多条縄文R Lによる菱形文。	関山
22	J - 6	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	口辺に凹線による沈線。下部に縄文RL。	加曾利E3
23	J - 6	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	懸垂文。縄文RLの摩消縄文。接合帯に刻み。	加曾利E3
24	J - 3	①中粒②良好③褐④口縁~胴部	沈線による幾何文。縄文RLが充填される。	堀之内Ⅱ
25	J - 6	①粗粒②良好③にぶい褐色④胴部	懸垂文。縄文Rしによる摩消縄文。	加曾利E3
26	1 - 6	①中粒②良好③におい黄橙④口縁部	縦方向に並走する条線文。	加曾利E 3
27	J - 6	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	微隆起文。摩消縄文R L が羽状構成をとる。	加曾利E 3
28	1 - 6	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	微隆起文と縄文R L によって構成される。	加曾利E3
29	J - 6	①中粒②良好③にぶい橙①口縁~胴部	微隆起文と縄文RLによって構成される。	加曾利E3
30	1 - 6	①中粒②良好③にぶい黄橙④頸部	沈線区画と縄文RL。	加曾利E3
31	1 - 6	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	微隆起文と縄文RL。	加曾利E3
32	7.5	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁部	沈線による逆U字文。O段多条の縄文RLは羽状構成。	加曾利E 4
33		①中粒②良好③暗赤褐④口縁部	隆帯による渦巻きと刻み。	勝坂
34	1000	①中粒②良好③橙④口緑部	微隆起による文様区画。縄文RL。	加曾利E3
35	1,8:	①中粒②良好③褐④口縁部	口縁に1条の沈線と平行する紐線文。	堀之内 I
36	J - 7		半截竹管による平行沈線。縄文RL。	諸 磯 b
37	1 - 7		半截竹管による平行沈線や渦巻き。縄文LR。	諸磯b
38	J - 7		縄文RL。	諸磯b
39	J - 7	-5/11/2-5-11/1/5-1 Anno-2-11/9/	半截竹管による鋸歯状の沈線文。連続爪形文。縄文RL。	
40	I - 7		縄文RL。	諸 磯 b
41	J - 7		貝殻による鋸歯文。	浮 点
42	J - 7		半截竹管による平行沈線。地文に縄文RL。	諸磯b
43		①粗粒②良好③にぶい赤褐④胴部	集合沈線。地文に縄文LR。	諸磯b
44		①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	太く浅い沈線区画と縄文LR。	加曾利E3
45	The state of the s	①粗粒②良好③灰黄褐④口縁部	口縁に平行する鎖状隆帯。沈線と縄文LR。	堀之内Ⅱ
46	7774	①細粒②極良③にぶい黄橙④口縁~胴部	口縁部に鎖状隆帯。胴部に沈線による幾何文。縄文LR。	堀之内 1
47	E AN A COMMAND	①中粒②良好③橙④胴部	縄文。	
48		①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	縄文RL。	
7325		①中粒②良好③にぶい赤褐④底部	網代底。	
49		①中校②良好③暗赤褐①口縁~頸部	類状隆帯。円形貼付文。平行沈線。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	偏 考
51	D - 123	①中粒②良好③浅黄④口縁部	口縁部に鎖状隆帯。胴部に沈線と充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
52	D - 123	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形や円形を基調とする幾何学文。充填縄文LR。	無之内Ⅱ
53	D - 123	①粗粒②良好③灰褐①胴部	深鉢。胴部。三角形や円形を基調とする幾何学文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
54	D - 123	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太い沈線文。	堀之内 Ⅱ
55	D - 123	①中粒②良好③灰黄褐④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。	堀之内 Ⅱ
56	D - 123	①中粒②良好③赤褐①口綠部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	鬼之内Ⅱ
57	D - 123	①細粒②良好③褐灰①口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	掘之内Ⅱ
58	D - 123	①中粒②良好③にぶい灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯に円形刺突。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
59	D - 123	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。円形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
60	D - 123	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。	堀之内Ⅱ
61	D - 123	①中粒②良好③灰褐①口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
62	D - 123	①中粒②良好③灰褐①口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	^{据之内Ⅱ}
63	D-125覆土	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
64	D-127覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。微隆起線による区画。縄文RL。	称名寺 I
65	D-127覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縦位の沈線。	掘之内Ⅱ
66	D-233覆土	①中粒②良好③褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸 磯 b
67	H-44覆土	①細粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縦位の沈線文。	
68	H-45覆土	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
69	H-45覆土	①細粒②良好③にぶい褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
70	H-48覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。条線文。	ISM ASSESSMENT COM
71	H-49覆土	①粗粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
72	H-51覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
73	H-51覆土	①細粒②良好③にぶい黄橙①胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
74	H-52覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。棒状の貼付文に刻み。円形貼付文。集合沈線。	諸磯c
75	H −52覆土	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。厠部。縦位の結束縄文。	五領ケ台
76	H-53覆土	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口綾部。8字状貼付文。	堀 之 内
77	H-53覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内 Ⅱ
78	H-53覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内Ⅱ
79	H-56覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。鎖状隆帯。幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
80	H-58覆土	①細粒②良好③にぶい赤褐④胴部	保鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内Ⅱ
81	H-59覆土	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。沈線と円形刺突。	称名寺Ⅱ
82	H-59覆土	①中粒②良好③にぶい掲④口縁部	深鉢。口縁部。横位の沈線文。	堀之内 I
83	H-64覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による連続爪形文。縄文RL。	諸磯a
84	H-66覆土	①細粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。半截竹管による連続爪形文。	諸磯a
85	H-66覆土	①繊維②不良③褐①胴部	深鉢。胴部。貝殼背圧痕。	黒 浜
86	H-70覆土	①中粒②良好③褐①胴部	深鉢。胴部。半截竹管による平行沈線文。コンパス文。	関山耳
87	H-72覆土	①細粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。口縁部に押圧による刻み。半截竹管による平行沈線文。	諸磯
88	H-72覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太い沈線による渦巻文。	称名寺Ⅱ
89	H-76覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸 磯 b
90	201 200622	①中粒②良好③褐①胴部	深鉢。胴部。円形刺突。横位の沈線。縄文RL。	加曾利E3
91		①中粒②良好③にぶい褐④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。内外に太い渦巻文。	加曾利E3
	We have a		深鉢。口縁部。微隆起線文による横位1条の区画。	加曾利正 4
-		①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口綠部。大波状部。円孔。	堀之内 I
	-1121505-3215011	①細粒②極良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形を基調とした幾何学文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
-		①中粒②不良③灰黄褐①胴部	深鉢。關部。種文尺し。	諸 磯 b
	and the same of	①中粒②不良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文LR。綾絡文。	諸 磯 b
-		①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。微隆起線による区画。縄文RL。	加曾利E4
ON I	TOUR DESIGNATION OF	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太く裏面に盛り上がりをみせる沈線。縄文LR。	中津?
	AA3555	①中粒②良好③灰黄褐①胴部	深鉢。胴部。棒状貼付文には押圧。集合沈線。	潜 磯 c
3780	c consultation	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸 磯 b
	2/2012	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。	堀之内Ⅱ

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
102	I-3 覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文。	
103	X 79 Y 39	①中粒②不良③赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
104	B区覆土	①中粒②良好③褐①胴部	深鉢。胴部。浮線文。	諸 磯 b
105	B区覆土	①繊維②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。異条斜縄文。	関 山
106	B区覆土	①粗粒②不良③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
107	B区覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
108	B区覆土	①細粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。横位の微隆起線。縄文RL。	加曾利E4
109	B区覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
110	B区表採	①中粒②良好③灰褐④胴部	注口?。胴部。沈線。	堀之内 I
111	B区表採	①中粒②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。棒状貼付文に刻み。集合沈線。	諸 磯 c
112	B区表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。	
113	B区表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
114	B区表採	①中粒②不良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文。	
115	B区表採	①粗粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文RL。	
116	B区覆土	①粗粒②不良③にぶい橙④口縁~胴部	深鉢。口縁~胴部。縄文。	
117	C区覆土	①粗粒②不良③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。沈線。地文に縄文RL。	諸 磯 b
118	C区覆土	①中粒②不良③橙④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による横位の沈線。縄文RL。	諸 磯 b
119	C区覆土	①中粒②良好③灰赤褐④口緑部	深鉢。口縁部。横位の沈線。	堀 之 内
120	C区覆土	①中粒②良好③灰黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。沈線。	
121	C区表採	①中粒②良好③赤褐④口緑部	深鉢。口縁部。沈線。円形刺突。	加曾利E 3
122	D区覆土	①中粒②良好③にぶい橙①胴部	深鉢。胴部。太く浅い沈線。	堀之内 I
123	D区覆土	①中粒②良好③にぶい橙①胴部	深鉢。胴部。円形貼付文。	
124	D区覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
125	D区覆土	①中粒②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。半截竹管による横位平行沈線。	諸 磯 b
126	D区覆土	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。浮線文。	諸 磯 b
127	D区覆土	①中粒②良好③灰黄橙①口縁部	深鉢。口縁部。口唇部に刻み。変形爪形文。半截竹管による爪形文。平行沈線文。	浮 島
128	D区表採	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。付加条による縄文。	諸 磯 b
129	D区表採	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。浮線文。	諸 磯 b
130	D区表採	①中粒②良好③暗赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による連続爪形文。	諸 磯 a
131	D区表採	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。櫛歯状工具による平行線と波状文。	諸 碨
132	D区表採	①中粒②良好③にぶい橙①口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線文。	
133	D区表採	①粗粒②良好③灰黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による連続爪形文。	諸磯a
134	D区表採	①中粒②良好③橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。浮線文。	諸磯b
135	D区表採	①中粒②良好③浅黄橙④胴部	深鉢。胴部。逆U字形の沈線。縄文RLを充填。	加曾利E3
136	D区表採	①中粒②良好③赤褐④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による木の葉文。円管文。連続爪形文。縄文RL。	諸磯a
137	D区表採	①中粒②良好③灰黄橙④胴部	深鉢。胴部。渦巻き。縄文LR。	称名寺I
138	D区表採	①中粒②良好③明赤褐④口緑部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。口縁部に4条の横位沈線。下部に綾杉沈線。	諸 磯 b
139	D区表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による平行沈線文。	諸 磯 b
140	E区覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④把手	深鉢。把手。橋状把手の一部。微隆起によって文様が付けられる。	加曾利E 4
141	E区覆土	①中粒②不良③にぶい黄褐④胴部	深鉢。胴部。縄文LR。	
142	E区覆土	①中粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。2列の円形刺突。	加曾利E3
143	E区表採	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。沈線と縄文RL。	加曾利E3
144	E区表採	①中粒②良好③灰赤褐①胴部	深鉢。胴部。沈線による区画文と縄文LR。	加曾利E3
145	E区表採	①中粒②良好③暗赤褐④胴部	深鉢。胴部。条線文。	加曾利E3
146	E区表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線と縄文LR。	加曾利E 3
147	E区表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④把手	深鉢。把手。沈線と縄文RL。	加曾利E 3
148	E区表採	①中粒②良好③灰黄褐④口縁部	深鉢。口縁部。沈線と縄文RL。縄文は羽状構成。	加曾利E3
149	E区表採	①粗粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線と縄文RL。	加曾利E3

注)表の記載は以下の基準で行った。
① 胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
③ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色貼(小山・竹原1976)に拠った。

Tab. 6 旧 石 器 観 察 表

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ		石	質		備考	Fig.
1	D区表採		:==:	細 石 刃	1.7	0.6	0.1	0,2	硬	質	頁	岩		
2	D区覆土		-	彫刻刀型石器	7.2	4.4	1.4	29.6	硬	質	頁	岩	荒屋型彫器。	70
3	D区表採	-		細 石 刃	1.4	0.5	0.1	0, 2	硬	質	頁	岩		
4	D区覆土	5-3	3-	削器	11.8	3.6	1.1	44.6	硬	質	頁	岩		71
5	D区覆土	(=)	-	彫刻刀型石器	4.7	2.6	0.7	10.4	硬	質	頁	岩		70
6	D区覆土	-	-	彫刻刀型石器	6.7	2.6	0.7	11.0	硬	質	頁	岩		70
7	D区覆土			細 石 刃	2.5	0.75	0.25	0.2	硬	質	頁	岩		68
8	D区覆土	=	-	細 石 刃	9.2	0.65	0.45	0.4	硬	質	頁	岩		68
9	D区表採	-	-	細 石 刃	2.65	0.8	0.3	0,3	硬	質	頁	岩		68
10	X76 Y 44	IV a	87.5	剥片	2.5	2.4	0.4	6.4	硬	質	頁	岩		
11	X 7 6 Y 4 4	IV a	80,5	細 石 刃	2,2	0.6	0.35	0.2	硬	質	頁	岩		68
12	X77Y45	IV a	90.0	破片	0.6	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
13	X77 Y 45	IV a	87.0	破片	0.7	0.6	0.1	0.07	硬	1.0547	頁	岩		
14	X77 Y 45	IV a	99.0	礫 器	12.2	10.1	4.5	790.0	頁			岩		
16	X77 Y 45	IV a	104.0	掻 器	4.7	3.6	0.9	10.8	頁			岩		73
17	X 77 Y 45	IV a	99.0	剥片	2,5	2.0	0.3	2.0	硬	質	頁	岩	被熱有り。	
18	X 77 Y 45	IV a	98.0	剥片	3.5	2.2	0.7	5.0	硬	質	3500	岩	AMONUS (* J ON)	
19	X77 Y 45	IV a	106.5	剥片	4.0	2.5	0.4	4.7	硬	質		岩	被熱有り。	
20	X77Y45	IV a	107.0	剥片	2.4	1.5	0.3	1.3	硬	質	-	岩	被熱有り。	
21	X77 Y 45	IV a	108.5	細 石 刃	1.1	0.5	0.1	0,1	硬	質	頁	岩	- THE SECOND SALE	
22	X77 Y 46	IV a	107.5	剥片	1.1	0.8	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
23	X77Y45	IV a	104.0	彫 器 削 片	0.6	1.8	0.35	0,3	硬	質	頁	岩		70
24	X77Y46	IV a	114.5	剥片	1.0	1.1	0.2	0.3	硬	質	頁	岩		
25	D区表採		-	破片	0.7	0.5	0.1	0.05	硬	Щ	頁	岩		
26	X 78 Y 46	IV a	113,5	破 片	0.5	0.4	0.1	0.04	硬	質	頁	岩		
29	D区表採	A CONTRACTOR	=	破片	1.5	0.4	0.2	0.05	硬	質	頁	岩		
32	X77 Y 45	IV a	108.5	細 石 刃	2.9	0.75	0.45	0.4	硬	質	頁	岩		68
35	X 7 6 Y 4 5	IV a	91.5	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.09	硬	質	頁	岩		
36	X 7 6 Y 4 5	IV a	111.5	影器削片	1,3	0.4	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
37	X77 Y 45	IV a	88.0	細石刃	2.7	0.8	0.4	0.4	硬	質	2.00	岩		68
40	X76 Y 45	IV a	103.0	剥片	3, 5	1.6	0.3	0, 2	硬	質	頁	岩		
41	X 77 Y 45	IV a	103.0	剥片	3.5	3.1	0.5	7.1	硬	質	頁	岩		-
42	X 77 Y 45	IV a	103.5	破片	1.0	0.8	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		-
44	D区表採		_	破片	1.7	0.7	0.1	0, 2	硬	質	頁	岩		
45	X 76 Y 45	IV a	105.0	細 石 刃	2.9	0.6	0.45	0.5	硬	- 1		岩		68
48	X77 Y 46	IV a	119.0	細石刃	0.9	0.5	0,1	0.1	硬	154-70	頁	-		-
49	X 7 7 Y 4 5	IV a	113.0	細 石 刃	3.1	0.8	0.5	0.4	硬	質	5364	岩		68
51	X 7 7 Y 4 5	IV a	102.0	細 石 刃	1.2	0.7	0.1	0.1	硬	質		岩		Matte
52	X 77 Y 46	IV a	90.0	彫刻刀型石器	4.2	1.9	1.0	6.8	硬	質		岩		69
5-07-01	X 77 Y 45	IV a	90.5	彫刻刀型石器	3.8	1.9	0.7	4.3	硬	質		岩		69
54	X 7 7 Y 4 4	IV a	75.5	調整痕ある剥片	2.4	1.2	0.2	1.1	硬	10.4%		岩岩		-50
55	X 76 Y 44	IV a	75.5	剥片	2.4	1.4	0, 2	0.7	硬	030		岩岩	被熱有り。	
	X 7 7 Y 4 5	IV a	99.0	細石刃	2.5	0.5	0.1	0.3	硬	- 200		岩岩	1555000 (15 th 15	
	X 7 7 Y 4 5	IV a	106.0	細石刃	1.8	0.6	0.1	0.2	硬	1 22		岩岩		
	X77 Y 45	IV a	111.0	削器	2.1	2.1	0.4	2.8	硬	200		岩岩		
-	X 7 7 Y 4 5	IV a	113.0	剥片	2.3	1.3	0.1	0.2	硬			岩岩		
	X 7 7 Y 4 5	IV b	114.5	剥片	2,2	1.6	0.1	1.0	硬	1555	Sales C	岩		
	X77 Y 45	IV b	112.5	剥片	1.2	0.6	0.1	0.08	硬			岩岩		
-	X77 Y 45	IV b		彫刻刀型石器	3, 45	1,75	0.6	3.5	硬			岩岩		69
	X 76 Y 44	IV a	500.0	剥片	4.0	3.4	0.5	6.8	硬	377.5.9	22797	岩岩		- 50
-	X 7 7 Y 4 5	IV a		細石刃	1.9	0.7	0.1	0.3	硬			岩岩		
	X77 Y 45	IV a		細石刃	1,4	0.5	0.1	0.05	-	質		岩岩		+

番号	出土位置	層位	レベル値	2	器種		長さ	中區	厚さ	重さ		石	質		備考	Fig.
67	X77 Y 45	IV a	101.0	削	tor THE	器	2.0	1,2	0.3	1.5	硬	質	頁	岩		1 701
1000	POWA 6 19 1911	(94/66	2007/100	15.5	70	刃	2.0	0.5	0.2	0.1	硬	質	頁	岩岩		
70	X77 Y 46	IV a	123.5	細	石	器器	Children Co.	2.6	0.5	5.3	硬		頁	岩岩		+
71	C区覆土			削	7+	五刃	3.5	0.7	0.2	0.08	硬硬	質	頁	岩岩		
72	D区表採	-	- 07.0	細 em	石	-	2.0		3804		硬	質	頁	岩岩		
80	X77 Y 45	IV a	97.0	細	石	刃	2.0	0.5	0.1	0.1	100	質	頁	岩岩		
82	X76 Y 44	IV a	85.0	剥	and dul	片	3,5	2.5	0.3	3.3	硬	-		100		70
83	X77 Y 45	IV b	116.5	彫	器削	片	1.8	0.4	0.2	0.1	硬	質	頁	岩田		10
84	H-64覆土		-	刺		片	2.6	2.2	0.3	2.0	硬	質	頁	岩出		
85	X77 Y 46	IV a	119.0	破		片	1.1	1.0	0.1	0,05	硬	質	頁	岩田田		
87	X77 Y 45	IV a	98.5	細	石	刃	1.6	0.5	0.1	0.08	硬	質	頁	岩出		
88	X77 Y 45	IV a	97.0	細	石	刃	2.1	0.7	0.1	0.1	硬	resc	頁	岩		
89	H-60覆土		<u> </u>	剥		片	2.7	2.2	0.5	2.8	硬	質	頁	岩		
90	X77 Y 46	IV a	134.0	刺		片	2.5	2.2	0.3	1.7	硬	質	頁	岩		720.7
92	X77 Y 45	IV a	98.0	細	石	刃	2,3	0.6	0.25	0.2	硬	質	頁	岩		68
96	X77 Y 45	IV a	91.5	細	石	核	2.1	4.2	1.8	16.8	硬	質	頁	岩		65
98	X 7 6 Y 4 4	IV a	78.0	剥		片	2.5	1.5	0.2	0.9	硬	質	頁	岩		73,000
99	X76 Y 44	IV a	81.0	細	石	刃	2.2	0.6	0.3	0,2	硬	質	頁	岩		68
100	X77 Y 45	IV a	106.0	剥		片	3.5	2.5	0.2	2.6	硬	質	頁	岩		
102	X 7 7 Y 4 5	IV a	98,0	細	石	刃	2,8	0.7	0.5	0.5	硬	質	頁	岩		68
105	X76 Y 45	IV b	98.5	細	石	刃	1.4	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
106	X77 Y 44	IV a	73.0	削		캶	4.5	3.5	0.5	12.2	硬	質	頁	岩		
108	X77 Y 45	IV a	110.5	彫	器削	片	0.5	1,95	0.35	0.2	硬	質	頁	岩		70
109	X77 Y 45	IV a	111.0	剥		片	1.9	1.5	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
112	X77 Y 45	IV b	111.5	刺		片	1,5	1.0	0.2	0.3	硬	質	頁	岩		
113	X77 Y 46	IV b	114.0	彫	器削	片	0.6	1.8	0.25	0.3	硬	質	頁	岩		70
114	X77 Y 45	Νb	108.5	破		片	0.9	0.3	0.1	0.01	硬	質	頁	岩		
116	X76 Y 44	IV a	70.0	ス:	キー状剤	月片	0.8	4.7	0.8	3.0	硬	質	頁	岩		66
117	X77 Y 44	IV a	80.0	礫		85	13.1	9.45	5.2	900.0	閃	ñ	緑	岩		74
118	X76 Y 44	IV a	80.0	剥		片	1.1	1.1	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
119	X77 Y 45	IV b	95.0	剥		片	4.0	3.0	0.5	2.7	硬	質	頁	岩		
120	X77 Y 45	IV b	111.0	剥		片	1.9	1.3	0.2	0.7	硬	質	頁	岩	被熱有り。	
121	X77 Y 44	IV a	86.0	細	石	刃	1.5	0.3	0,1	0.05	硬	質	頁	岩		
122	X76 Y 44	IV a	78.5	剥	5,650	片	1.8	0.9	0.2	0.5	硬	質	頁	岩		
123	X77 Y 46	IV a	127.0	細	石	刃	1.5	0.5	0.2	0.1	硬	質	2010	10000		
125	X77 Y 46	IV a	132.0	剥	44	片	2.7	2.2	0.3	2.2	硬	質	_	3223		
2.000 N	10-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12-00-12	12.0	143.5	剥		片	1.1	1.0	0.1	0,05	硬		頁			
126	X77 Y 47	IV a	_			片	9.8	127(1)	0.1	0.05	-	2012	170.5	1,000		
127	X77 Y 47	IV a	142,5	破細	T		1.0	0.5	0.1	0.00	硬	-	頁	- (46		
128	X 76 Y 44	IV a	88.0	細	石	对	2772	NA WAS	10/10/20	127,040.0	Contract	質				
129	X 7 6 Y 4 4	IV a	83.5	刺	nyer.	片	2.2	1.0	0.1	0.2	硬砸	1490	1.77.5	135		68
132	X 7 7 Y 4 4	IV a	88.0	細	石	刃	2.7	0.85	0.4	0.4	硬	質				68
133	X 77 Y 45	IV b	109.0	細	石	刃	2,75	0.75	0.3	0.3	硬硒	質	1 2000			70
134	X 7 7 Y 4 5	IV a	112.5	彫	器削	片	2000	1.4	0.25	0,05	-	_	頁			10
135	X77 Y 45	IV b	120.0	細	石	刃	2,2	0.7	0.2	0.2	硬	125-550	頁	1 4 60.0		
136	D区表採	~	-	細	石	刃	-	0.5	0.1	0.05	100		頁	1275.7		
138	X77 Y 45	IV b	103.5	細	石	刃	2.0	0.6	0.1	0.2	硬		頁	1111		-
139	X 7 6 Y 4 5	IV a	95.5	剥		片	2.5	1.5	0.2	1.0	硬	質	-	7.00		
143	X77 Y 45	IV a	101.0	破		片	0.6	0.6	0.1	0.05		-00	-	1775		
144	X77 Y 46	IV a	129.5	剥		片		1.5	0.6	4.9	硬		頁			
146	X77Y45	IV a	115.0	彫	刻刀型石	一器	3.5	2.0	0.7	5.5	硬	317576	頁	1717.1		69
147	X77 Y 44	IV a	88.5	細	石	刃	2.5	0.6	0.3	0.2	硬	188	- 1000			68
148	X76 Y 44	IV a	89.5	細	石	刃	1.1	0.4	0.1	0.05	硬	_				
150	X77 Y 46	IV a	131.0	剩		片	1.2	0.6	0.1	0.05	-	_	頁	-		
152	J-8覆土	-	-	剥		片	1.8	1.5	0,2	1.2	硬	質	頁	岩		

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ		石	猫	ĺ	備考	Fig.
156	X77 Y 45	IV b	114.5	207 1990 19	9 1.1	0.4	0.1	0.05	硬		-8	岩	7,000	* 181
157	X77 Y 45	IV b	111.5	調整痕ある剥り		1.1	0.3	0.8	硬	質				_
159	X77Y45	IV b	121.0	影器削り	0.45	1.05	0.2	0.1	硬	質	頁	岩		70
160	X77 Y 45	IV b	121.0	剩)	2.1	1.2	0.3	1.6	硬	質	頁	岩		1000
161	X77 Y 45	IV b	123.5	剥力	3.9	2.8	0.8	11.8	硬	質	頁	岩		
162	X77Y45	IV b	119.0	剥)	2.0	1.6	0.2	0.9	硬	質	頁	岩		
165	X77Y45	IV b	119.5	剥)	1 1.6	1.1	0.1	0.3	硬	質	頁	岩		
166	X77 Y 45	IV b	118.0	破	0.5	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
167	X77 Y 45	IV b	113.5	破	0.5	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
168	X77 Y 45	IV b	109.5	破	0.5	0,5	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
170	X77Y45	IV b	91.0	剥	3.0	2.4	0.3	2.6	硬	質	頁	岩		
171	X77 Y 45	IV b	101.0	細 石 3	2.3	0.8	0.4	0.3	硬	質	頁	岩		68
172	X77 Y 45	IV b	98.0	細 石 ラ	2,95	0.85	0.5	0.5	硬	質	頁	岩		68
174	X77 Y 45	IV b	99.0	細 石 ヲ	1.5	0.5	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		1
175	X77Y44	IV a	85.5	剥	4.5	2.0	0.3	3.6	硬	質	頁	岩		
177	X77 Y 45	IV b	103.5	剥	1.7	0.9	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
178	X77 Y 44	IV b	95.5	細石刃	2.1	0.5	0.1	0.3	硬	質	頁	岩		1
179	X77Y44	IV b	97.5	礫 岩	14.0	10.6	7.1	1250.0	細	粒多	安山	岩		74
182	X76 Y 44	IV b	81.0	礫岩	12.5	8.3	6.3	1110.0	閃	986	录	岩		75
183	X77 Y 44	IV a	79,0	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
184	X76Y44	IV b	89.5	細石刃	1 2.0	0.4	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		7
185	X76Y44	IV b	86.5	剥	1.8	1.2	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
186	X76 Y 44	IV b	91.0	調整痕ある剥片	2.1	1.6	0.3	1.3	硬	質	頁	岩		
187	X 76 Y 45	IV ь	105.0	細石列	2.2	0.6	0.1	0.08	硬	質	頁	岩		
188	X 7 6 Y 4 5	IV b	101.5	細石刃	1.3	0.5	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
189	X 7 6 Y 4 5	IV b	104.5	彫器削片	0,55	0.8	0.2	0.1	硬	質	頁	岩		70
190	X 76 Y 45	IV Ь	103.0	影器削片	1,2	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
191	X 76 Y 45	IV b	106.0	彫 器 削 片	1.0	0.55	0.2	0.1	硬	質	頁	岩		70
192	X 76 Y 45	IV b	110,0	使用痕ある剥片	5,0	2.0	0.6	8.0	硬	質	頁	岩		-
193	X 7 6 Y 4 5	IV a	110.5	削器	5.8	4.4	0.8	12.0	硬	質	頁	岩		71
194	X77Y45	IV b	120.5	影器削片	2.4	0.5	0.35	0.4	硬	Ħ	頁	岩		70
195	X 76 Y 45	IV b	106.5	破片	0.9	0.5	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
196	X 7 6 Y 4 4	IV b	87.0	細石刃	2.2	0.6	0.35	0.2	硬	質	頁	岩		68
198	X 77 Y 45	IV b	118.5	調整痕ある剥片	2.6	1.5	0.4	2,3	硬	質	頁	岩		
199	X77Y45	IV b	107.5	細 石 刃	2.3	0.65	0.3	0.2	硬	質	頁	岩		68
200	X77Y45	IV b	101.5	細 石 刃	1.9	0.5	0.1	0.3	硬	質	頁	岩		
201	X77 Y 44	IV b	96.0	細 石 刃	2.1	0.65	0.25	0.2	硬	質	頁	岩		68
203	X77Y44	IV b	91.0	細 石 核	1.9	5.9	1.7	18.6	硬	質	頁	岩		65
204	X77 Y 44	IV b	78.0	刺 片	2,2	1.6	0.1	0.8	硬	Ű	頁	岩		
205	X 7 6 Y 4 5	IV b	109.0	細 石 刃	2.6	5.5	2.5	0.2	硬	質	頁	岩	V.	68
211	X 77 Y 45	IV b	103.0	細 石 刃	2.7	0.7	0.45	0.3	硬	質	頁	쓈		68
212	X77 Y 47	IV b	158.0	剥片	2.8	2, 1	0.2	1.9	硬	質	頁	岩		
215	X77Y44	IV a	86.0	剥片	2.0	2.0	0.1	0.8	硬	質	頁	岩		
216	X 77 Y 45	IV b	109.5	細 石 刃	1.5	0.4	0.1	0,1	硬	質	頁	岩		
217	X 77 Y 45	IV b	111.0	破片	0.8	0.5	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
218	X77Y44	IV b	98.5	細 石 刃	3.0	0,9	0.1	0.7	硬	質	頁	岩		
219	X 7 6 Y 4 4	IV b	102.0	細 石 刃	1.9	0.9	0.2	0.5	硬	質	頁	岩		
220	X 76 Y 44	IV b	102.0	彫刻刀型石器	5.1	2.6	0.65	9.3	硬	質	真	岩		69
221	X 76 Y 45	IV b	110.0	細 石 刃	2.1	0.3	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
222	X 7 6 Y 4 4	IV b	97.5	細 石 刃	1.7	0.5	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
223	X 76 Y 44	IV b	95.0	影器削片	1.7	0.3	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
224	X77 Y 44	IV b	103.0	破片	0.8	0.7	0.1	0,05	硬	質	頁	岩		
227	X 78 Y 47	IV a	143.5	細 石 核	3.0	5.0	1.16	29.0	硬	質	頁	岩		65

											_						
番号	出土位置	層位	レベル値	Ť	提升	重	長さ	幅	厚さ	重さ		石	質		備	考	Fig.
232	X78 Y 46	IV a	122.5	削		0.0 60	4.1	4.2	0.8	12.0	硬	質	頁	岩			72
235	X 78 Y 47	IV a	143.5	剩		片	2.3	2.0	0.2	1.0	硬	質	頁	岩			
236	X 78 Y 47	IV a	149.0	剥		片	2.0	2.0	0.1	0.6	硬	質	頁	岩			
237	X 78 Y 47	IV a	145.0	剥		片	2.5	1.4	0.6	2.5	硬	質	頁	岩			
239	X 7 8 Y 4 7	IV a	145.0	剥		片	2.0	1.1	0.2	0.9	硬	質	頁	岩			
240	X 78 Y 47	IV a	148.0	刺		片	4.9	1.7	0.3	0.2	硬	質	頁	岩			
243	X78 Y 46	IV a	135.5	ストー	ーンリタッ	チャー	12.8	11.9	5.8	1620.0	黒	色	頁	岩			78
244	X 78 Y 45	IV b	112.5	細	石	刃	2.5	0.55	0.22	0.2	硬	質	页	岩			68
245	X 7 8 Y 4 5	IV b	104.5	細	石	刃	1.5	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
246	X 7 8 Y 4 7	IV a	156.0	剝	- 3773	片	4.3	2.7	0.9	10.8	硬	質	頁	岩		-	
247	X 78 Y 47	IV a	155,0	刺		片	3, 2	2, 1	0.3	2,5	硬	質	頁	岩			
248	X 78 Y 45	IV a	112.5	削		器	8.1	3.1	0.9	14.6	硬	質	頁	岩			72
249	X77 Y 45	IV a	108.0	細	石	刃	1.6	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩岩			1.2
135.00		Caratro	17/19/5/97	細	石	刃	- 17 U	332 (13	265 737	52 m	10000	質	頁	岩岩			-
250	X76 Y 45	IV b	106.0	1,415	13/41	200	1.4	0.5	0.1	0.1	硬			13/11			69
252	X77 Y 45	IV b	125.0		1刀型	There	4.1	3,7	1.2	10.8	硬	質	頁	岩	かまたたり		69
253	X 77 Y 45	IV b	123.5	剥	- Tark	片	1.1	0.6	0.1	0.05	硬	質	頁	岩出	被熱有り。		- 00
254	X 77 Y 45	IV b	124.5	細	石	核	3.0	4.4	1.7	25, 2	硬	質	頁	岩			66
255	X 7 8 Y 4 7	IV a	156.0	剥		片	2.5	2.1	0.3	0.7	硬	質	頁	岩			-
256	X77 Y 45	IV a	103.0	礫		器	10.2	8.9	6,8	860.0	頁	and .	_	岩			75
257	X77 Y 44	IV b	108.5	細	石	刃	2.0	0.6	0.1	0.08	硬	質	頁	岩			
258	X77 Y 45	IV b	109.0	剥	577	片	2.4	1.8	0.2	0.07	硬	質	頁	岩			
260	X77 Y 45	IV b	113.5	細	石	刃	1.1	0,6	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
262	X 76 Y 45	IV b	107.5	刷		片	1.7	1.2	0.2	0.05	硬	質	頁	岩	被熱有り。		
263	X76 Y 43	IV a	58.0	剥		片	1.5	0.7	0.3	0,5	硬	質	頁	岩			
264	X76 Y 44	IV b	101.0	細	石	刃	2.3	0.7	0.35	0.2	硬	質	頁	岩			68
265	X76 Y 44	IV b	104.0	細	石	刃	1.4	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
266	X 7 6 Y 4 4	IV b	106.0	細	石	刃	1.1	0.7	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
267	X76 Y 44	IV b	108.0	細	石	刃	1.7	0.5	0.2	0.05	硬	質	頁	岩			
268	X 7 6 Y 4 5	IV b	111.0	細	石	刃	2.25	0.6	0.25	0.2	硬	質	頁	岩			68
269	X77 Y 44	IV b	108.0	細	石	刃	1.0	0.7	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
271	X 7 6 Y 4 5	IV b	110.5	細	石	刃	1.1	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩			
272	X77 Y 45	IV b	122.0	抉	入削	器	2.7	4.1	0.8	8.4	硬	質	頁	岩			
273	X 77 Y 45	IV b	124.0	細	石	刃	0.9	0.5	0.2	0.1	黒	B	翟	石			
275	X78 Y 46	IV b	134.5	涮		片	1.8	1,4	0.3	0.6	硬	質	頁	岩			
277	X78 Y 47	IV a	151.0	剩		片	2.6	3.2	0.8	5.8	硬	質	頁	岩			- 1
278	X 78 Y 45	IV b	111.0	細	石	刃	1.2	0.6	0.2	0.05	277.0		頁	岩			
279	X 78 Y 45	IV b	115.5	細	石	刃	1.8	0.4	0.1	0,1	硬	29079		岩			
280	X76 Y 45	IV b	126.0	破	3.55	片	1.1	0.6	0.1	0.05	11.555	質	頁	岩			
281	X77 Y 43	IV a	56.5	細	石	对	1.9	0.5	0, 2	0.1	硬	質	頁	岩			
282	X77 Y 43	IV a	68.0	削	44	器	8.0	5.26	0.9	23.0	硬	質	頁	岩岩			72
283	X77 Y 44	IV b	107.5	剥		片	1.0	1.2	0.1	0.05	硬	質		岩			1.0
284	X77 Y 45	IV b	116.0	細	石	刃	1.6	0.3	1.0	0.04	硬硬	15521	頁	岩岩			
285	X77 Y 45	IV b	114.0	細細	75.00	刃		55511	0.1	0.07	硬硬	201	頁	1700			
100 May 1		2000	114.0	細細	石	刃	1.6	0.4	FA 111	0.05	+1324	質	頁頁	The second			
286	X77 Y 45	IV b	_	-	石	-		0.8	0.2	0.4	硬硒		_	岩			OF:
287	X78 Y 45	IV b	119.5	\$EE	石	核	2.2	5.2	1.2	15.6	硬硒	質	頁	岩出			65
288	X78 Y 45	IV b	115.5	細	石	刃	3.0	0.5	0.2	0.3	硬	質	頁	岩出			
289	X 7 8 Y 4 5	IV b	113.5	細	石	刃	2,0	0.6	0.1	0,2	硬	質	頁	岩出			
290	X 7 8 Y 4 7	IV b	145.0	剥		片	3.5	1.3	0.3	1.2	硬	質	頁	岩			
291	X 7 8 Y 4 7	m	158.0	刺		片	2.9	2.0	0.5	1.1	硬	M	Ą	- 12			
292	X 7 8 Y 4 7	Ш	154.5	測		片	1.7	1.6	0.3	0.9	硬	質	頁	岩			
293	X 7 8 Y 4 7	Ш	154.5	刺		片	2.6	1.3	0.4	1.3	硬	質	頁	岩			
294	X 78 Y 47	Ш	159,5	調整	痕ある	剥片	3,0	2.3	3.0	2,2	硬	質	頁	岩			
295	X78Y47	Ш	151.0	剩		片	1.4	1.0	0.2	0.05	硬	質	頁	岩			

番号	出土位置	層位	レベル値	B0	種	長さ	幅	厚さ	重さ		石	質		備考	Fig.
296	X78 Y 47	Ш	146.0	剩	片	2.0	1.5	0.2	0.8	硬	1354	The-	岩	- Sente	6.
297	X78Y47	Ш	153.5	破	片	1.2	0.5	0,1	0.05	硬	質	頁	岩		1
304	X 7 8 Y 4 7	Ш	155.5	剥	片	2.0	1.6	0,3	1.3	硬	質	頁	岩		
305	X 7 8 Y 4 7	黒褐色層	142.0	剩	片	4,5	1.9	0, 2	2.1	硬	質	頁	岩		
306	X76 Y 43	IV b	80.0	剩	片	1.6	0.9	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		_
307	X78 Y 47	Ш	161.5	剥	片	1.2	1.1	0.1	0.5	硬	質	頁	岩		1
308	X79 Y 47	黒褐色層	143.0	剥	片	3.4	2.4	0.3	2.2	硬	質	頁	岩岩		-
309	X77 Y 46	IV a	113.5	刺	片	1.5	1.2	0.3	0.05	硬	質	頁	岩		-
310	X77 Y 46	IV a	116.0	破	片	0.6	0.6	0.1	0.03	硬	質	頁	岩岩		+-
311	X77 Y 46	IV a	112.0	1772011	景削 片	- N. COV. 44.1	1000000	0.1	NAME OF THE REAL PROPERTY.	1000	質	頁	岩岩		-
14.000	PERSONAL CHARGE	943.	C 1010		1971	1.5	0.5	74.575	0.05	硬	150	17500	7101071		-
312	X77 Y 46	IV a	117.5	剥	片 五	1.6	1.5	0.2	0.5	硬	質	頁	岩出		-
313	X77 Y 46	IV a	125.0	細	石刃	4.0	0.6	0.2	0.2	硬	質	頁	岩		100
314	X77 Y 46	IV b	127.0	礫	器 ## 14	9.9	10.2	4.8	630.0	黒	色	頁	岩		76
315	X77 Y 46	IV a	124.5	VID-94 IX	景削 片	2.8	3.2	0.7	8.8	硬	質	頁	岩		-
316	D区覆土		E	剥	片	1.2	0.6	0.2	0.2	硬	質	頁	岩		-
317	X 77 Y 46	IV a	119.0		計削片	0.7	0,2	0.1	0.01	硬	質	頁	岩		1
318	X 7 7 Y 4 6	IV a	112.0	細	石 刃	2,2	0.6	0,3	0.3	硬	質	頁	岩		68
319	X77 Y 46	IV b	116.0	彫刻	刀型石器	3.5	2.2	0.6	3.9	硬	質	頁	岩		69
320	X77 Y 46	IV a	112.5	刺	片	1.2	1.1	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
321	X 7 7 Y 4 6	IV a	113.0	削	뜐	1.9	1.5	0.3	1.6	硬	質	頁	岩		
322	X77 Y 46	IV a	115.0	破	片	0.7	0.2	0.1	0.01	硬	質	頁	岩		
323	X77Y46	IV a	116.5	削	器	6.0	4.3	0.9	16.8	硬	質	頁	岩		73
324	D区覆土	33	3	礫	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	11.15	11.6	4.0	600.0	ホ)	レンフ	7 x)	レス	長さ・幅・厚さ・重さは388との接合値。	78
326	X78Y46	IV a	127.0	剥	片	1.0	0.6	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
328	X 78 Y 47	Ш	160.5	使用报	変ある剥片	1.4	1.1	0.3	0.4	硬	質	頁	岩		
329	X78 Y 47	Ш	161.0	スキ	一状削片	3.7	9.9	2.1	56.0	硬	質	頁	岩		67
330	X 7 8 Y 4 7	Ш	166,5	剥	片	1,7	0.8	0.2	0.3	硬	質	頁	岩		
331	X 7 8 Y 4 7	Ш	170.0	剥	片	1.6	1.2	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
332	X78Y47	Ш	169.5	刺	片	1.7	0.7	0.1	0.3	硬	質	頁	岩		
333	X78Y47	Ш	171.0	スキ	一状削片	1.7	10.75	1.85	22.6	硬	質	頁	岩		67
335	X78 Y 47	Ш	169.5	剥	片	1.6	0.9	0.1	0.3	硬	質	頁	岩		
337	X79Y47	Ш	153.0	剥	片	3.4	1.4	0.3	1.7	硬	質	頁	岩		
338	X79 Y 47	Ш	153.0	剥	片	3.4	3.5	0.3	4.0	硬	質	頁	岩		
344	X78 Y 46	IV a	149.0	剥	片	1.5	0.9	0.1	0.3	硬	M	頁	岩		
345	X79 Y 47	Ш	149.5	涮	片	4.5	1.9	0.3	3.8	硬	質	頁	岩		
346	X79 Y 48	黒褐色層	148.0	剥	片	1.8	1.5	0.2	1.1	硬		頁	岩		
347	X77 Y 46	IV b	126.5	剥	片	1.4	0.9	0.1	0.1	硬	1000	1100-0	岩		
348	X77Y46	IV a	123.5	細	石 刃	1.5	0.5	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
350	X79 Y 47	Ш	154.5	剥	片	3.3	2.4	0.5	4.6	硬	質	頁	岩		
353	X79 Y 47	黒褐色層	113.5	破	片	1.0	0.6	0.1	0.1	硬	質	頁	岩岩		
354	X78 Y 47	IV a	166.0	剥	片	0.8	0.6	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
355	X78 Y 47	IV a	166.0	破	片	0.7	0.6	0.1	0.05	硬	21365	頁	岩岩		
356	X78 Y 47	IV a	163.5	細	石刃	1.4	0.9	0.1	0.00	1300	質	10000	岩岩		
357	X78 Y 47	IV a	174.5	刺	片	1.5	0.7	0. 2	0.2	硬硬		頁	岩岩		
358	X78 Y 47	IV a	174.0	刺	片	4.2	2.8	0.2	72 PO	硬硬	100700	頁	岩岩		
200	X 78 Y 48	黒褐色層		22.74		10000	55000	KCQ/P	6.4	1100		頁	石岩		
359		350	164.0	刺	片	5,5	3.2	0.5	9.8	硬硒			PERCON		-
360	X 78 Y 48	Ш	170.0	刺	片	4.2	1.9	0.2	2.0	硬硒	質		岩		
361	X 78 Y 48	III	174.0	剥 xw uu t	片	2.5	1.9	0.3	2.1	硬	質	月	岩出		
362	X 78 Y 47	IV a	183.0	7.6	- 22	11.5	6.5	4.9	540.0	頁	ptot.	The T	岩出		-
363	CANADO CERCONA	黒褐色層	158.5	剩	片	2, 2	1, 2	0.1	0.4	硬	質		岩	Add All and the	
364	CHICAGO CONTRACTOR OF THE CONT	黒褐色層	162.0	剥	片	4.9	1.8	0.6	4.7	硬	3.2.53	頁	岩	被熱有り。	
365	X 78 Y 48	IV a	180,0	剥	片	3, 1	1.2	0.3	0,9	硬		頁	岩		
366	X 79 Y 47	Ш	168.0	剥	片	1.4	1.2	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		

en. en	111 1 64-90	602 AL		nn ce	er u	der	THE A	es v		igo e	66	_	an ac	227
番号	出土位置	層 位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	- 1	石	質	7073	備考	Fig.
368	X 7 9 Y 4 7	Ш	162.0	剥片	3.3	2.7	0.6	4.9	硬	質	頁	岩		
369	X79 Y 47	Ш	161.0	剥片	4.4	2.5	0.6	6.3	硬	質	頁	岩		
372	X 7 6 Y 4 7	, III	163.5	調整痕ある剥片	1.8	0.5	0.3	0.3	硬	質	頁	岩		
376	X77 Y 46	IV b	128.0	細 石 刃	1.5	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
377	X79 Y 47	Ш	161.0	剃片	1.7	1.4	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
378	X79 Y 46	IV b	127.0	礫器	9.7	9.2	7.8	920.0	細	粒分	左 山	岩		76
379	X77 Y 46	IV b	122.0	剝片	2.3	1.6	0.1	0.8	硬	質	頁	岩		
381	X 7 8 Y 4 7	Ш	165.5	剝片	1.6	0.8	0.2	0,6	硬	質	頁	岩		
382	X79Y47	Ш	166.0	剥片	3, 2	2.7	0.3	3.9	硬	質	頁	岩		
383	X79 Y 47	Ш	166.5	剥片	1.3	0.8	0.3	0.6	硬	質	頁	岩		
384	X 7 9 Y 4 7	Ш	168.0	剥片	4.6	3.9	0.7	11.4	硬	質	頁	岩		
386	X 78 Y 48	黒褐色層	167.5	剥片	3.8	3.0	0.6	5,3	硬	質	頁	岩		
388	X77 Y 46	IV b	118.5	礫 器	-	-	-	=	水	レン	フェル	レス	324と接合。	78
389	X79Y48	Ш	172.5	剥片	1.3	0.7	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
390	X76 Y 44	IV b	95.5	剥 片	1.1	1.8	0.4	0.4	硬	質	頁	岩		
391	X 7 6 Y 4 5	IV b	123.5	細 石 刃	1,95	0.7	0.2	0.3	黒	В	翟	石		68
392	X77 Y 46	IV b	123.0	剥片	2.1	2.1	0.2	1.3	硬	質	頁	岩		
395	X 7 9 Y 4 7	IV a	165.0	剥片	1.2	1.3	0.2	0.1	硬	質	頁	岩		
397	X 7 9 Y 4 7	IV a	174.0	傑 器	10.6	10.9	7.1	730.0	黒	色	頁	岩		77
401	X 78 Y 47	Ш	168.0	スキー状削片	1.1	6.3	1.7	12.0	硬	質	頁	岩		66
402	X78 Y 48	IV a	180.5	剥片	6, 2	4.2	0.8	21.6	硬	質	頁	岩		.0.0
403	X78 Y 48	IV a	185.0	礫 器	11.9	9.3	4.4	680.0	頁	,,	-	岩岩		77
404	X78 Y 48	IV a	186.0	礫 器	6.3	10.8	6.5	510.0	黒	色	頁	岩岩		3.1
	X78 Y 47		175.0	剥片	2,0	1.2	0.2	0.4	硬	質	頁	岩岩		_
405	AND AND ADDRESS OF THE PARTY OF	IV a	11000000000	- accord to a control	0.000	347,250		[ASSESSED NO.	硬硬	質	頁	岩岩		_
406	X79 Y 47	Ш	177.0		7.0	4.2	0.4	13.6	2.55	-				
407	X79 Y 47	Ш	177,5	剥片	2.0	8,0	0.2	0.6	硬	質	頁	岩出		70
414	X79 Y 46	IV a	164.5	削器	6.9	3,9	0.6	21.6	硬	質	頁	岩		73
415	X 78 Y 47	IV a	174.0	細石刃	1.3	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
416	X79 Y 47	IV a	181.0	剥片	1.1	1.5	0, 2	0.3	硬	質	頁	岩		
417	X79 Y 47	IV a	174.0	剥片	1.4	1.1	0,2	0.4	硬	質	頁	岩		
418	X79 Y 47	IV a	173.0	剥片	2.5	2.1	0.3	1.5	硬	質	頁	岩		
419	X79 Y 47	IV a	172.0	剝片	2.7	2,2	0.3	1.6	硬	質	頁	岩		
420	X77 Y 46	IV a	119.0	剥片	1.5	1, 1	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
421	X78Y48	Ш	176.0	細 石 刃	1.5	0.6	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
422	X78 Y 47	IV a	177.0	調整痕ある剥片	2.7	1.3	0.3	1.0	硬	質	頁	岩		
423	X78Y47	Ш	178.5	刺 片	1.8	0.9	0.1	0.05	硬	質	頁	岩	被熱有り。	
424	X78Y47	Ш	177.0	剥片	2.5	1.7	0.1	0.8	硬	質	頁	岩		
425	X78Y47	m	179.5	剝片	1.3	1.0	0.3	0.2	硬	質	頁	岩		
426	X79Y47	Ш	177.5	剥片	1.5	1.5	0.2	0.7	硬	質	頁	岩		
427	X79 Y 47	Ш	189.0	剥片	2.5	1.5	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
432	X79Y47	IV a	173.5	剥片	5.6	3.5	0.4	9.3	硬	質	頁	岩		
435	X77Y46	IV a	131.5	彫 器 削 片	1.5	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
436	X77Y45	IV b	117.5	剥片	1.1	0.9	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
437	X 7 6 Y 4 5	IV b	119.5	彫器 削片	0.6	2.3	0.3	0.2	硬		頁	1000		70
438	X76 Y 45	IV b	114.5	細 石 刃	2.5	0.5	0.2	0.3	硬	質	頁	-		1000
439	X77 Y 45	IV b	129.0	剥片	0.8	2,1	0, 2	0.2	硬	質	頁			
440	X77 Y 45	IV b	129.0	調整痕ある剥片	4.6	2.3	0.3	3.5	硬		頁			
441	X78 Y 47	IV a	164.5	刺片	1.6	0.5	0.5	0.7	硬		頁			
442	X78 Y 47	IV a	163.5	破片	1.1	0.7	0.1	0.1	硬	55	-			
Transa.	The second second second	10000	165.0	剥片	V 07	1.5	0.3	2.3		-	_			-
443	X78 Y 47	IV a	1199531962	David I I I	3.4	55 30	81 84	0.0	硬硬	23000	頁	1,000		
444	X78 Y 47	IV a	169.0	刺片	2.7	3.0	0.7	6.9	硬	-		- 1.5.5		-
446	X78 Y 47	IV a	170.0	剥片	1.9	1.1	0.2	0.5	硬		頁			
447	X77 Y 45	IV b	123.0	細 石 刃	1.3	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		

番号	出土位置	層位	レベル値			種		長さ	幅	厚さ	重さ		石	質		備考	Fig
449	X78 Y 46	IV b	127.0	細	3	5	刃	1.5	0.5	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
450	X76 Y 44	IV b	98.0	彫	nn fur	削	片	0.7	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
451	X78Y47	Ш	174.0	剥			片	1.2	1.6	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
452	X76 Y 44	IV a	109.5	細	7	5	刃	2.5	0.85	0.35	0.4	硬	質	頁	岩		68
453	X77 Y 45	IV b	111.0	細	7	i i	刃	2.0	0.7	0.2	0,2	硬	質	頁	岩		68
454	X77 Y 45	IV b	110.0	細	_	5	刃	2,85	0.85	0.25	0.3	硬	M	頁	岩		68
455	X77 Y 45	IV b	120,5	削	- 189	27.	Ho.	2.4	2,5	0.4	3.6	硬	質	頁	岩		
458	X77 Y 45	IV b	128, 5	剥			片	3, 2	1, 2	0, 1	0.8	硬	質	頁	岩岩		
460	X77 Y 45	IV b	127.0	剥			片	2.5	1.4	0.3	0.7	硬	質	頁	岩		
462	X77 Y 45	IV b	124.0	-35.50	監痕 a	L Z S		2.5	1.0	0.3	0.8	硬	質	頁	岩		
463	X77 Y 46	IV b	134.0	彫	器器	削	. 23	3.2		8 8	53.65	5.5	-	15.	岩岩		70
11000	CARIN DVO/ACSA	V 121	15-00-50-50	1300	tur	Hu	片加	0.6	1.9	0.3	0.2	硬	質	頁	2000		70
464	X77 Y 46	IV b	130.5	削	-		器	1.6	1.7	0.2	0.6	硬	質	頁	岩		
465	X 78 Y 45	IV b	119.5	細	4	i	刃	1.9	0.4	0.1	0,1	硬	M M	頁	岩		
466	X 78 Y 47	IV a	170.5	刺			片	2.0	2.2	0.4	2, 2	硬	質	頁	岩		
467	X78 Y 47	Ш	162.5	剥			片	4.0	2.3	0.4	2.4	硬	質	頁	岩		
468	X79 Y 47	IV a	172.5	剥		_	片	1,9	1.5	0.3	1.0	硬	質	頁	岩		
469	X79 Y 47	IV a	188.0	稜	付	削	片	1,95	6.9	2,25	21.8	硬	質	頁	岩		66
470	X78 Y 47	IV a	174.0	剥			片	1.1	1.2	0.2	0.4	硬	質	頁	岩		
471	X 78 Y 47	Ш	164.5	使用	日痕る	ある事	則片	7.0	5.1	0.9	32.4	硬	質	頁	岩		
472	X78Y47	IV a	183.0	剩			片	1,2	0.6	0.2	0.2	硬	質	頁	岩		
473	X 78 Y 47	IV a	178.5	剩			片	1.7	1.4	0.1	0.5	硬	質	頁	岩		
476	D区覆土		-	彫	57	削	片	0.8	0.4	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
477	D区覆土	(=)	(-	破			片	0.5	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
478	D区覆土	-	-	彫	器	削	片	0.8	0.2	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
479	D区覆土			剥			片	2.3	0.9	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
481	D区覆土	-	9-	彫ま	刻刀	型石	器	3.1	2.0	0.6	4.2	硬	質	頁	岩	荒屋型彫器。	69
484	D-148覆土	-	1-	剥			片	2.3	0.8	0.2	0.4	硬	質	頁	岩		
485	D区覆土	_	_	掻			器	5.2	4,2	1,2	26,8	硬	質	頁	岩		
486	H-54覆土	_	_	刺			片	2,6	2.4	0.4	3.4	硬	質	頁	岩		
487	D区覆土	-		細	7	7	刃	1.5	0.4	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
488	D区覆土			剝	73-	4.	片	1.6	0.7	0.2	0.1	硬	質	頁	岩岩		
		_		1.5	7	7									-		
489	D区覆土			細	7	1	刃	0.8	0.6	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
490	D区覆土	_ =	- 22	破			片	1.0	0.7	0.1	0.05	硬	質	頁	岩出		
491	D区覆土			刺			片	1.7	1.5	0.2	0.8	硬	Ŋ	頁	岩		
493	J−8覆土	-	144	剥			片	2.8	1.7	0.3	2.3	硬	質	頁	岩		
498	D区覆土	-	-	破			片	1.2	0,4	0.1	0.05		質	- 7-0	岩		
500	D区覆土	-	:	涮			片	1.9	1.4	0.2	0.8	硬		頁	岩		
501	D区覆土	_=_	=	剥			片	3.7	2.5	0.8	11.8	硬	質	頁	岩		
502	D区覆土	-	355	破			片	1.1	0.9	0.1	0.2	硬	Ħ	頁	岩		
504	D区覆土		-	破			片	0.9	0.3	0.1	0.05	硬	質	頁	岩		
505	D-148覆土		1576	剥			片	2.2	3.0	0.3	2.9	硬	質	頁	岩		
506	D区覆土	1.00		剩			片	1.8	1.4	0,2	0.4	硬	質	頁	岩		
508	D区覆土	22	~	破			片	0.9	1.2	0.1	0.2	硬	質	頁	岩		
511	D区表採	-	-	細	7	ī	刃	2.0	0.8	0.3	0.2	黒	B	1	石		68
512	D区表採	-	-	細	7	ī	刃	1.2	0.6	0.1	0.1	硬	質	頁	岩		
513	D区表採	-		細	7		刃	1.6	0.7	0.1	0.2	硬	質		岩		

注)本表は、今回検出されたもののうち、硬質頁岩質のもの、礫器、ストーンリタッチャー、黒曜石質の細石刃を明らかに旧石器と判断される ものとして登載した。その他の検出物についても旧石器である可能性を残しており、今後検討の余地のあることを付記しておく。 表の記載のうち、

レベル値の単位は cm であり、機械高は132.0 m である。
 長さ・幅・厚さ・重さの単位は cm、g であり、No.324・388以外はすべて現存値である。

W ま と め

遺跡の地形について

赤城山はその裾野を四方に長くひき、山頂部より流れ出る河川によって幾多の開析谷を刻みつけている。鳥取福蔵寺 II 遺跡は、南麓に南北に流れる藤沢川と寺沢川にはさまれた舌状台地の西、藤沢川側寄りに位置する。巨視的には南へ傾斜し、微視的には上方が北西に、下方が南東に傾く。さらにこの2本の河川の間には小河川4本が南流しており、現地形を見ると、舌状台地と小河川により形成された開析谷(谷地)が入り組み、それぞれを挟み合うように混在している。開析谷では、狭隘ではあるが水田が営まれている。調査区西寄りの台地と藤沢川の低所では崖をなす。同様に調査区東寄りと五代町にあたる台地も崖状の地形を呈している。この比高は現状で約2~6mに及んでいる。そして、この斜面の末端部は比高差10m前後の直線的な段丘崖をなしており、旧利根川によって形成された広瀬川低地帯に接している。こうした中に所在する本遺跡では、舌状台地上には濃密な遺物の散布が見られたが、谷地状の地形をなす低地部分では、散布はほとんど認められなかった。また、その出土遺物を見ると、弥生時代の遺物こそ確認されなかったものの旧石器から近世までに及び、住居址等の遺構の存在も容易に推測された。特に、今回集中分布域から検出された多量の細石刃文化石器群は、当地域が約13,000年以上前の旧石器時代より生活圏として機能していたことを示すものである。小丘陵と小河川からなるこの地は、先人居住の好適地となっていたとみて差し支えないであろう。

遺構について

本遺跡地内では、縄文・古墳・歴史時代の竪穴住居址、工房址、掘立柱遺構、土坑、溝址、井戸址、そして旧石器の分布域(Fig. 12~14)が検出・確認された。旧石器の大部分は、調査区D区(Fig. 18)内舌状台地末端の表土より約50cm、約13,000年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中(Fig. 5)より検出された。分布域は舌状台地末端の北東から南西にかけて展開し、さらに調査区外に延びることが想定されたが、調査区内では、大きく2つの集中ブロックが確認された。検出数は明らかに細石刃文化石器群と認められるものだけでも350点余りに及ぶ。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、掻器、礫器など多岐に及び、今後の旧石器研究に貴重な情報を提供してくれるものも少なくない。石材の大半は、他地域(東北地方、北陸地方の日本海側の第三紀層か)で産出される硬質頁岩であるが、それらがどのような搬入経路で当地域に持ち込まれるに至ったかは推定の域を出ない。しかし、剥片、砕片等も数多く検出されていることから、持ち込まれた素材がここで製品に加工・製作されていた可能性は十分に考えられる。いずれにしても、これらの集中分布は、一定期間の継続した人間生活の痕跡を示すものであり、当地域が約13,000年以上前の旧石器時代より歴史を重ねてきたことを物語るものとなろう。

本遺跡地内に遺構が出現するのは、縄文時代前期からである。縄文住居址は、A区 (Fig. 15)を除く各調査区より計6軒を検出、また縄文の土坑数基を検出した。うちD-123号土坑 (Fig. 49)からは、ほぼ完形をとどめる注口土器 (Fig. 58)が出土した。土坑からこの種の土器が検出される例は少なく、どのような目的で入れられたのか興味深い。

前年度の鳥取福蔵寺遺跡では、縄文期以降で最も古い住居址の検出は7世紀中葉であったが、本遺跡地では西側台地(本書では調査区内外の舌状台地を東から東側台地、中央台地、西側台地と呼称し、

開析谷を東からA~C谷と呼称する・Fig. 6)末端のA区より4世紀中葉の住居址(H-51号住居址・Fig. 24)が確認されたほか、中央台地に位置するD・E区(Fig. 18・19)においても、5世紀末~7世紀初頭の古墳時代の住居址(H-61・86号住居址等、Fig. 28・40)計12軒が検出された。炉址を有するのは最も古いH-51号のみである。また、竈位置及び主軸方向が西・南・南西・北東のもの(6世紀初頭~7世紀初頭)が各1軒、1辺が7m近くに及ぶ大型のもの(6世紀後半~7世紀初頭)がうち2軒を占めた。4~5世紀代にややブランクがあるものの、このことから当地域では、住居が古墳時代前期よりほぼ連続して構築されていたことが分かる。なお、6世紀末~7世紀初頭の大型の住居址H-61号は、西に位置する竈の南側面に方形の貯蔵穴を有し、その形状・規模等が芳賀北原遺跡において確認された住居址に類似しており、同遺跡との関連性を示唆するものである。

奈良~平安時代の住居址の検出は29軒に及んだ。時期的には、7世紀後半から11世紀初頭にかけてのものである。形状は、竈が東壁中央から南寄りになるなど若干の違いはあるものの、いずれも正方形に近い10㎡前後の小型住居址が中心であり、竈の形態や主軸方向も近似性を呈している。これらの大半は、先の縄文・古墳時代住居址と形状、主軸方向等は一線を画しているものの、ほぼ同一場所に占地している。また、西側台地上に位置する前年度調査区A-2・3区、B-1区(Fig. 6)、本遺跡調査区A・B区(Fig. 15・16)より、4世紀中葉~11世紀初頭の住居址群が検出されていることから、同台地ではほぼ全域にわたり住居が進出し、一集落を形成していたと推察できる。さらに、B谷を挟んで北東に位置する中央台地においても、D・E区より5世紀末~10世紀末までの住居址群が確認されており、それらの検出状況から同台地もほぼ全域が居住域として機能していたと考えられる。ただし、同台地では舌状末端に近づくにつれ、H-66号住居址(Fig. 29)を最後に、以南には古墳時代住居址は確認されなくなることから、同時期には以南における住居構築は条件的に不適当であったものと思われる。当時の生活が水田耕作と不可分の関係をなしていたことを考え合わせれば、住居圏の進出には地形の安定とともにそれに伴う可耕地の拡大が欠くべからざるものとなろう。奈良~平安期には、政治的な意図も加わって、谷地を挟んだ台地上に前時代からの「伝統集落」を核として周辺部にひろがりを見せていったものとみられる。

C区を除く各調査区では、奈良・平安期を中心にこれらの住居址等の間で少なからず重複が見られた。D区では、8世紀末~9世紀前半にかけての、床面に旧周溝の痕跡を残す存続中に規模を広げたとみられる住居(H-54号住居址・Fig. 25)、9世紀初頭~前半の主軸を真東に変えた造り替えの住居(H-62・71号住居址・Fig. 29)が認められた。また、B・D・E区では最大 3 棟の重複(立て替え)を含む掘立柱遺構 9 棟(Fig. 44~48)が確認された。うちB-4号(奈良時代後半)を除く8 棟は、9世紀後半~10世紀後半に存続していたものとみられる。前年度調査区においても、10世紀後半の住居址 5 軒の重複が報告されており、8世紀~10世紀にかけて、本地域に住まう先人たちが、厳しい自然・社会環境の中で営々として大地にしがみついて生活していたことをうかがわせるものである。

B区より検出された工房址(Fig. 48)もこの渦中、9世紀後半~に機能していたとみられる。前年度調査区A-3区からは、9世紀中頃の精錬鍛治炉が確認された。そして10世紀代の住居址より同炉で鍛造されたと思われる紡錘車、刀子などの出土を報告しており、本集落内での自前の鉄製品製造の可能性を示唆している。今回の工房址の検出はこの可能性をさらに肯定する資料となるものと言えよう。すなわち、本工房址はその形態等から鉄製品に関連する加工工房であったことが確認された。周囲に同遺構とほぼ時代を前後する住居址が検出されていることは、当時の集落内における鍛治工人の存在を想定させるものである。このことは、当時の農村社会における鉄製農工具の重要性を示唆す

るものであり、本工房址が当時の集落に付随して、集落内で原料鉄を利用して鍛造・加工に携わっていた人々がいたことをうかがわせる。重複する10世紀代のH-56号住居址(Fig. 25)等からも鉄鏃などの鉄製品が出土しており、本工房址及び先の精錬鍛治炉、ひいては拠点集落とみられる芳賀東部遺跡における製錬炉との関連から製鉄工程の流れを跡づける資料とすることができよう。このほか、A区では、前年度B-1区において中近世の在地有力土豪階級の屋敷の一部と目される遺構群が検出された整地箇所の延長とみられる部分も認められた。すなわち、A区ではロームの堆積は東に行くにつれ下降する。そのロームが落ち込む境目より、堅く締まった灰褐色土の堆積がローム平坦面とほぼ同じ高さにまで認められる。そしてこの部分に本来堆積していたとみられる As-C、Hr-FP を含む黒褐色土層が削平された形跡が認められること、位置的にもB-1区整地部分の延長線上とほぼ重なることからも、同部分がB-1区の整地箇所の延長であり、300㎡を超える平地部分を造成していたことを推察させる。

以上、本遺跡について、前年度の調査成果と比較・検討しつつ、その課題を部分的にではあるが補いながら概観してきた。本遺跡においても、前年度同様、11世紀代を最後に住居址の検出は途絶えたが、先に述べた中近世における整地の延長部分とみられる箇所が確認されたことで、時代的な隔たりはあるものの、11世紀以降もこの地に集落が存続してきた可能性をより肯定的にとらえる資料を追加することができた。また今回、中央台地より住居址・掘立柱遺構群等が確認されたことで、西側台地とともにB谷を望む北東方面台地へも谷地部に想定される水田耕作と密接な係りをもつとみられる定着居住域が展開されていたであろうことがほぼ明らかになった。また、旧石器分布域の確認によって、当地域の歴史がはるか旧石器時代にまで溯ることも実証できた。もちろん、ごく限られた調査範囲から得られる情報は狭小かつ断片的なものである点は否めない。しかし、本調査によって、この地で生活を営んだ先人の足跡を知る上での貴重な資料が得られたものと考える。今後、当地域を含めた芳賀地区の調査の進展により、その歴史のより一層の解明がなされていくことを期待したい。

《参考文献》

前橋市教育委員会	(1984)	芳賀東部団地遺跡I	- 古墳〜平安時代編その1-
同	(1988)	芳賀東部団地遺跡Ⅱ	- 古墳~平安時代編その2-
同	(1990)	芳賀東部団地遺跡Ⅲ	-縄文・中近世編-
同	(1984)	小神明遺跡群Ⅱ	
同	(1987)	小神明遺跡群 V	
同	(昭和56年度)	檜 峯 遺 跡	
同	(昭和58年度)	端気遺跡群Ⅱ	
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	(1990)	芳賀北曲輪遺跡	
司	(1992)	芳賀北原遺跡	
同	(1992)	五代檜峯Ⅱ遺跡	
同	(1997)	鳥取福蔵寺遺跡	
前橋市「地形地質」	(1971)	前橋市史	
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団	(1993)	白草遺跡Ⅰ・北篠場泊	貴跡 (Ⅲ)

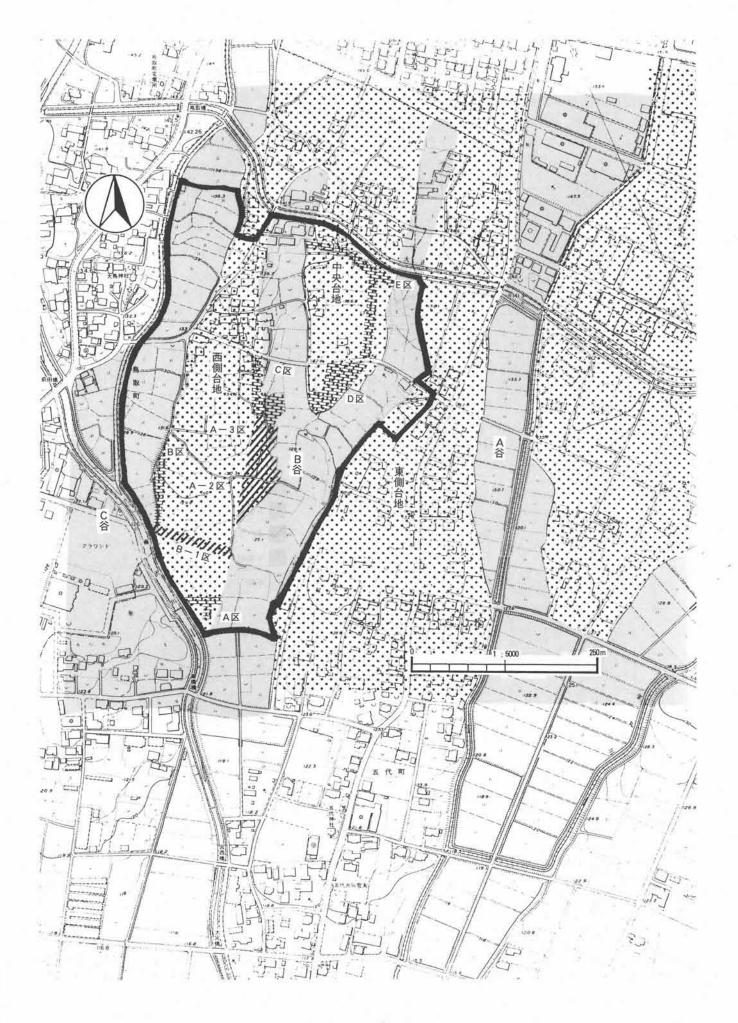


Fig. 6 遺跡地形図

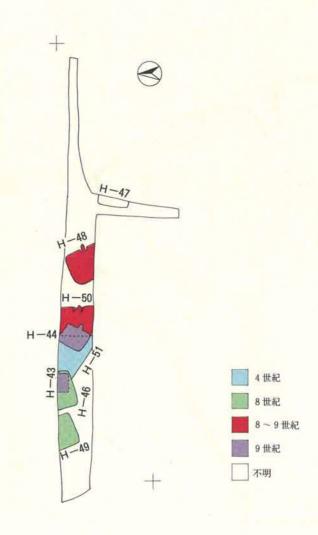


Fig. 7 遺構分布図 (A区)

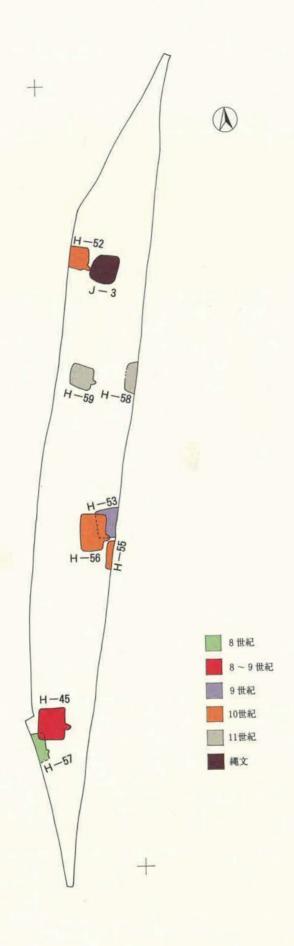


Fig. 8 遺構分布図 (B区)

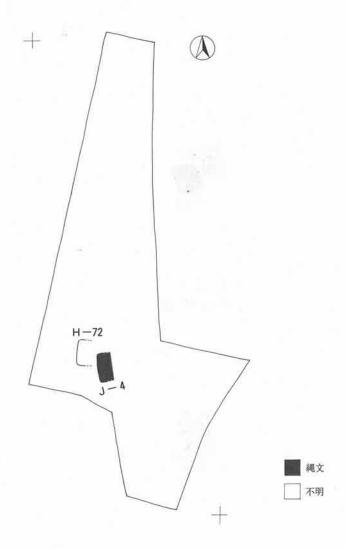


Fig. 9 遺構分布図 (C区)

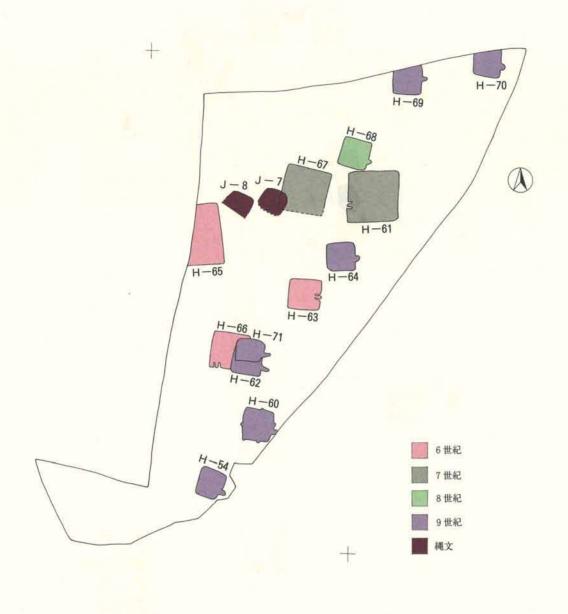


Fig. 10 遺構分布図 (D区)

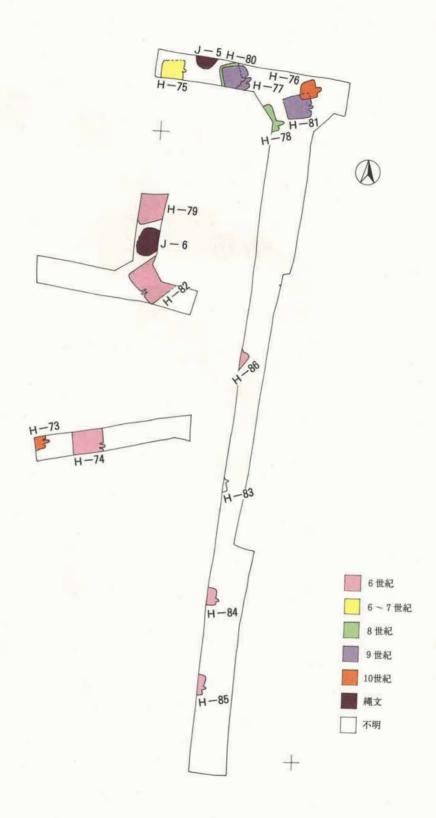


Fig. 11 遺構分布図 (E区)



T.			
· 50			
V			
- 2			
	39		

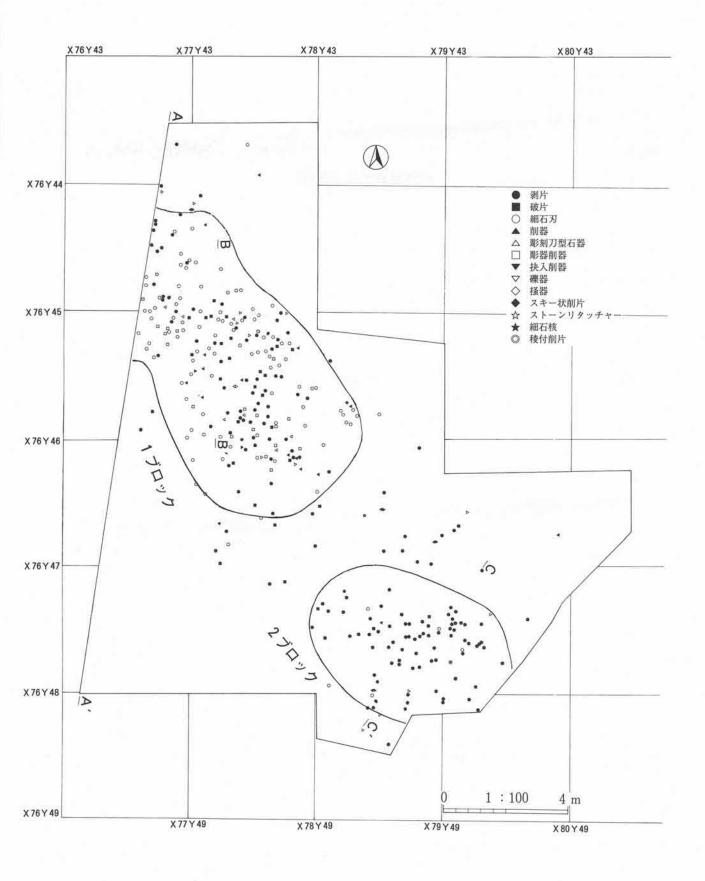
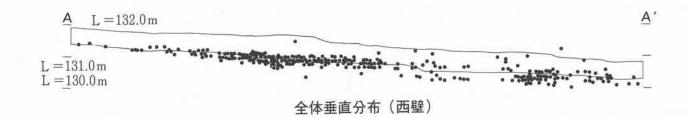
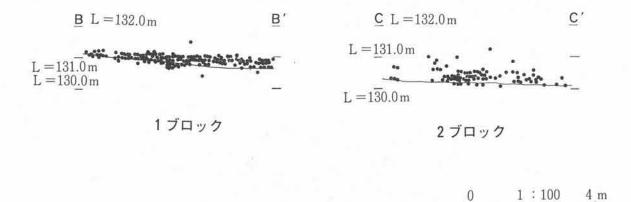


Fig. 13 D区旧石器器種別平面分布図





注)分布図 (Fig. 12-14) は、今回検出されたもののうち、旧石器と断定され、層位・レベル読値が明らかなものをとり上げ作成した。

Fig. 14 D区旧石器垂直分布図

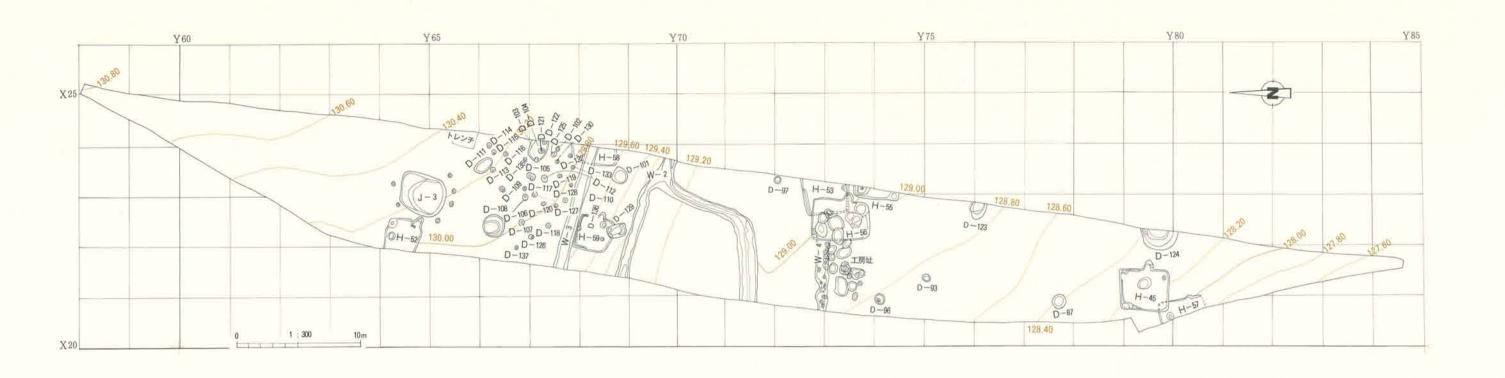


Fig. 16 遺跡·遺構全体図(B区)

1 5	
12	
3.5	
Ε	
1.1	

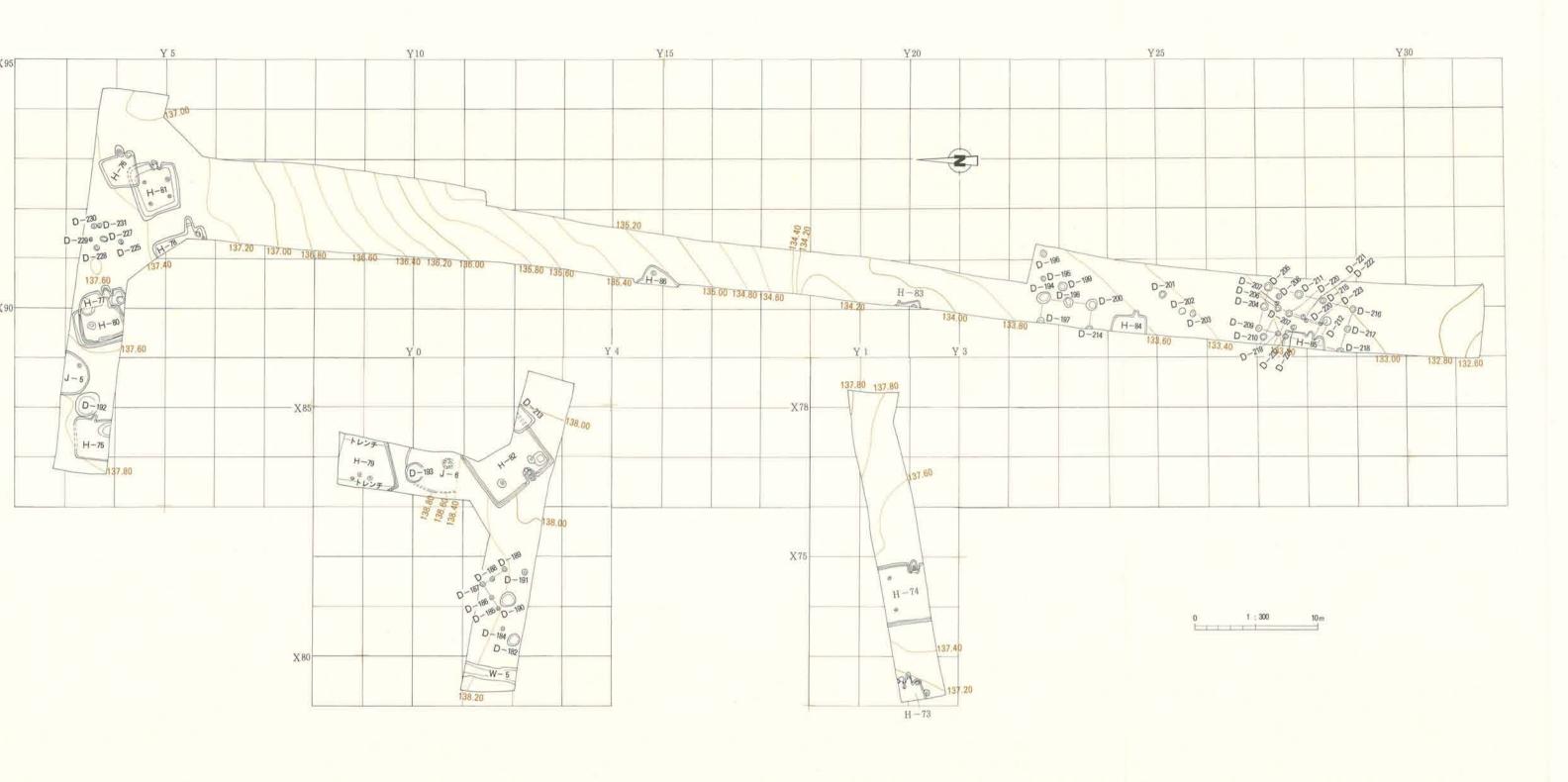


Fig. 19 遺跡·遺構全体図(E区)





Fig. 15 遺跡·遺構全体図 (A区)

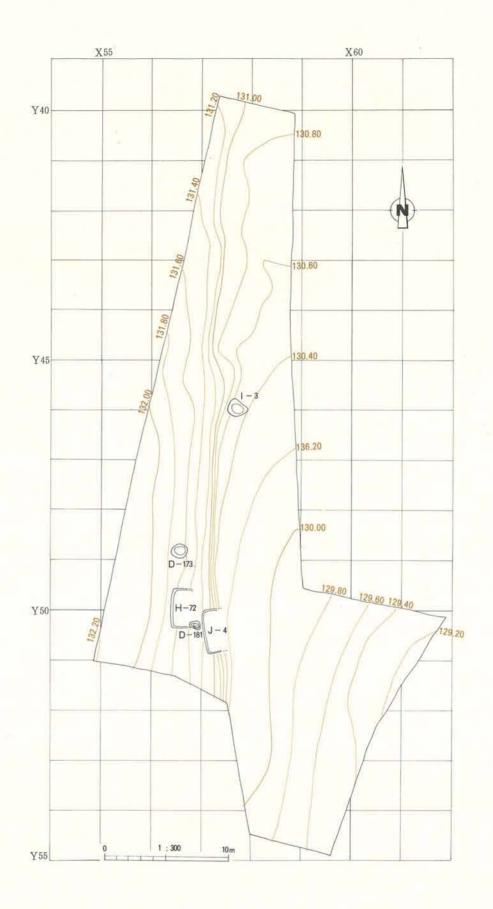


Fig. 17 遺跡·遺構全体図 (C区)

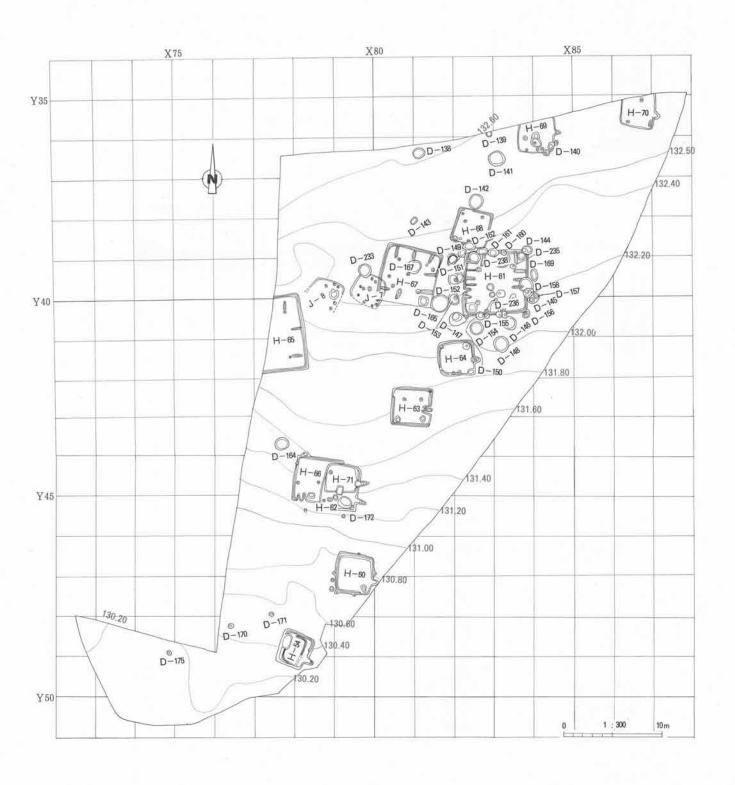
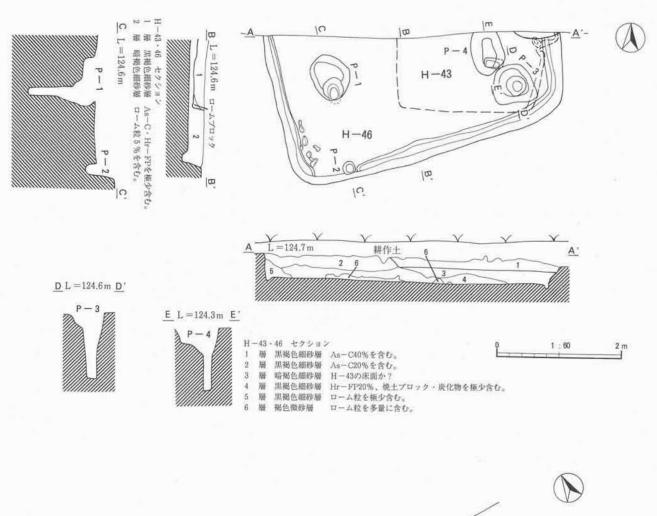


Fig. 18 遺跡·遺構全体図 (D区)



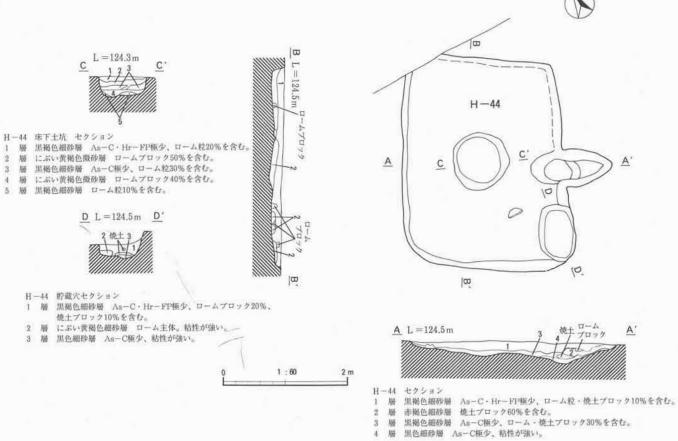


Fig. 20 H-43·44·46号住居址

165 3 105 4 RS H-44 セクション 飚

黒褐色細砂層 As-C極少、Hr-FP・ローム・焼土プロック10%を含む。 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP極少、ローム・焼土プロック20%を含む。

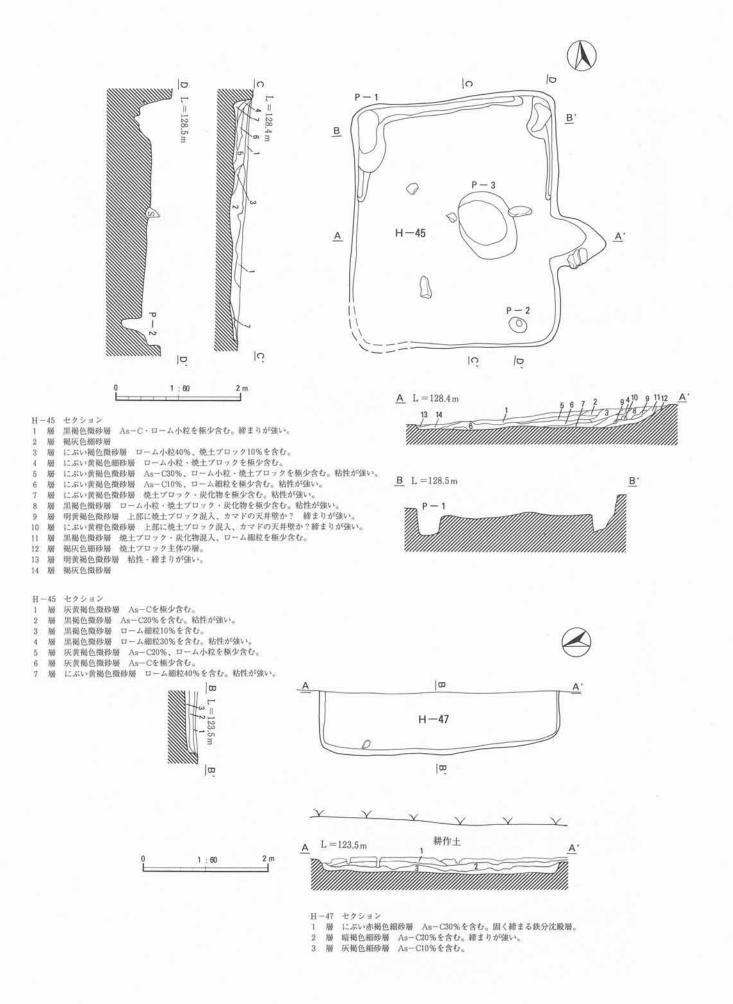


Fig. 21 H-45·47号住居址

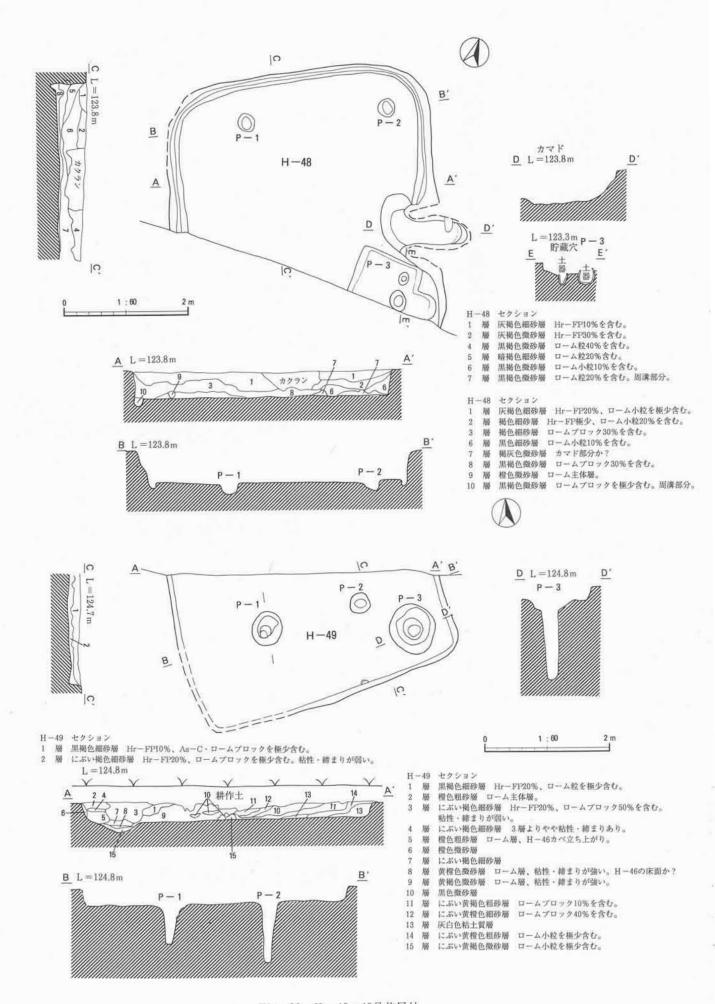


Fig. 22 H-48·49号住居址

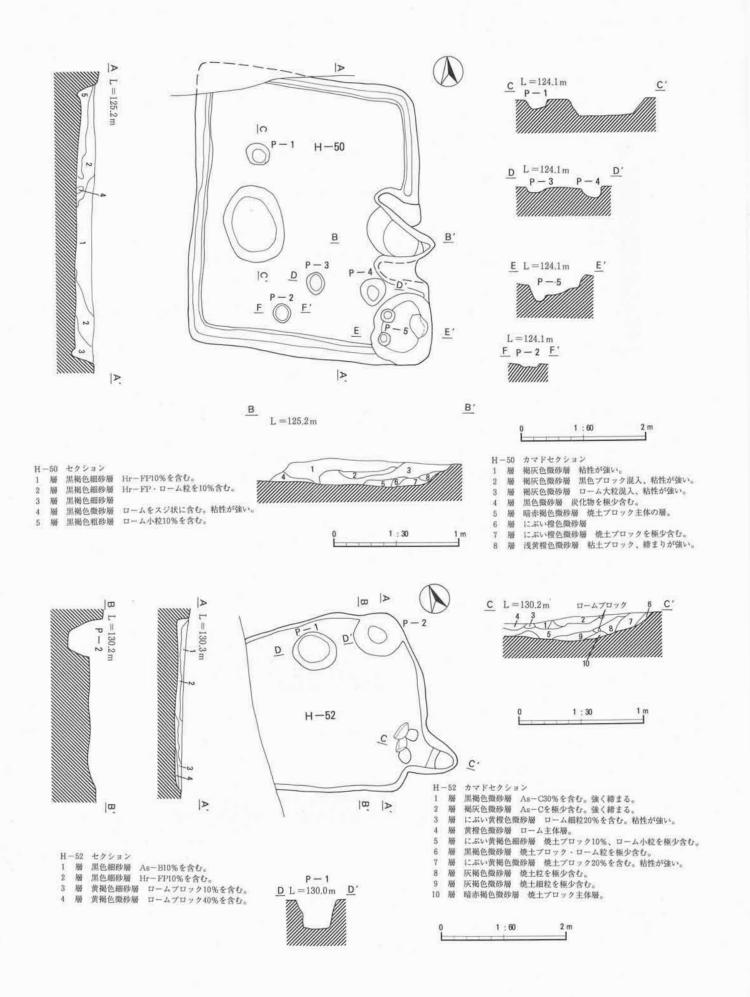


Fig. 23 H-50·52号住居址



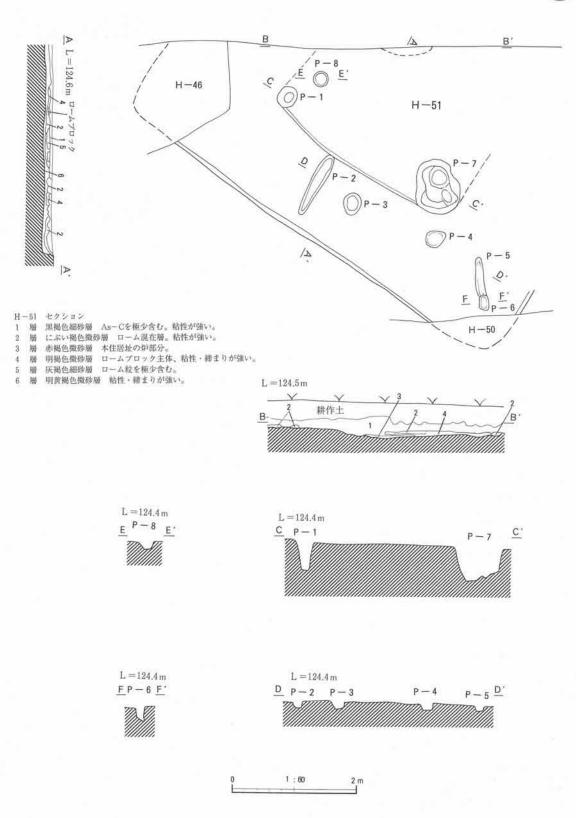


Fig. 24 H-51号住居址

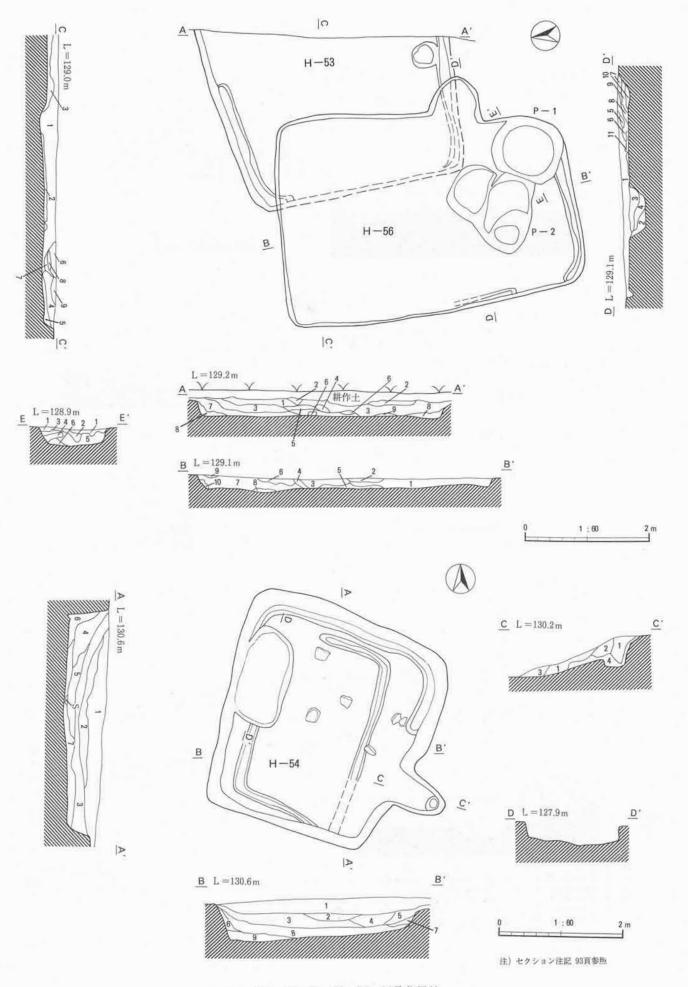


Fig. 25 H-53·54·56号住居址

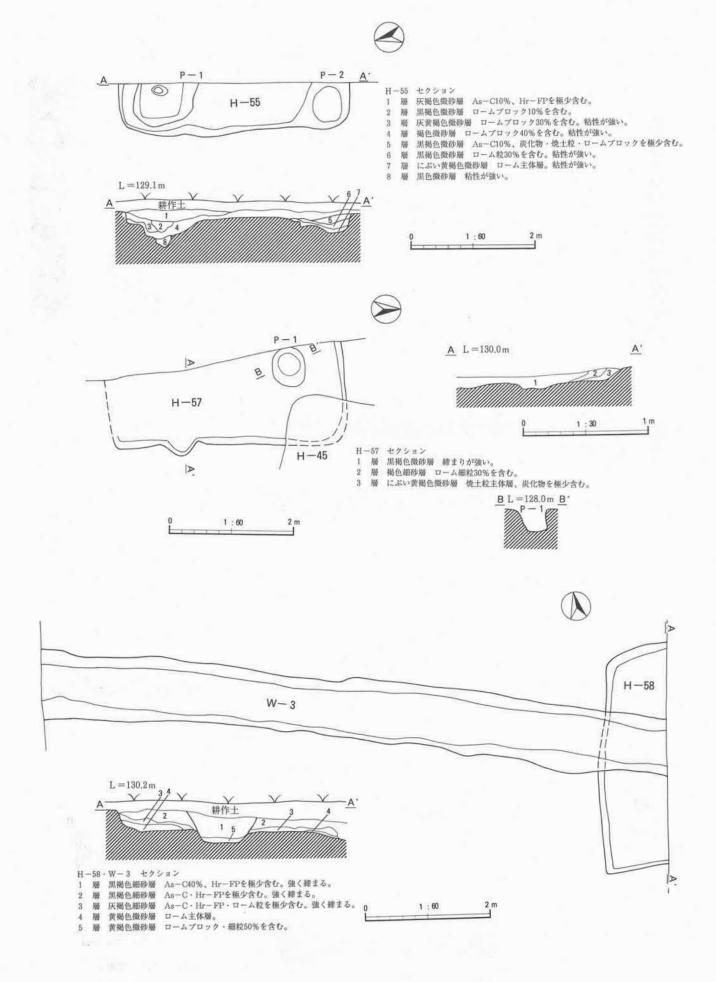


Fig. 26 H-55·57·58号住居址、W-3号溝址

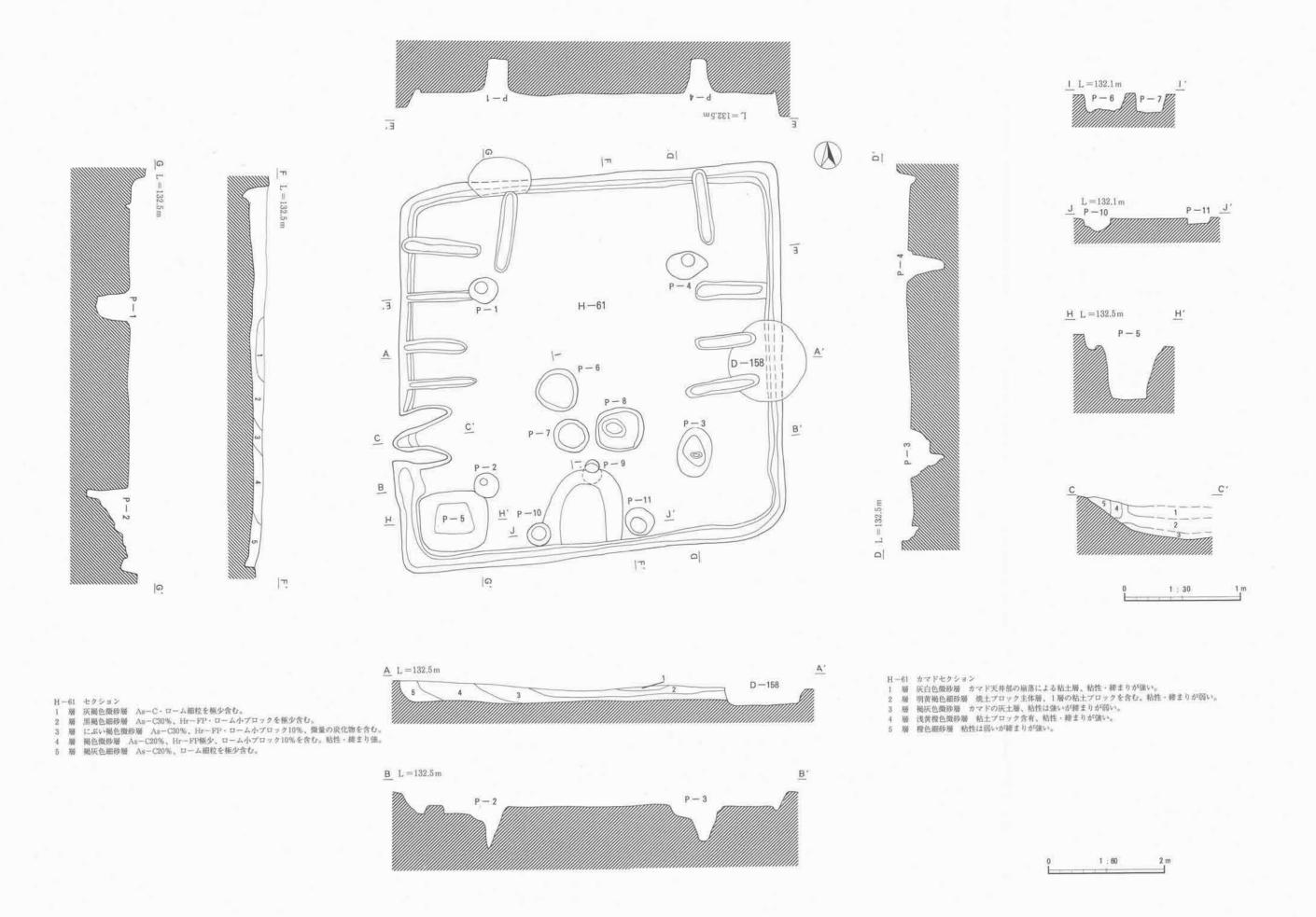


Fig. 28 H-61号住居址、D-158号土坑

9			
¥			
١.			
,			
*			
*:			
11			
ì			
		30	

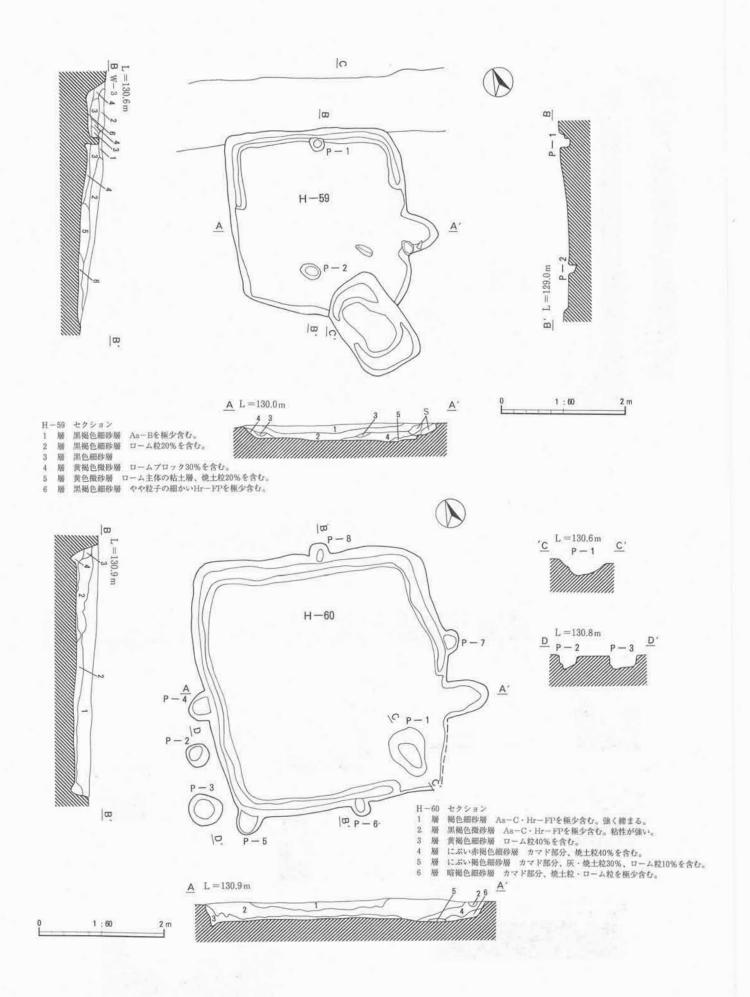


Fig. 27 H-59·60号住居址

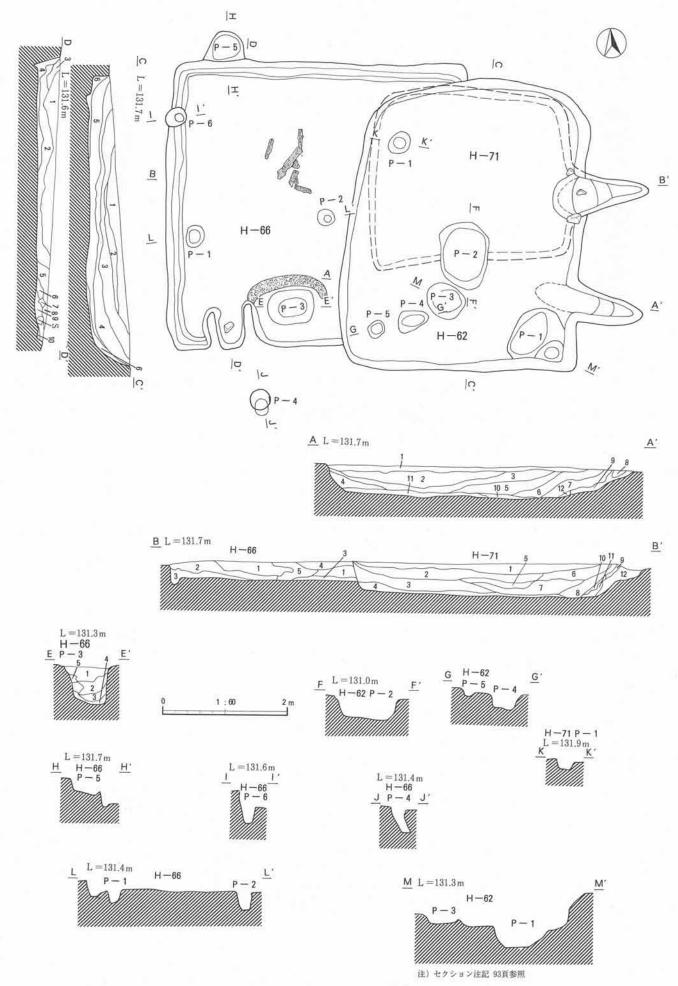


Fig. 29 H-62·66·71号住居址

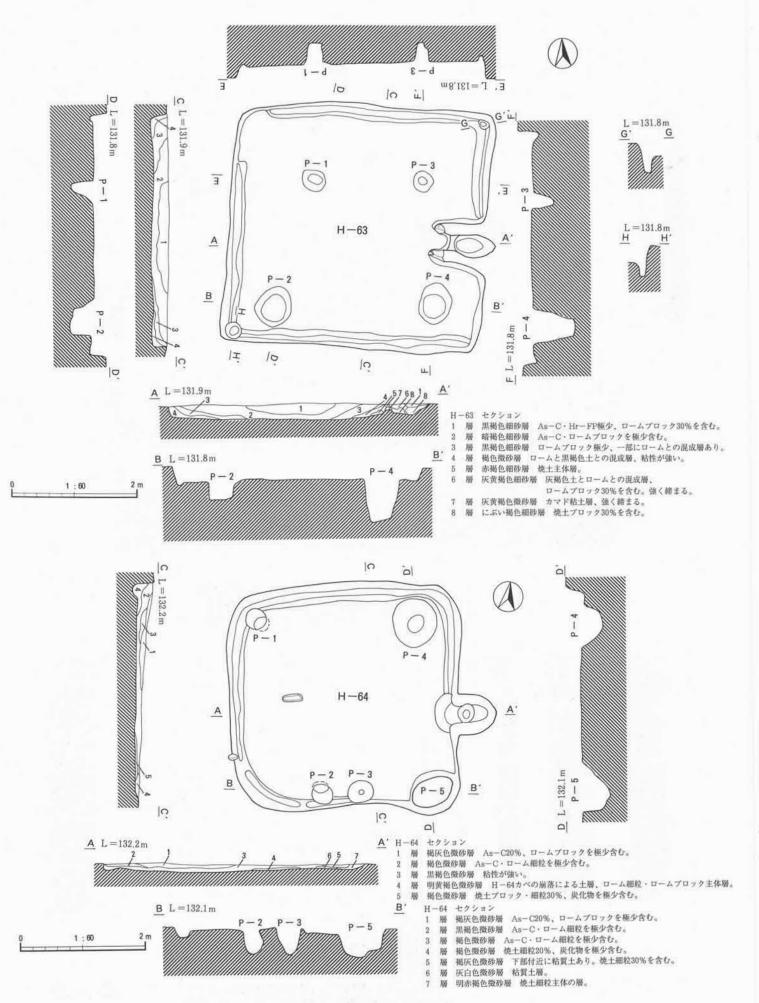


Fig. 30 H-63·64号住居址

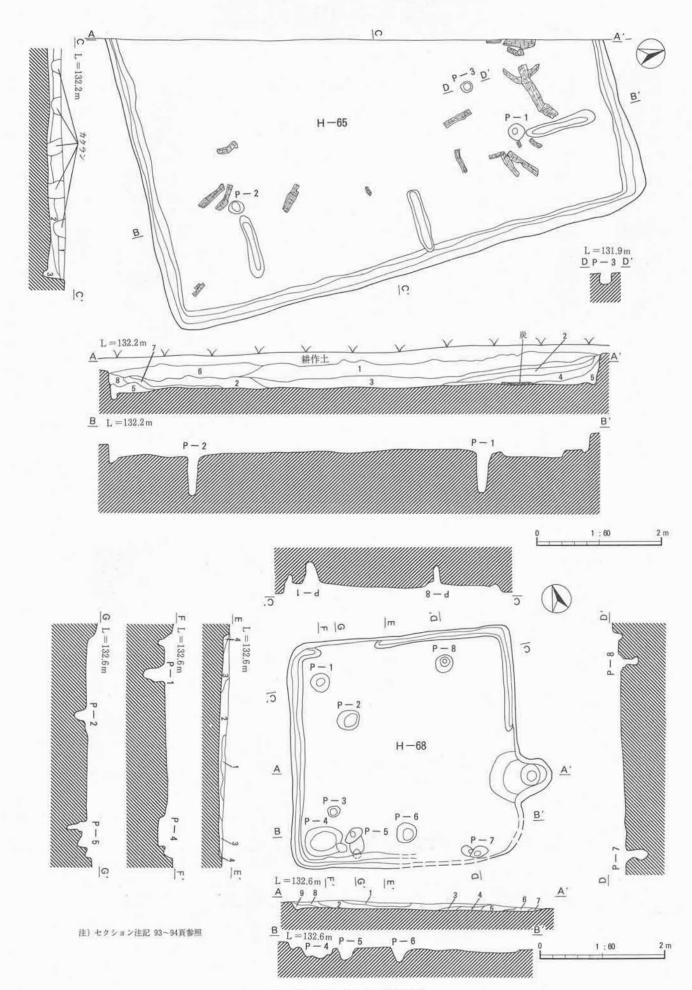


Fig. 31 H-65·68号住居址

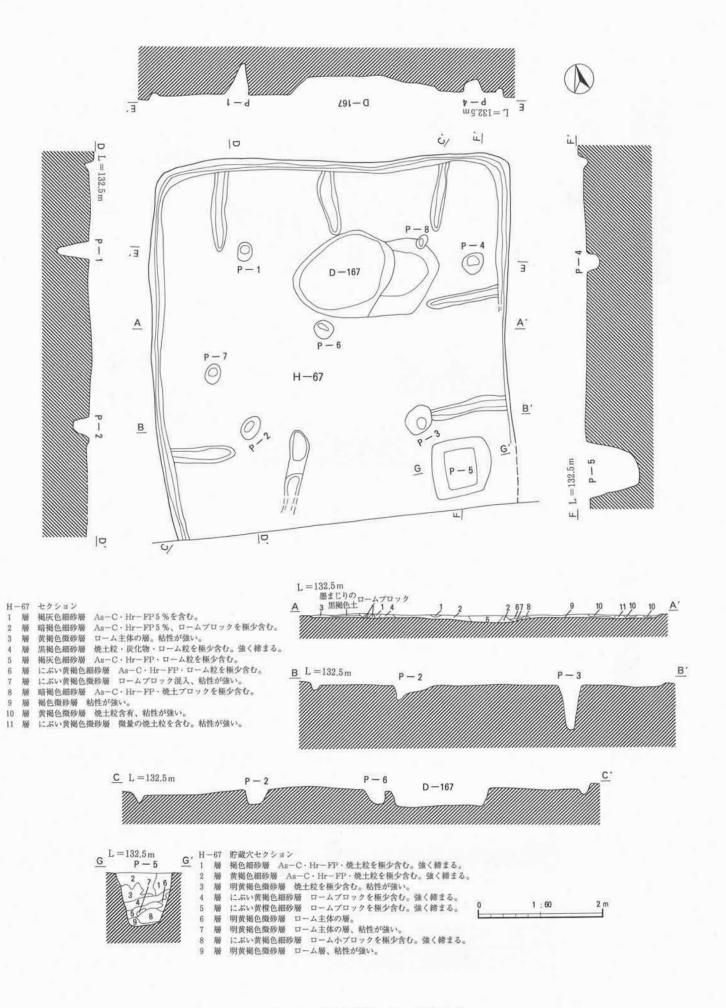


Fig. 32 H-67号住居址、D-167号土坑

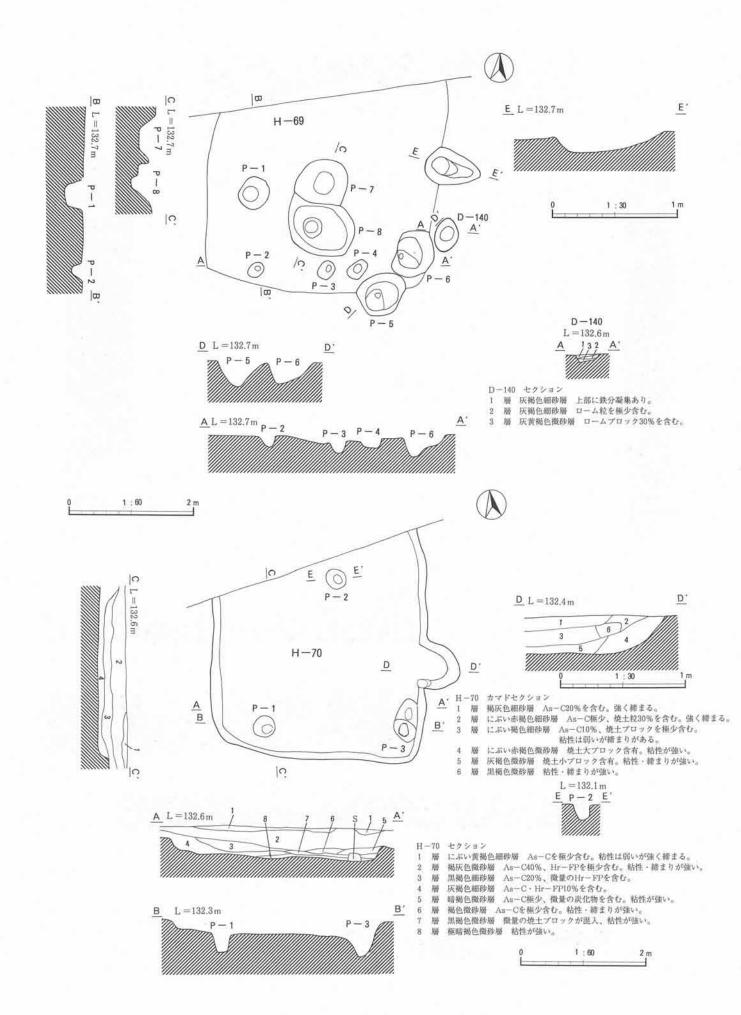


Fig. 33 H-69·70号住居址、D-140号土坑

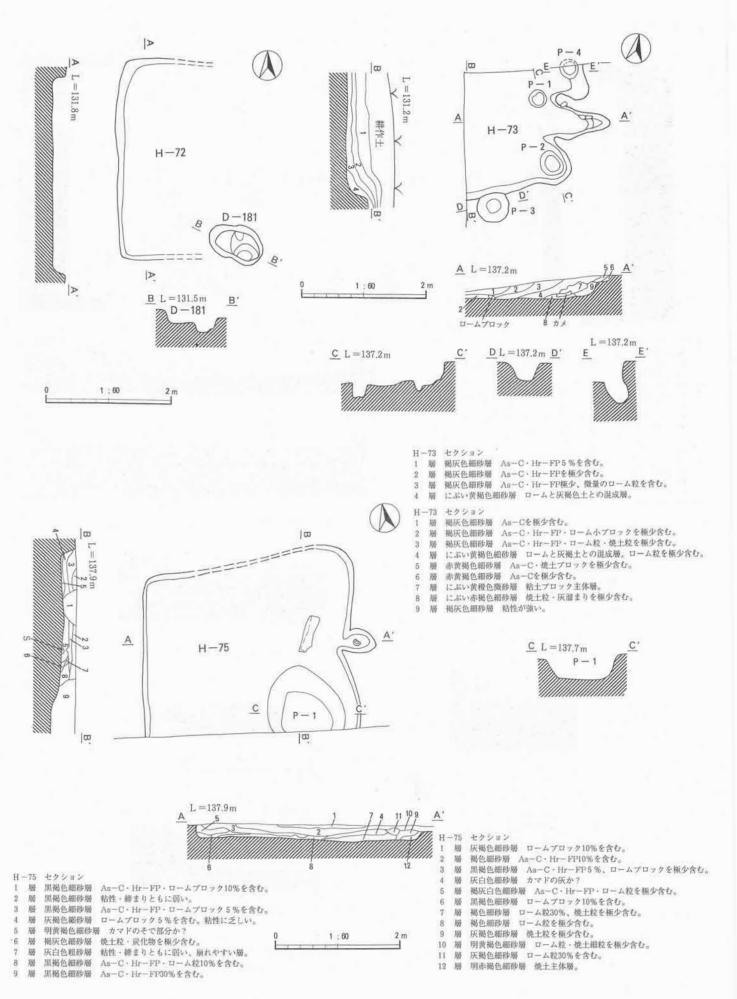


Fig. 34 H-72·73·75号住居址、D-181号土坑

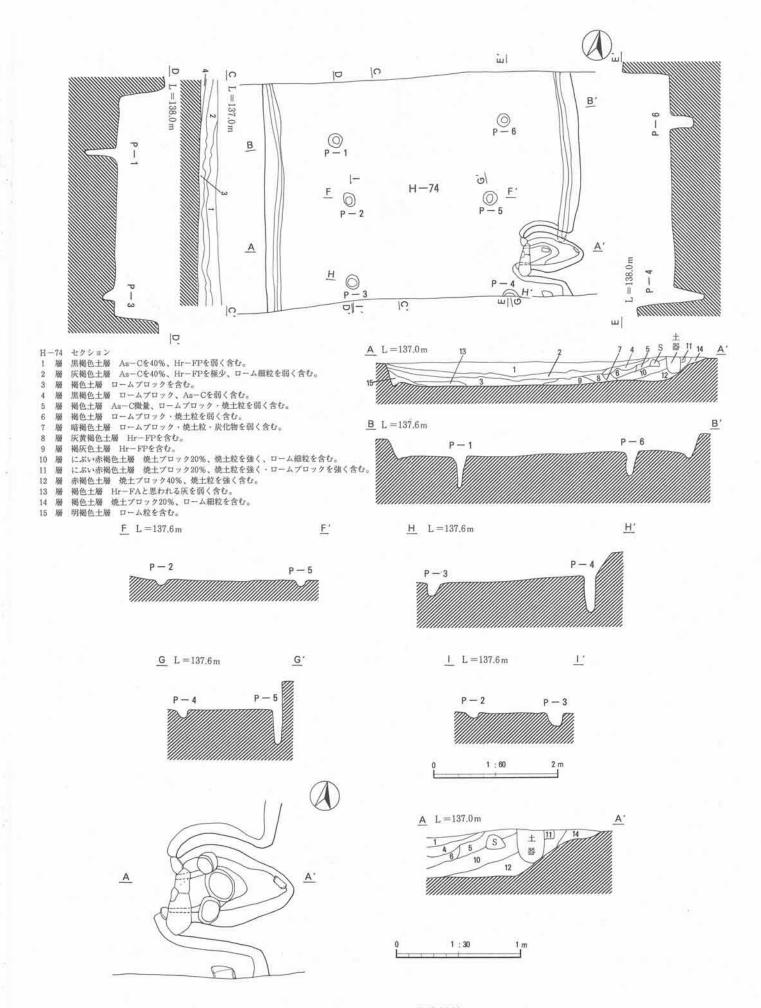


Fig. 35 H-74号住居址

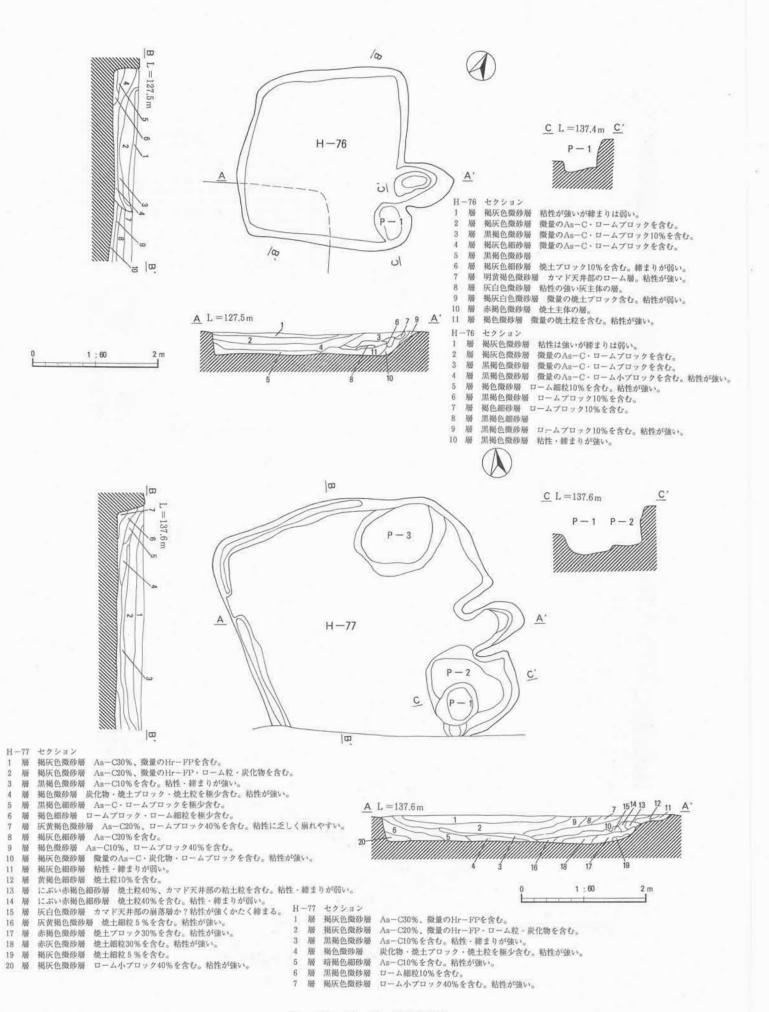
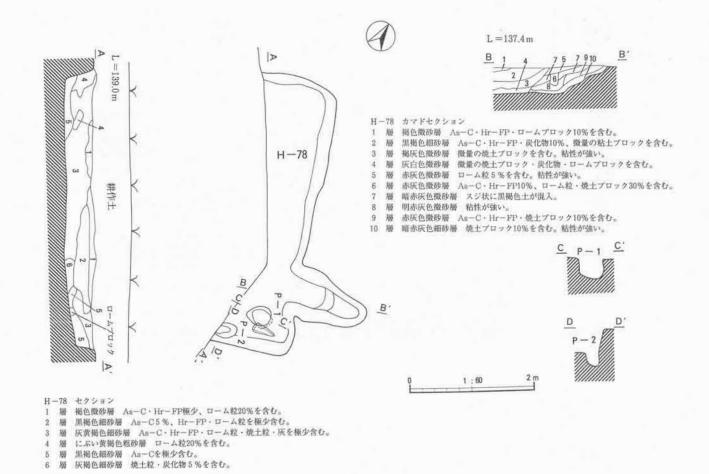


Fig. 36 H-76·77号住居址



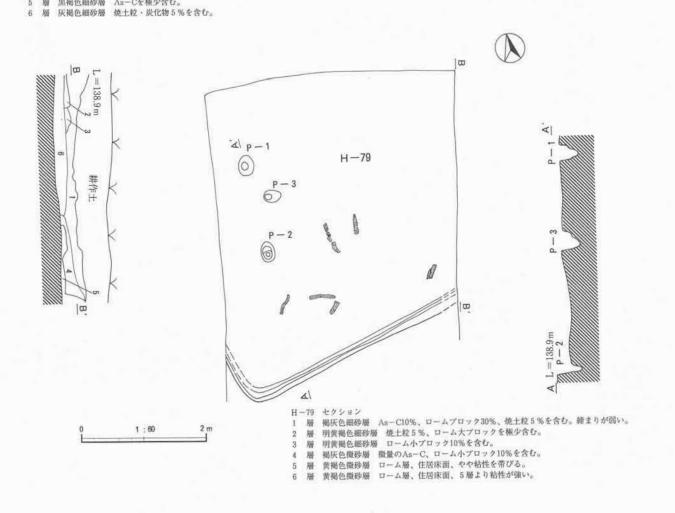


Fig. 37 H-78·79号住居址

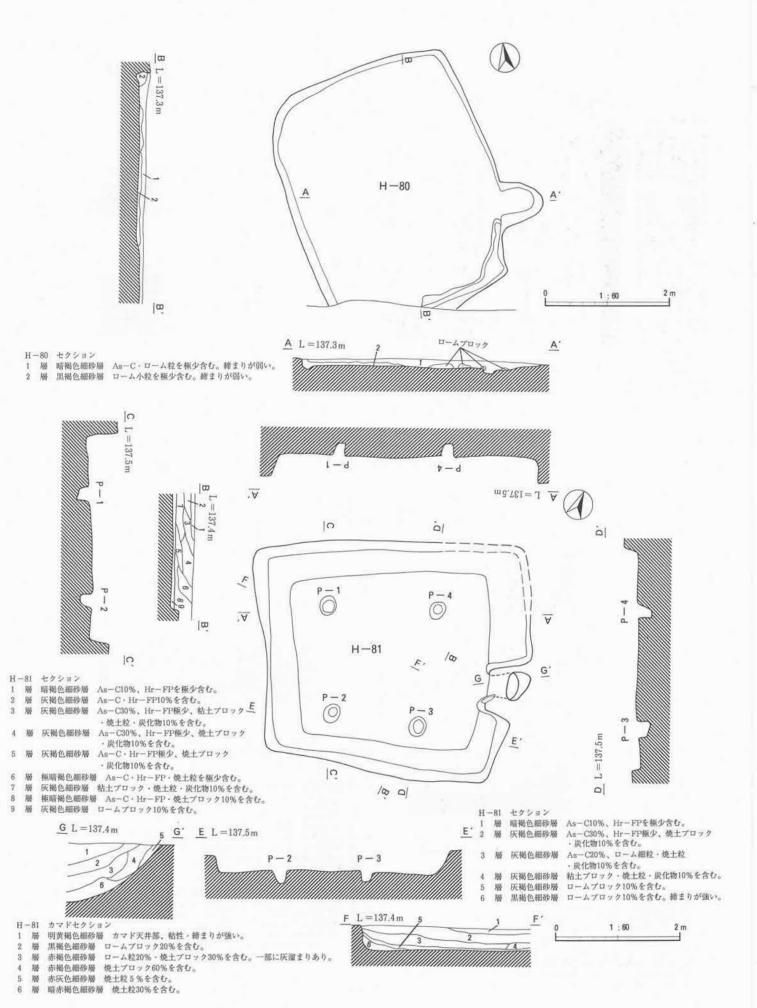


Fig. 38 H-80·81号住居址

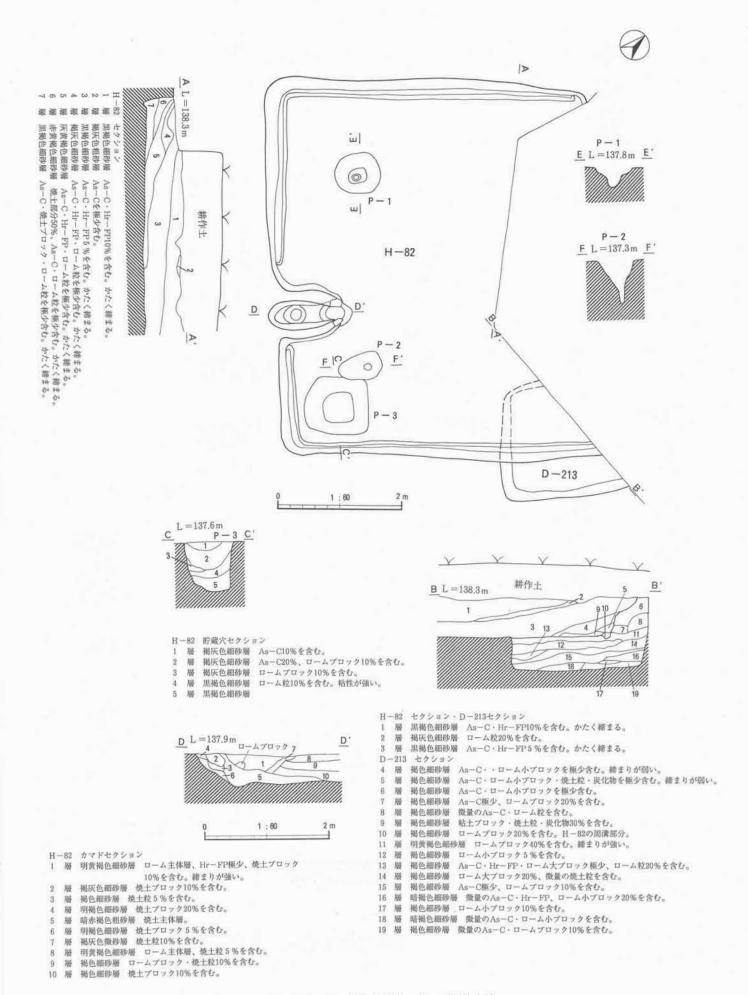
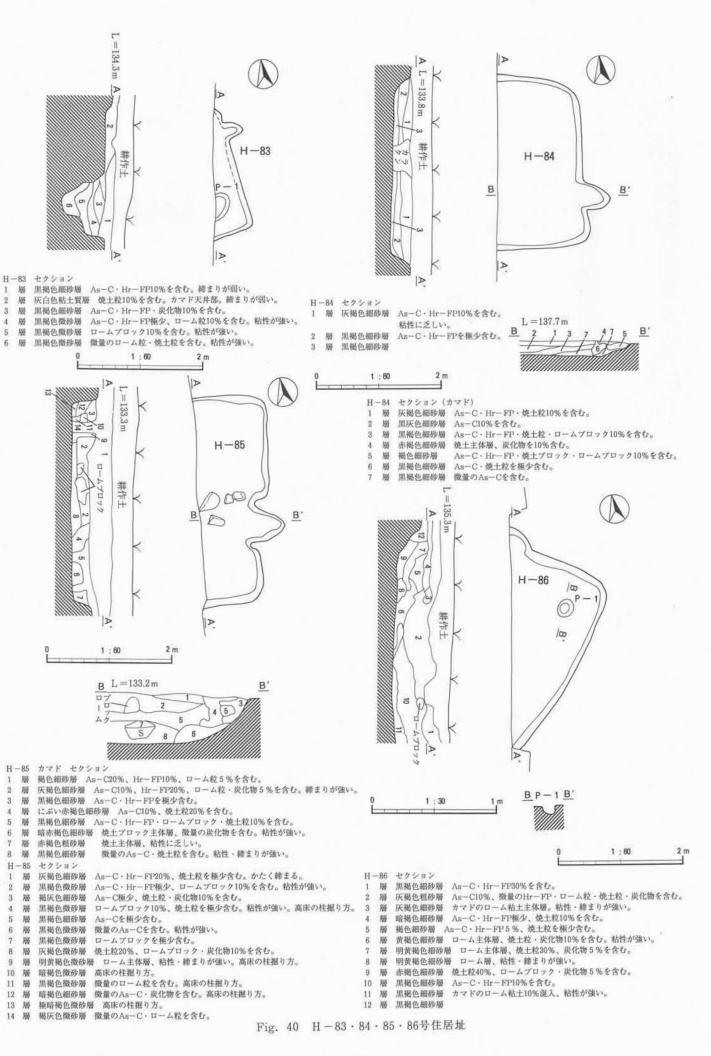


Fig. 39 H-82号住居址、D-213号土坑



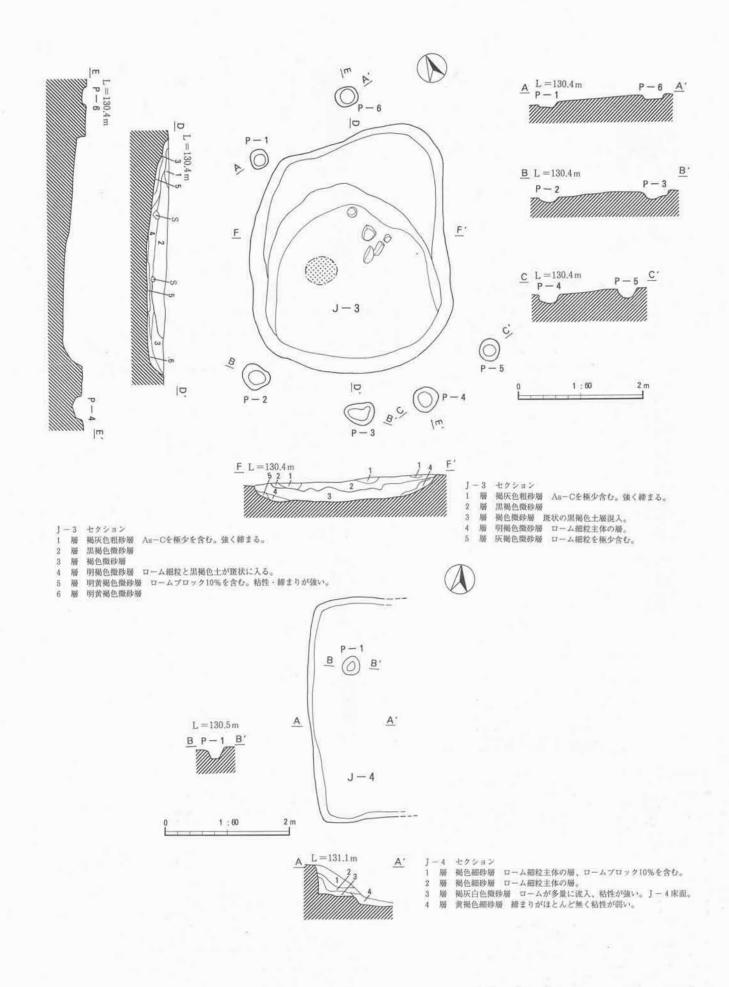


Fig. 41 J-3·4号住居址

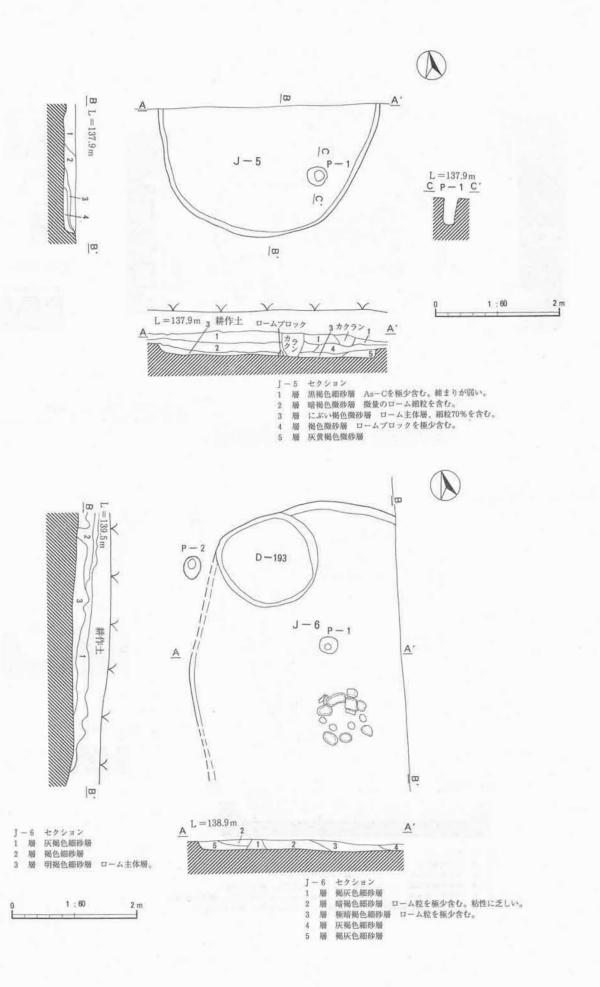


Fig. 42 J-5·6号住居址、D-193号土坑

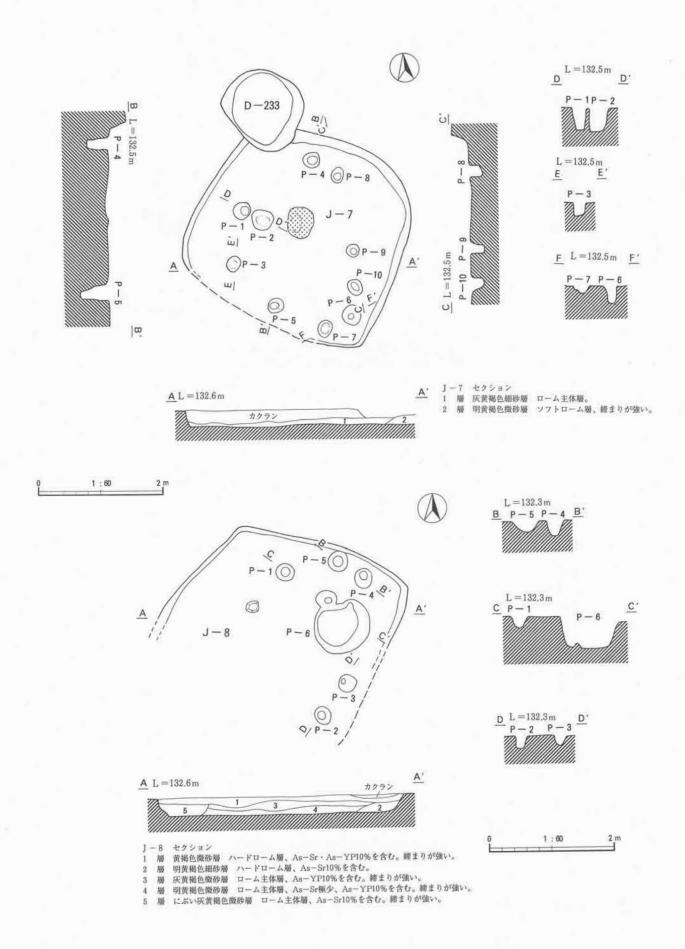


Fig. 43 J-7·8号住居址、D-233号土坑

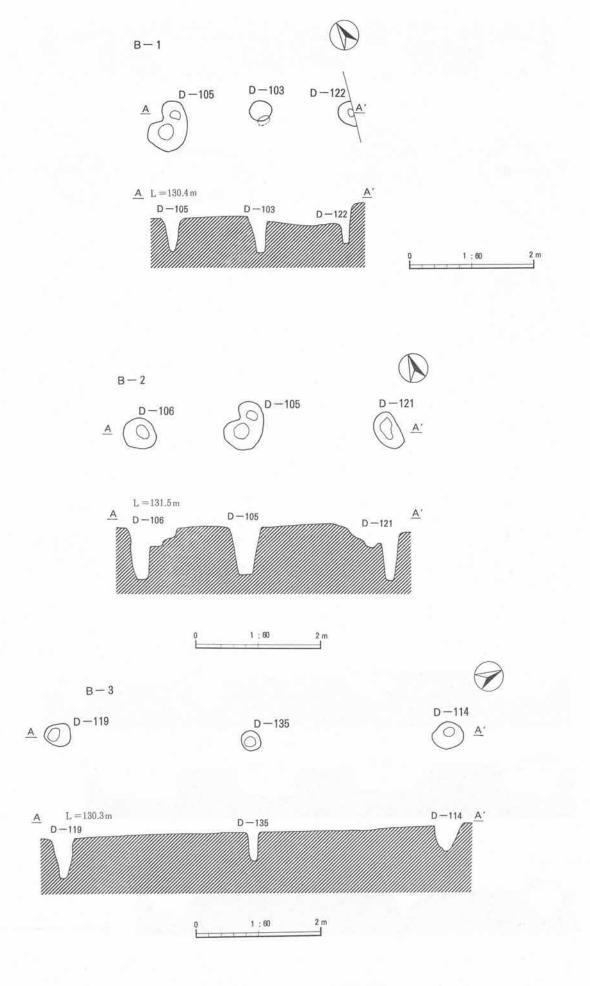


Fig. 44 B-1·2·3号掘立柱遺構

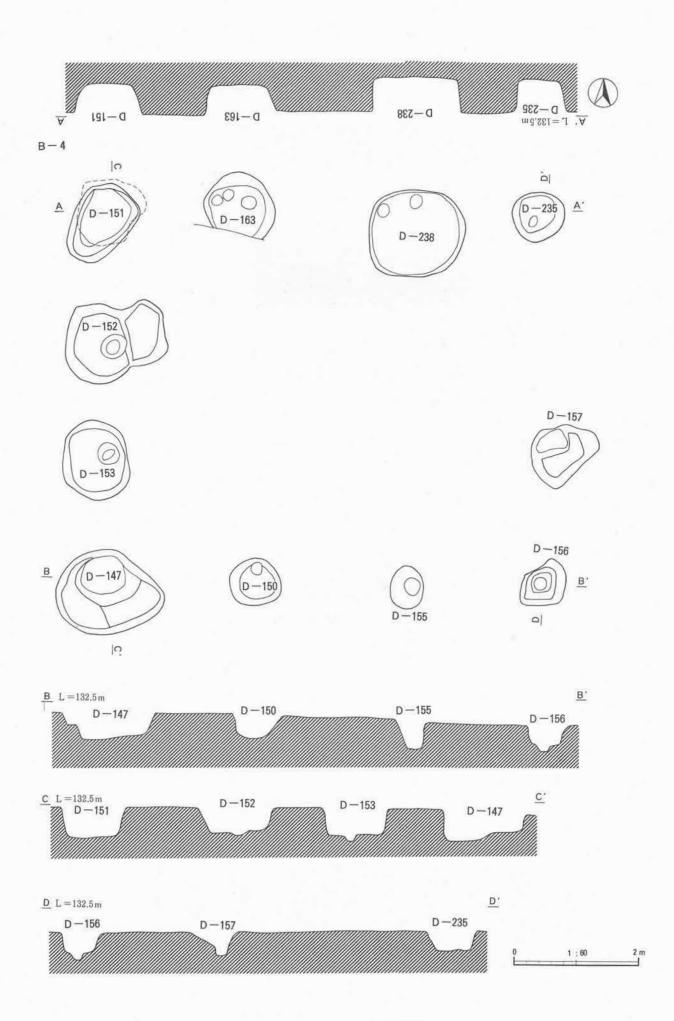


Fig. 45 B-4号掘立柱遺構

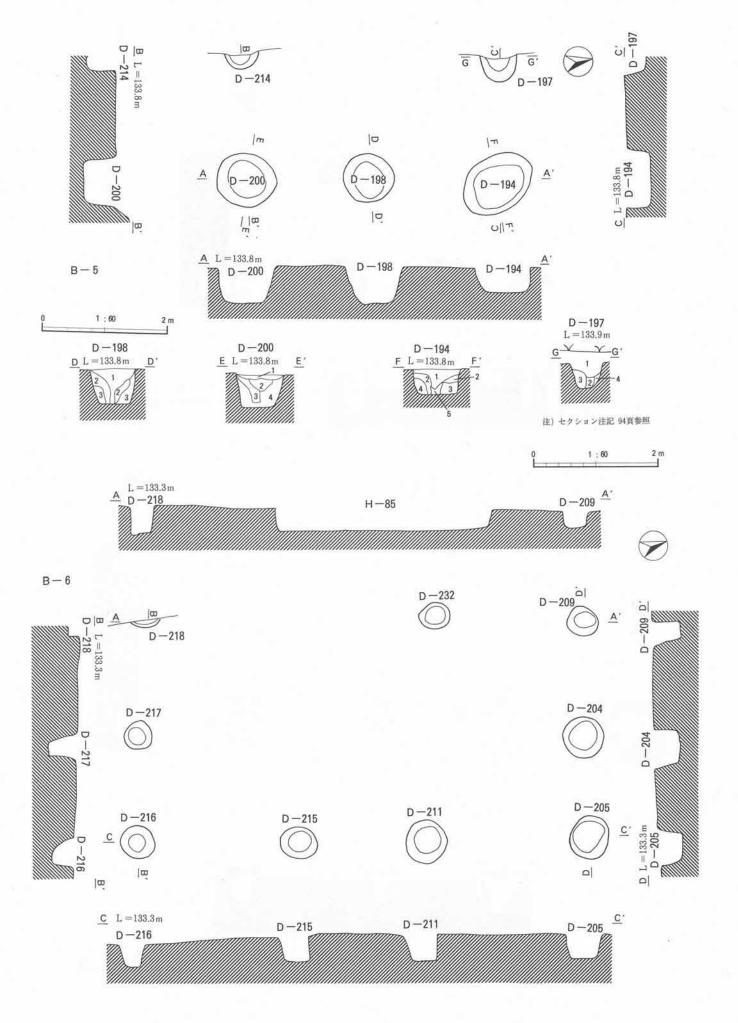


Fig. 46 B-5·6号掘立柱遺構

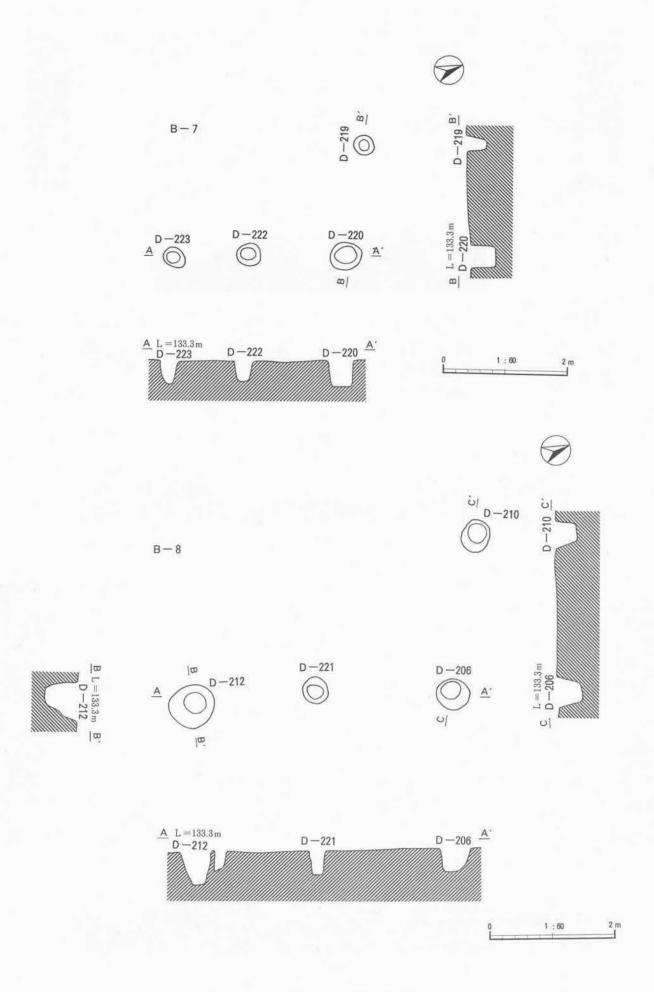


Fig. 47 B-7·8号掘立柱遺構

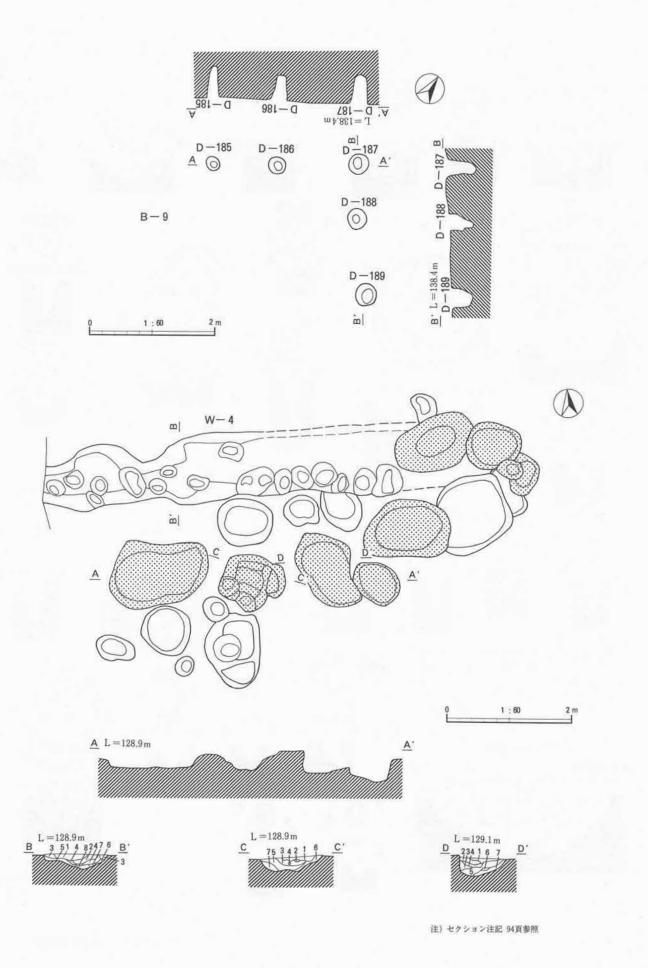
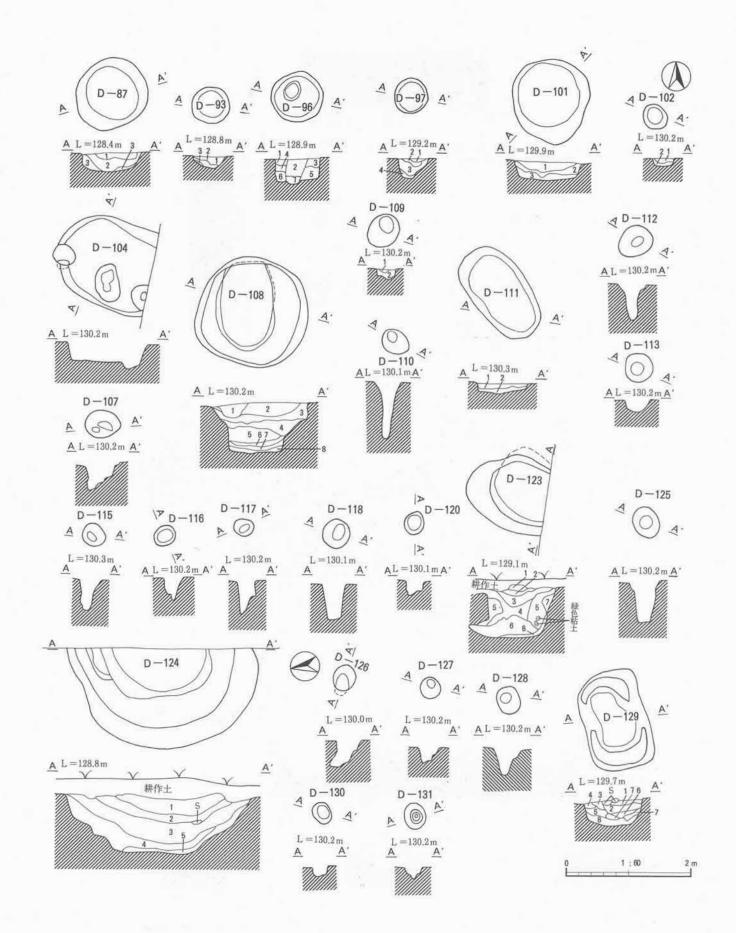


Fig. 48 B-9号掘立柱遺構、工房址1·2号、W-4号溝址



注) セクション注記 94頁参照

Fig. 49 D-87·93·96·97·101·102·104·107~113·115~118·120·123~131号土坑

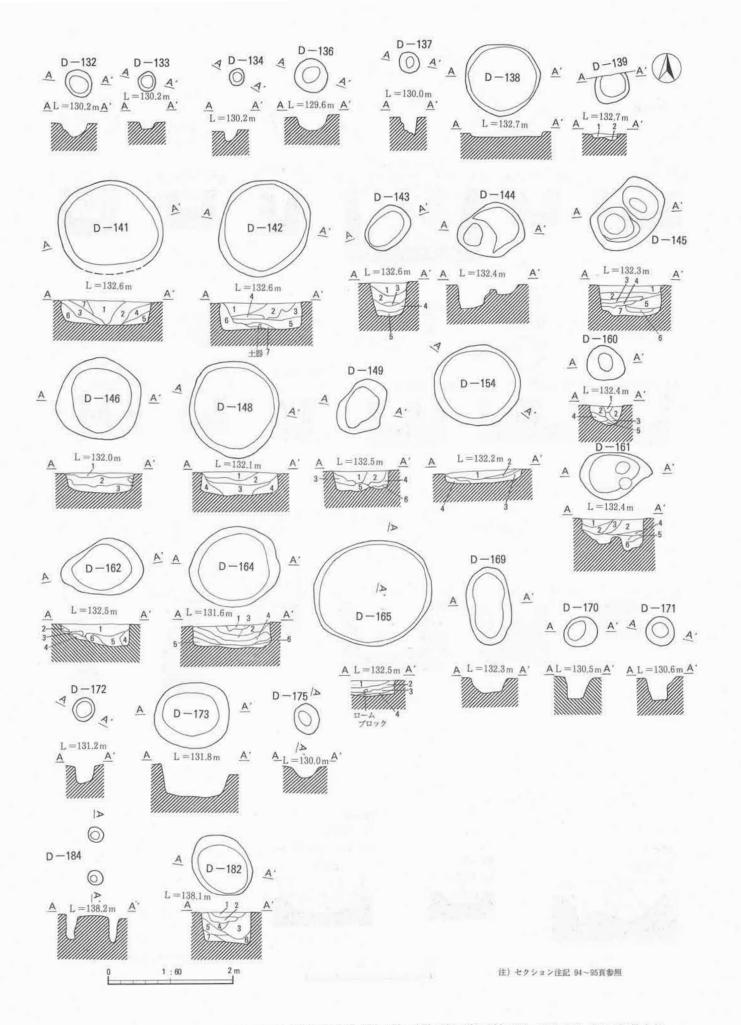


Fig. 50 D-132~134·136~139·141~146·148·149·154·160~162·164·165·169·170~173·175·182·184号土坑

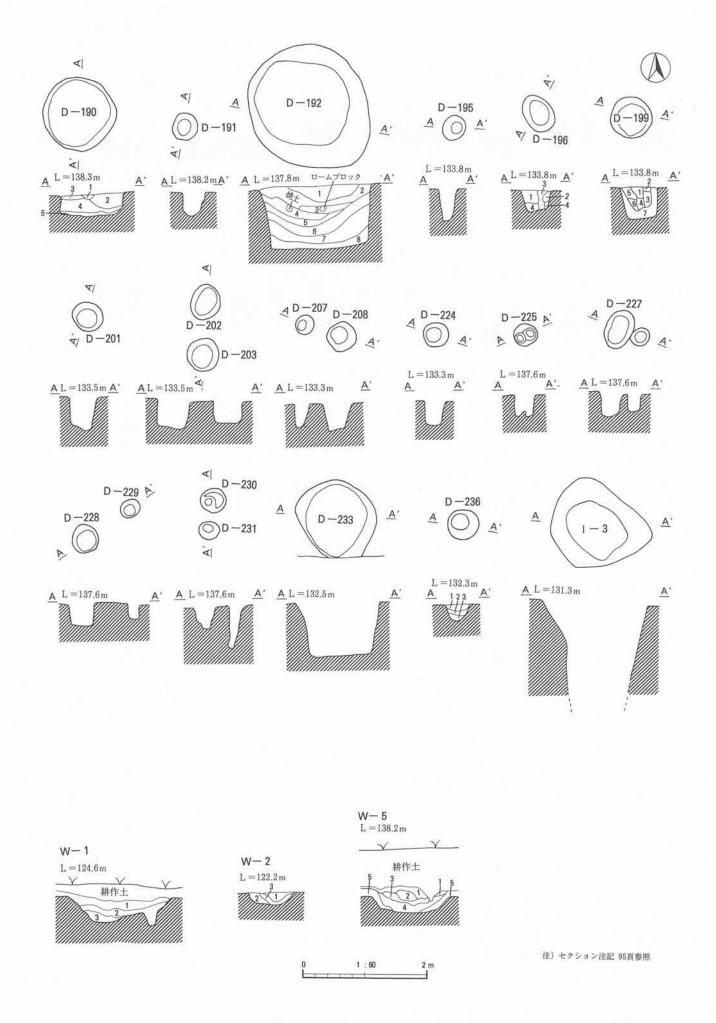


Fig. 51 D-190~192·195·196·199·201~203·207·208·224·225·227~231·233·236号土坑、I-3 号井戸址、 $W-1\cdot2\cdot5$ 号溝址

```
H-54 カマドセクション
<Fig. 25>
                                                 1 層 灰褐色細砂層 焼土粒30%を含む。
2 層 赤褐色細砂層 焼土粒50%を含む。
H-56 セクション
 膳 灰褐色微砂層 As-C30%、焼土プロック・ローム小粒を微量含む。
                                                 3 層 赤黄褐色微砂層 焼土粒20%、粘土30%を含む。
4 層 灰黄白色微砂層 粘土層。
強く締まる。
2 層 灰褐色微砂層 ロームブロック50%を含む。強く締まる。
3 層 灰褐色微砂層 As-C・ローム粒20%、焼土ブロックを微量含む。強
              く締まる。
                                                 <Fig. 29>
    灰褐色微砂層 ローム粒10%を含む。強く締まる。
                                                 H-62 セクション

    層 暗褐色微砂層 As-C20%、Hr-FPを極少含む。締まりが強い。
    層 灰黄褐色微砂層 As-C40%、Hr-FP・ローム細粒10%を極少含む。

    灰褐色微砂層 As-C30%を含む。
    灰褐色微砂層 As-C極少、焼土プロック・ローム小粒を30%を含む。
                                                ## まりが強い。

## まりが強い。

3 層 にぶい褐色微砂層 As - C30%、Hr - FP20%、ローム粒を極少含む。
    灰褐色微砂層 As-C・焼土粒30%を含む。
 層 黒褐色微砂層 ローム小粒・焼土ブロック30%を含む。粘性が強い。
層 暗赤色微砂層 As-C・炭化物極少、焼土ブロック40%を含む。粘性
8
                                                4 層 にぶい黄褐色微砂層 As-C10%、Hr-FP・ローム粒・炭化物を極少
9
                                                                  含む。
             が強い。
10 層 にぶい赤褐色微砂層 焼土粒50%を含む。粘性が強い。
                                                 5 層 にぶい黄褐色微砂層 As-C10%、Hr-FP・ローム小ブロックを極少
                                                 含む。
6 層 黒褐色微砂層 As-C10%、ローム粒20%、Hr-FP・焼土粒を極少含
11 層 赤黒色微砂層 H-56竈の灰をかき出した層。
                                                 む。粘性が強い。
7 層 褐色微砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
  層 黒色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。
層 黄色微砂層 ロームプロック主体層。
                                                 8 層 黒褐色微砂層 ロームプロック20%、焼土プロック10%、炭化物を極少
    黄褐色微砂層 ローム粒20%を含む。Hー53埋土。
                                                              含む。
3
  355
    黒色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
                                                 9 層 にぶい褐色微砂層 焼土細粒30%、焼土ブロックを極少含む。
     黄褐色微砂層 ロームブロックを30%含む。
                                                10 層 褐灰色微砂層 H-71カマド天井部の粘土層。
     黄褐色細砂層 ローム細粒10%を含む。
                                                11 層 暗褐色微砂層 焼土粒主体の層、焼土プロックを極少含む。
                                                12 層 暗褐色微砂層 焼土粒主体の層、焼土プロック30%、ロームプロックを
  185
    黄褐色微砂層 ロームブロックを20%含む。
8
  185 511.45 sm 255 885
                                                              極少含む。
9 層 黄褐色微砂層 ローム粒30%を含む。
                                                H-62・71 セクション
                                                 1 層 暗褐色微砂層 As-C20%、Hr-FPを極少含む。締まりが強い。
H-53 セクション
    黒褐色微砂層 As-C20%を含む。
                                                 2 層 灰黄褐色微砂層 As-C30%、Hr-FPを極少含む。既状に黒褐色土が
    黒褐色微砂層 As-C極少、ローム粒20%を含む。
                                                               入る。締まり強。
                                                 3 層 灰黄褐色微砂層 As-C40%、Hr-FP・ローム細粒10%を極少含む。
    灰褐色微砂層 As-C・Hr-FP・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
                                                                籍まりが強い。
 層 褐色微砂層 As-C・ローム細粒を極少含む。
層 灰褐色微砂層 As-C極少、ロームブロック20%を含む。粘性が強い。
層 黄橙色微砂層 ローム主体のブロック層、部分的に黒濁色を呈す。粘性・
                                                 4 層 にぶい褐色微砂層 As-C30%、Hr-FP20%、ローム粒を極少含む。
5
                                                 5 層 にぶい黄褐色微砂層 As-C10%、Hr-FP・ローム粒・炭化物を極少
6
             締まりが強い。
                                                                  含む。
  層 黒褐色細砂層 粘性が強い。
                                                 6 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームブロック30%を含む。
  屠 灰褐色微砂層 ローム細粒5%を含む。
                                                 H-66 セクション
9
  層 にぶい褐色微砂層 ローム細粒・焼土プロックを極少含む。
                                                  層 黒褐色微砂層 As-C・Hr-FP・ロームプロックを極少含む。
                                                  層 褐色微砂層 As-C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
層 暗褐色微砂層 As-C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
日-56 セクション
1 層 灰褐色微砂層 As-C30%、焼土ブロック・ローム粒を微量含む。強く
                                                   層 褐色微砂層 ロームブロックを極少含む。
             締まる。
     褐灰色微砂層 As-C40%、焼土ブロックを微量含む。強く締まる。
                                                   屬 灰褐色微砂屬 As-C・Hr-FP・焼土粒を極少含む。
  層 掲灰色微砂層 As-C40%を含む。強く締まる。
                                                   層 灰褐色微砂層 As-C・Hr-FP・焼土プロックを極少含む。
3
                                                   層 明褐灰色微砂層 粘土プロック層。
  層 灰褐色微砂層 As-C・焼土小粒極少、ローム小粒20%を含む。強く締
4
                                                 8 層 にぶい橙色微砂層 焼土・粘土混成層。
              まる。
                                                9 層 橙色微砂層 焼土層。粘性が強い。
10 層 にぶい赤褐色微砂層 焼土層、粘性が強い。
5
 層 黄橙色微砂層 ローム主体層、粘性・締まりが強い。
6 層 掲灰色微砂層 As-C・ローム粒10%を含む。
  層 灰褐色微砂層 As-C10%を含む。
                                                 H-66 セクション
8 層 灰褐色微砂層 ロームブロック40%、焼土粒・炭化物30%を含む。強く
                                                 1 層 黒褐色微砂層 As-C・Hr-FP・ロームプロックを極少含む。
             締まる。
9 層 灰褐色微砂層 As-C10%、焼土粒40%を含む。
                                                  層 褐色微砂層 As-C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
                                                 3 層 褐色微砂層 ロームプロックを極少含む。
10 層 黄橙色微砂層 ローム主体層。
                                                 4 層 黒褐色細砂層 As-C大粒10%を含む。
                                                 5 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層、粘性が強い。
H-56 床下十坑セクション
1 層 黄橙色微砂層 ローム主体層、部分的に斑状に黒褐色土が入る。強く維
                                                 H-66 貯蔵穴セクション
             まる。
                                                 1 層 灰黄褐色細砂層 ロームブロック、焼土粒を極少含む。
2 層 灰黄褐色細砂層 ローム小ブロックを極少含む。
2 層 灰褐色微砂層 ロームプロック20%、焼土プロックを極少含む。粘性が
             強い。
                                                 3 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームと灰褐色土との混成層、ローム粒を極少含
  層 灰褐色微砂層 ロームプロックを極少含む。粘性が強い。
  黟
    灰褐色微砂層 ロームプロック30%を含む。
                                                                  た。粘性が強い。
                                                 4 層 明黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層、粘性が強い。
  層 灰褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。
5
                                                 5 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層、ロームブロック30
6 層 灰褐色微砂層 ローム大ブロック20%を含む。
                                                                  %を含む。
H-54 セクション
1 層 褐灰色微砂層 As-C50%、Hr-FPを極少含む。スジ状の鉄分凝集が
                                                 H-71 セクション
  入り、強く締まる。
層 褐灰色微砂層 As-C30%を含む。強く締まる。
                                                 1 層 暗褐色微砂層 As-C20%、Hr-FPを極少含む。締まりが強い。
                                                 2 層 灰黄褐色微砂層 As-C40%、Hr-FP・ローム細粒10%を含む。締ま
3 層 掲灰色微妙層 As-C20%、焼土プロックを極少含む。強く締まる。
4 層 楊灰色微妙層 As-C・ローム小粒を振少含む。粘性が強い。
                                                                りが強い。
                                                3 層 にぶい褐色微砂層 As-C30%、Hr-FP20%、ローム粒を極少含む。
5 履 黒褐色微砂層 床面の粘土層が混入、炭化物を極少含む。粘性・締まり
                                                4 層 にぶい黄褐色微砂層 As-CIO%、Hr-FP・ローム粒・炭化物を極少
                                                                  含む。
              が強い。
6 層 黒褐色微砂層 ローム細粒・炭化物を極少含む。粘性が強い。
                                                 5 屬 灰黄褐色微砂層 As-C30%、Hr-FP・炭化物を極少含む。 斑状に黒
                                                                褐色土が混入。
7 層 黒褐色微砂層 焼土プロックを極少含む。粘性が強い。
                                                 6 層 にぶい黄褐色微砂層 As-C40%、ローム粒10%、焼土大粒を極少含む。
                                                                  粘性・締まり強。
H-54 セクション
                                                 7 層 褐色微砂層 As-C20%、炭化物を極少含む。締まりが強い。
1 層 褐灰色微砂層 As-C50%、Hr-FPを極少含む。スジ状の鉄分凝集が
  入り、強く締まる。
層 褐灰色微砂層 As-C30%を含む。強く締まる。
                                                8 層 黒褐色微砂層 ロームブロック20%、焼土ブロック10%、炭化物を極少
                                                               含む。
                                                9 層 にぶい褐色微砂層 焼土細粒30%、焼土ブロックを極少含む。

10 層 橋灰色微砂層 日 −71カマド天井部の粘土層。

11 層 暗褐色微砂層 焼土粒主体の層、焼土ブロックを極少含む。

12 層 暗褐色微砂層 焼土粒主体の層、焼土ブロック30%、ロームブロックを
     褐灰色微砂層 As-C20%、焼土プロックを極少含む。強く締まる。
     淡黄色微砂層 H-54カベの一部崩落か?粘性・締まりが強い。
  鳰
  105
     褐灰色微砂層 As-Cを極少含む。粘性が強い。
  155
     褐灰色微砂層 粘性が強い。
6
  層 褐灰色微砂層 粘土質の小ブロックを極少含む。
                                                              極少含む。
8 層 黒褐色微砂層 焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。
  層 淡黄色微砂層 はり床の一部、粘土質。
                                                 <Fig. 31>
                                                 H-65 セクション
```

1 層 褐色微砂層 As-C10%、炭化物を極少含む。

- 2 層 にぶい黄褐色粗砂層 As-CIO%、ローム小ブロック・細粒を極少含む。
- 3 層 灰褐色微砂層 ローム細粒30%、ロームブロックを極少含む。粘性が強

H-65 セクション

- 層 黒褐色微砂層 As-C40%、Hr-FPを極少含む。粘性・締まりが強い。
 層 にぶい褐色微砂層 As-C20%、ローム小ブロックを極少含む。強く締
- まる。 3 層 褐色微砂層 As-C10%、炭化物を極少含む。
- 4 層 にぶい黄褐色粗砂層 As-C10%、ローム小ブロック・細粒を極少含む。
- 5 層 黒褐色微砂層 As-C極少、ローム小ブロック含有。粘性・締まりが強
- 6 層 楊灰色細砂層 As-C・炭化物を極少含む。締まりが強い。 7 層 明黄褐色微砂層 ローム主体の層、粘性が強い。
- 8 層 褐灰色粗砂層 ローム細粒30%を含む。

H-68 セクション

- 屬 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
- 層 灰褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。 層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP5%、炭化物・焼土ブロックを極少含む。
- 明褐色細砂陽 炭化物を極少む。部分的に焼土灰の層あり。 褐灰色微砂層 As-C・Hr-FP5%、焼土細粒20%を含む。 赤褐色細砂層 焼土ブロック主体の層。 155
- 155
- 層 青灰色微砂層 カマド灰の層。
- 8 層 横灰色細砂層 As-C5%、ローム小ブロック10%を含む。 9 層 灰褐色細砂層 ローム細粒を極少含む。

H-68 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
- 2 層 灰褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。
- 3 層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP5%、ローム小ブロックを極少含む。
- 4 層 褐灰色細砂層 ローム小ブロック30%を含む。

<Fig. 46>

- D-194 セクション 1 層 黒褐色細砂層 As-C30%、Hr-FP・ロームブロックを極少含む。 2 層 暗褐色細砂層 As-C20%、ロームブロックを極少含む。
- 3 層 暗褐色微砂層 As-C・ロームプロックを極少含む。粘性・締まりが強
- 4 層 褐灰色微砂層 ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
- 5 層 暗褐色微砂層 ロームブロックを極少含む。粘性・締まりが強い。

D-198 セクション

- 1 層 褐色細砂層 As-C・ローム粒・焼土粒・炭化物を極少含む。
- 2 層 黒褐色細砂層 ロームブロック5%を含む。粘性・締まりが強い。
- 3 層 黒褐色微砂層 粘性・締まりが強い。

D-200 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-C10%を含む。 2 層 灰褐色細砂層 As-Cを極少含む。粘性が強い。 3 層 黒褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
- 4 層 黒褐色微砂層 一部にローム細粒を含む。粘性が強い。

D-197 セクション

- □ 層 概色細砂層 As-C5%、Hr-FP10%、焼土粒・炭化物を極少含む。 □ 層 黒褐色細砂層 微量のロームブロックを含む。粘性・締まりが強い。 □ 黒褐色細砂層 ロームブロック40%を含む。粘性が強い。 □ 黒褐色細砂層 粘性が強い。

- W-4 セクション (B-B')
- 1 層 灰褐色微砂層 ローム小粒20%を含む。締まりが強い。 2 層 灰褐色微砂層 ロームブロック30%を含む。 3 層 黒褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。

- 4 層 灰黄褐色微砂層 焼土粒40%、ロームプロックを極少含む。粘性・締ま りが強い。
- 5 層 黄橙色微砂層 ローム主体層、粘性・締まりが強い。
- 6 層 灰黄褐色微砂層 焼土プロック20%を含む。粘性・締まりが強い。
- 7 層 赤褐色微砂層 焼土粒層。 8 層 灰褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。

(D-D')

- 層 黒褐色微砂層 ロームブロック中粒20%、小粒10%、焼土粒極少を含む。
 層 灰褐色微砂層 ロームブロック小粒10%、焼土ブロック20%を含む。
 届 にぶい褐色細砂層 ロームブロック大含有、ロームブロック中粒20%、 焼土プロック10%を含む。

4 層 灰褐色微砂層

- 層 にぶい赤褐色微砂層 ローム中粒20%を含む。焼土プロック主体の層。
- 6 層 黒褐色細砂層 ロームプロックを極少含む。
- 7 層 暗赤褐色微砂層 ローム細粒を含む。

(C-C')

- 層 灰黄褐色微砂層 ロームブロック少量を含む。
- 2 層 炭化物主体層
- 3 層 赤褐色微砂層 焼土プロック・ローム小粒少量を含む。
- 4 層 炭化物主体層
- 5 層 黒褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。
- 6 層 にぶい橙色微砂層 焼土粒少量を含む。
- 7 層 明黄褐色微砂層

<Fig. 49>

- D-87 セクション
- 1 層 暗褐色細砂層 ロームと黒褐色土との混成層。
- 2 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームと黒褐色土との混成層。 3 層 にぶい黄褐色微砂層 ローム主体層。

D-93 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層
- 2 層 暗褐色細砂層 ロームと黒褐色土との混成層。
- 3 層 褐色微砂層 ローム主体層。

D-96 セクション

- 1 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームと黒褐色土との混成層。

- 4 層 灰黄褐色細砂層 黒褐色土を多量に含む。
- 5 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロック主体層。 6 層 黒褐色細砂層 ローム細粒30%を含む。 7 層 灰褐色細砂層 ローム細粒を極少含む。

D-97 セクション

- 1 層 灰褐色微砂層 As-C10%、Hr-FPを極少含む。粘性に乏しい。
- 2 層 にぶい赤褐色微砂層
- 3 層 黒褐色微砂層 ローム粒20%を含む。 4 層 明褐色微砂層 ローム粒主体層。

D-101 セクション

- 1 層 灰黄褐色細砂層 2 層 暗褐色細砂層
- 3 層 にぶい黄褐色微砂層 ローム粒30%を含む。

D-102 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-Cを極少含む。 2 層 暗褐色細砂層 ローム粒を極少含む。

D-108 セクション

- 1 層 灰褐色微砂層 As−Cを極少含む。
 2 層 灰褐色微砂層 As−C20%を含む。
 3 層 褐色微砂層 As−C30%を含む。ローム小ブロック20%を含む。
 4 層 黄褐色微砂層 ローム主体の層、褐色土ブロックを極少含み、かたく締 まる。
- 5 層 黒褐色微砂層 As-C極少、ローム小ブロック10%を含む。粘性が強い。
- 6 層 黒褐色細砂層 As-C極少、スジ状に微量の焼土粒・炭化物を含む。粘 性・締まりが強い。
- 7 層 赤褐色細砂層 炭化物を含む境土主体層。 8 層 黒色微砂層 炭化物主体の層、除湿用の炭か?

D-109 セクション

- 1 層 灰黄褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。 2 層 暗褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。

D-111 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-C・ローム粒を極少含む。 2 層 黒褐色微砂層 As-C・ロームブロックを極少含む。

D-124 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-C50%、Hr-FP・焼土プロックを極少含む。
- 2 層 黒褐色微砂層 As-C30%、焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。
- 3 層 黒褐色微砂層 As-Cを極少含む。 4 層 黒褐色微砂層 ローム細粒10%を含む。粘性が強い。
- 5 層 褐色微砂層 ロームプロック50%を含む。

D-123 セクション

- 1 層 黒褐色微砂層 As-Cを極少含む。粘性が強い。
- 2 層 黒褐色微砂層 As-C10%を含む。粘性が強い。
- 3 層 灰褐色微砂層 As-C10%を含む。粘性・締まりが強い。 4 層 褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。粘性が強い。
- 5 層 にぶい褐色細砂層 粘性が強い。
- 6 層 褐色細砂層
- 層 明褐色微砂層 ローム主体層。粘性・締まりが強い。
- 8 屬 灰黄褐色微砂層 As-YP主体層。

D-129 セクション

- 1 層 黒色粗砂層 川砂混じり、粘性・締まりが弱い。
- 2 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
- 3 層 黒色粗砂層 微量のAs-Cを含む。川砂混じり、粘性・締まりが弱い。 黄褐色細砂層 ローム粒40%を含む。
- 5 層 黒褐色細砂層 ローム粒・炭化物を極少含む。 6 層 黒褐色細砂層 ローム細粒・炭化物を極少含む。
- 7 層 灰黄褐色粗砂層 ロームブロックを20%含む。 8 層 黄色細砂層 ローム粒を多量に含む粘質土層。

<Fig. 50> D-139 セクション

- 1 層 にぶい赤褐色微砂層 焼土細粒主体層、As-C・ローム細粒を極少含む。 粘性・締まり強。
- 2 層 黄橙色微砂層 ローム主体層、鉄分凝集部分が認められる。粘性・締ま りが強い。

D-141 セクション

- 1 層 にぷい黄褐色微砂層 As-C20%、Hr-FP極少、ロームプロック30% を含む。粘性強。
- 2 層 黒褐色微砂層 As-C10%、ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
- 3 層 黒褐色微砂層 ロームブロック30%を含む。粘性が強い。
- 層 褐色微砂層 ローム細粒主体の層。
- 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層。
- 層 黒褐色微砂層 微量のローム細粒を含む。
- 層 褐色微砂層 As-C20%、ロームブロック10%を含む。

D-142 セクション

- 1 層 明黄褐色微砂層 As-C極少、ローム大ブロック20%を含む。粘性が強 1430
- 2 層 褐灰色細砂層 As-C極少、ローム小ブロック10%、微量の焼土粒を含 む。強く締まる。
- 層 黄褐色細砂層 ローム細粒50%を含む。
- 層 黒褐色微砂層 ローム大ブロック30%、ローム細粒20%を含む。
- 層 暗褐色細砂層 ローム細粒50%を含む。 Б
- 層 明黄褐色細砂層 ローム主体層。強く締まる。 6
- 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム細粒主体の層。

D-143 セクション

- 層 にぶい黄褐色微砂層 ローム細粒主体の層、焼土粒10%を含む。
- 暦 黒褐色微砂層 ローム大ブロック10%、ローム粒20%を含む。
- 層 黒褐色微砂層 ローム粒10%を含む。
- 層 褐色微砂層 ロームブロック10%を含む。 4
- 5 層 暗褐色微砂層 ローム細粒 5%、焼土粒を極少含む。

D-145 セクション

- 1 層 黒褐色微砂層 As-C・Hr-FP10%、ローム小ブロック5%を含む。 締まりが強い。
- 2 層 灰黄褐色微砂層 ローム・ブロック20%、ローム細粒50%を含む。 3 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層、粘性はあるが締まりが弱い。
- 4 層 褐色微砂層 ローム小ブロック20%、ローム細粒10%を含む。粘性が強
- 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層、黒褐色土がスジ状に入る。
- 6 層 黒褐色微砂層 ローム小ブロック・ローム細粒を極少含む。粘性が強い。 7 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層、粘性・締まりが強い。

D-146 セクション

- 1 層 灰黄褐色細砂層 As-C20%、ロームブロック10%を含む。
- 層 灰褐色細砂層 As-C20%、ロームブロック30%を含む。
- 3 層 灰黄褐色微砂層 ローム主体層。

D-148 セクション

- 層 黒褐色細砂層 ローム小ブロック10%を含む。
- 2 層 灰黄褐色細砂層 微量のローム小ブロックを含む。
- 3 暦 黄褐色数砂層 ローム粒主体層、ローム小ブロック20%を含む。 4 層 黒褐色細砂層 微量のローム粒を含む。

D-149 セクション

- 1 層 灰黄褐色細砂層 As-C5%、Hr-FP10%、ロームプロック30%を含 tro
- 2 層 灰褐色細砂層 As-C・HrーFPを極少含む。

 3 層 灰黄褐色細砂層 As-C・HrーFPを極少含む。

 4 層 黒褐色細砂層 微量のAs-C・ローム小粒を含む。
- 5 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームブロック・ローム粒主体層。
- 6 層 黄褐色微砂層 ローム主体層。

D-154 セクション

- 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロック30%を含む。
- 2 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。
- 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム細粒30%を含む。 3
- 4 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム主体層

D-160 セクション

- 層 黒褐色細砂層 ロームブロック5%を含む。粘性・締まりともに弱い。 層 灰褐色細砂層 ロームブロック30%を含む。
- 3 屬 黒褐色細砂層 微量のローム小粒を含む。粘性・締まりともに弱い。
- 層 灰褐色細砂層 ロームブロック10%を含む。
- 5 層 灰褐色微砂層 ロームプロック40%を含む。粘性が強い。

D-161 セクション

- 層 暗褐色細砂層 As-C・ローム粒を極少含む。かたく締まる。

- 5 屬 にぶい黄橙色微砂屬 ローム主体層、焼土粒を極少含む。粘性・締まり が強い。
- 6 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層、粘性・締まりが強い。

D-162 セクション

- 1 層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP極少、ロームブロック 5 %を含む。かた
- く締まる。
 2 層 暗褐色細砂層 As-C・ロームブロックを極少含む。かたく締まる。
 3 層 黄橙色微砂層 ロームブロックと灰褐色土との混成層。粘性・締まりが
- 4 層 褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。かたく締まる。

- 5 層 灰黄褐色微砂層 ロームプロック30%を含む。粘性・締まりが強い。
- 6 層 暗褐色微砂層 ロームブロックを極少含む。かたく締まる。

D-164 セクション

- 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP・ローム粒を極少含む。
- 2 層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP・ローム粒を極少含む。
- 8 層 黒褐色細砂層 As−C・Hr−FP極少、ロームブロック20%を含む。 4 層 黒褐色細砂層 As−C・Hr−FP極少、ロームブロック30%を含む。
- 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層、粘性が強い。
- 5
- 6 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層、5層より粘性は弱

D-165 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。

 2 層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。

 3 層 にぶい黄褐色微砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。

 4 層 黄褐色微砂層 ローム主体層、粘性が強い。

D-182 セクション

- 1 層 黒褐色細砂層 ロームブロック20%を含む。

- 2 層 黒褐色細砂層 As-C10%を含む。

 3 層 褐灰色微砂層 As-C5%を含む。粘性が強い。

 4 層 黒褐色微砂層 As-C・ローム粒を極少含む。粘性が強い。
 - 5 層 黒褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。粘性が強い。
- 6 層 褐灰色微砂層 ローム粒30%を含む。粘性・締まりが強い。
 - 7 届 灰褐色微砂層 粘性・締まりが強い。

<Fig. 51>

- D-190 セクション I 層 黒褐色細砂層 As-C10%、Hr-FPを極少含む。締まりが弱い。
- 2 層 灰褐色粗砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
- 3 層 明褐色細砂層 As-C極少、ロームブロック20%を含む。
- 4 層 褐色細砂層 As-C・ロームプロックを極少含む。
- 5 層 明褐色細砂層 ローム主体層。

D-192 セクション

- 日 層 褐色微砂層 As-C30%、ロームブロックを極少含む。 2 層 褐色微砂層 As-C20%、ロームブロック10%、焼土粒を極少含む。 3 層 黒褐色細砂層 As-C20%を含む。
- 4 層 褐灰色微砂層 ローム小ブロック20%を含む。
- 5 層 褐灰色微砂層 ロームプロック30%含む。やや粘性を帯びる。
- 6 層 明褐色微砂層 ロームプロック・ローム細粒主体の層。 7 層 明褐色微砂層 ロームプロック40%、焼土粒・炭化物を極少含む。粘性 が始いた
- 8 層 黒褐色微砂層 微量のローム細粒を含む。やや粘性を帯びる。

D-196 セクション

- 1 層 灰褐色細砂層 As-C10%、焼土粒・炭化物を極少含む。
- 2 層 灰褐色細砂層 As-C5%・微量の焼土粒・炭化物を含む。 3 層 黒褐色細砂層 微量のAs-Cを含む。粘性・締まりが強い。
- 4 層 黒褐色細砂層 粘性・締まりが強い。

D-236 セクション

- 1 層 灰褐色細砂層 As-C極少、ロームブロック30%を含む。 2 層 灰褐色細砂層 As-C極少、ロームブロック50%を含む。
- 3 層 灰黄褐色微砂層 ロームと灰褐色土との混成層。ロームブロック30%を 含み粘性が強い。

- D-199 セクション 1 層 灰褐色細砂層 As-C10%、ロームプロックを極少含む。
- 2 層 灰褐色細砂層
- 3 層 灰褐色細砂層 As-C・ロームプロックを極少含む。
- 4 脳 黒褐色細砂層 As-Cを極少含む。
- 5 層 灰褐色細砂層 As-C極少、微量のローム粒を含む。 6 層 黒褐色微砂層 ロームブロック20%を含む。粘性が強い。 7 層 黒褐色微砂層 粘性が強い。

- W-1 セクション 1 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
- 2 層 黒褐色細砂陽 As-C・Hr-FPを極少含む。ローム小粒点在。
- 3 層 にぶい黄褐色微砂層 黒褐色土とロームとの混成層、締まりが強い。

- W-2 キケション
- 1 層 灰褐色微砂層 粘性は弱いが継まりが強い。 2 層 灰褐色微砂層 ローム細粒を極少含む。

3 層 灰褐色微砂層 ロームブロック20%を含む。

- W-5 セクション
- 1 層 褐灰色粗砂層 締まりが弱く河砂状を呈す。 2 層 灰褐色粗砂層 As-B純層。
- 3 層
 楊灰色細砂層
 As-Cを極少含む。

 4 層
 楊灰色細砂層
 As-C極少、ローム粒5%を含む。

 5 層
 明褐色細砂層
 ローム細粒30%を含む。

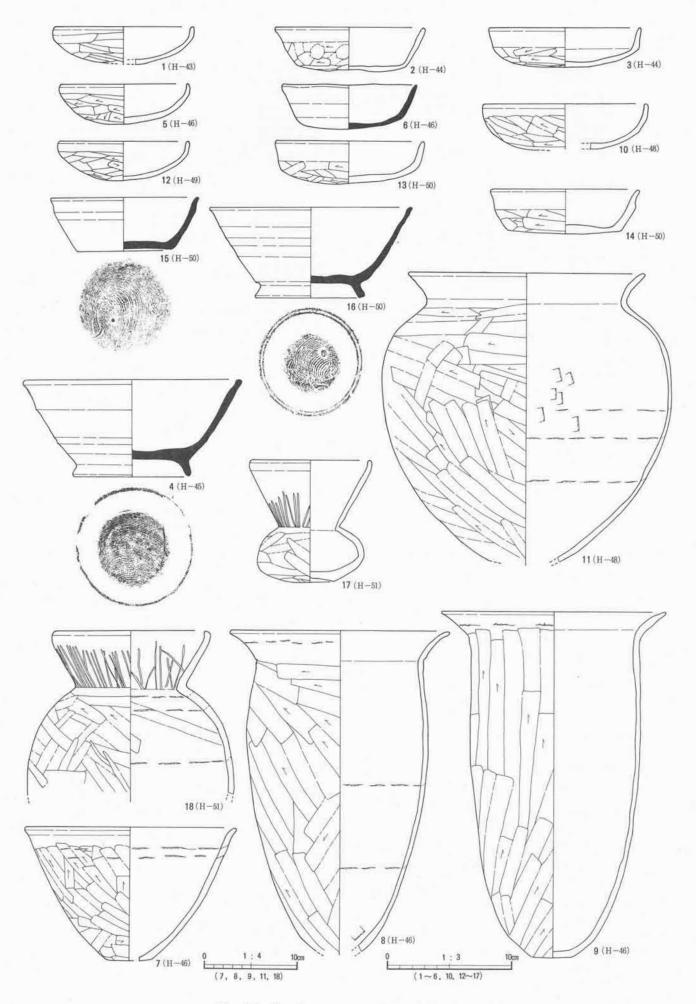


Fig. 52 H-43~46·48~51号住居址出土の土器

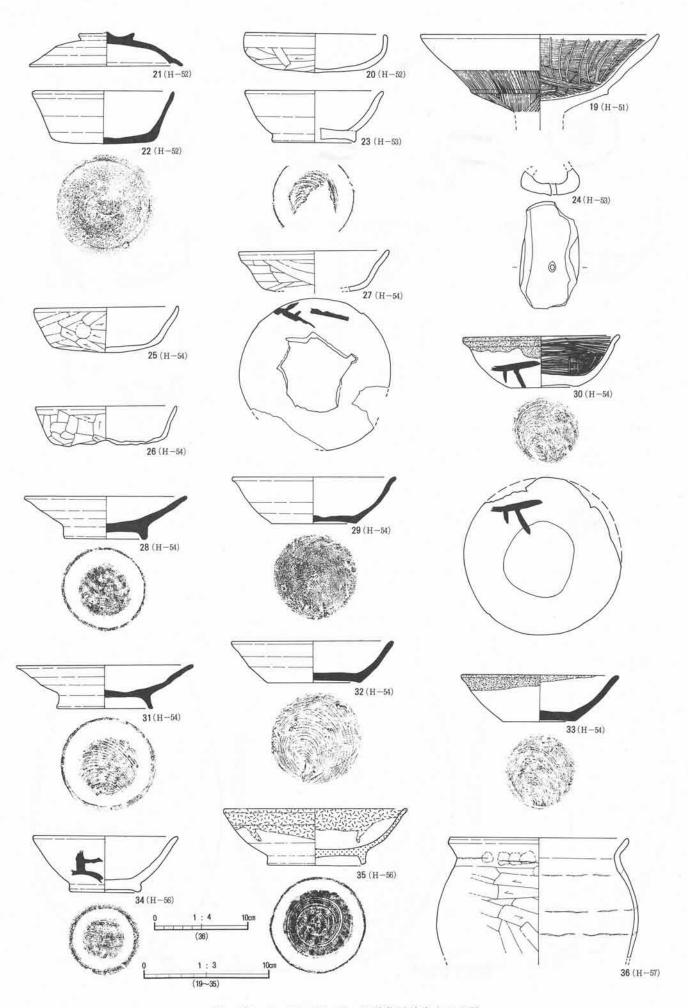


Fig. 53 H-51~54·56·57号住居址出土の土器

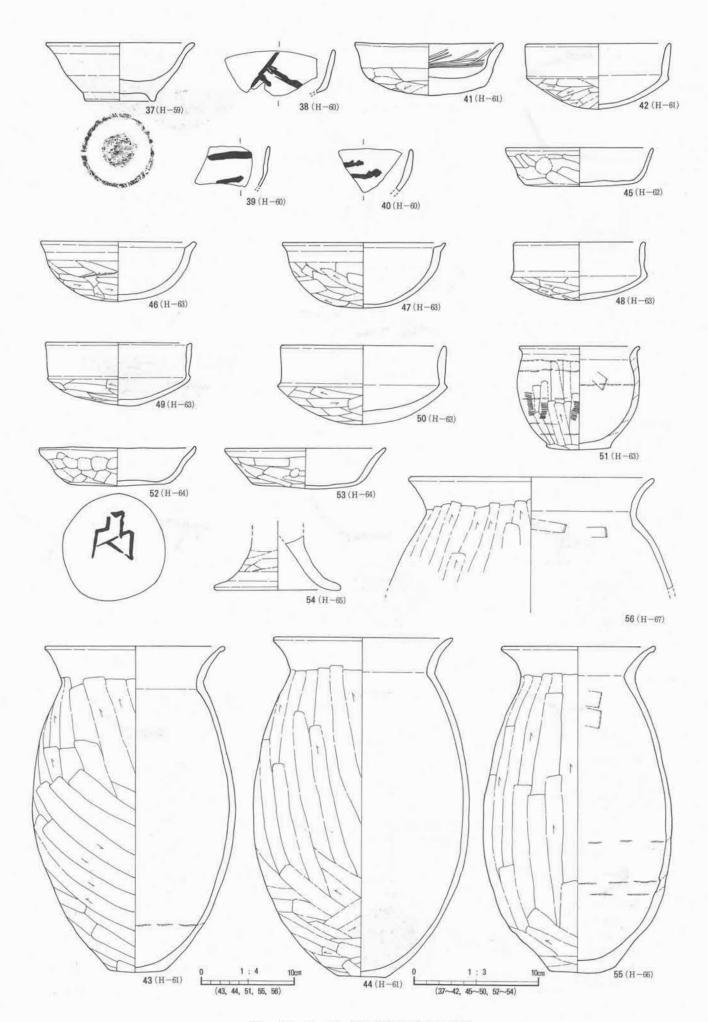


Fig. 54 H-59~67号住居址出土の土器

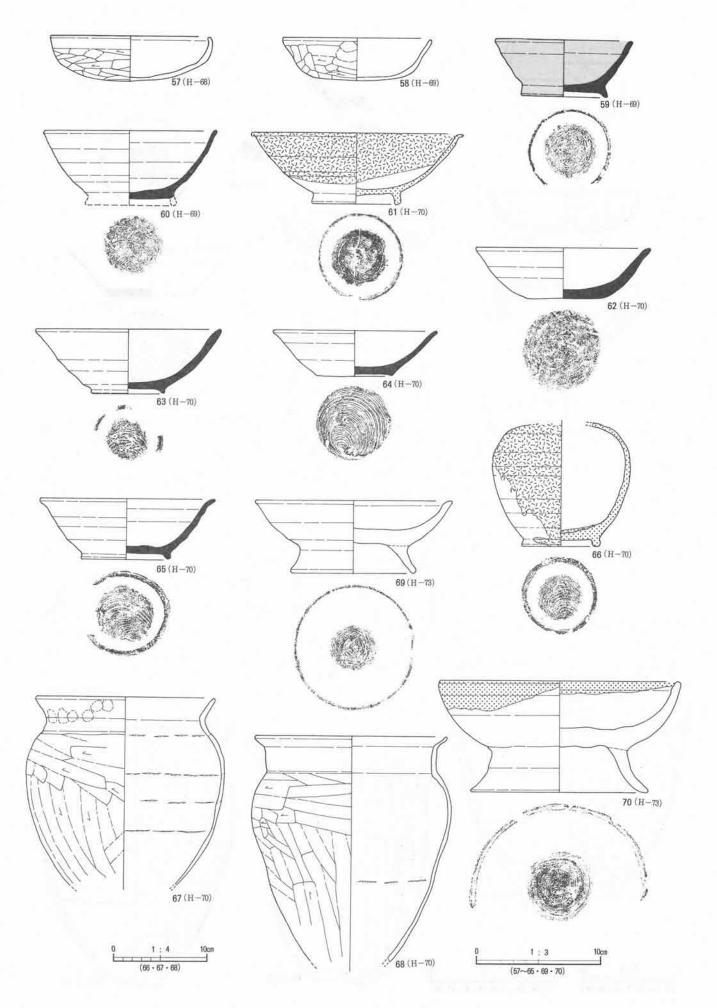


Fig. 55 H-68~70·73号住居址出土の土器

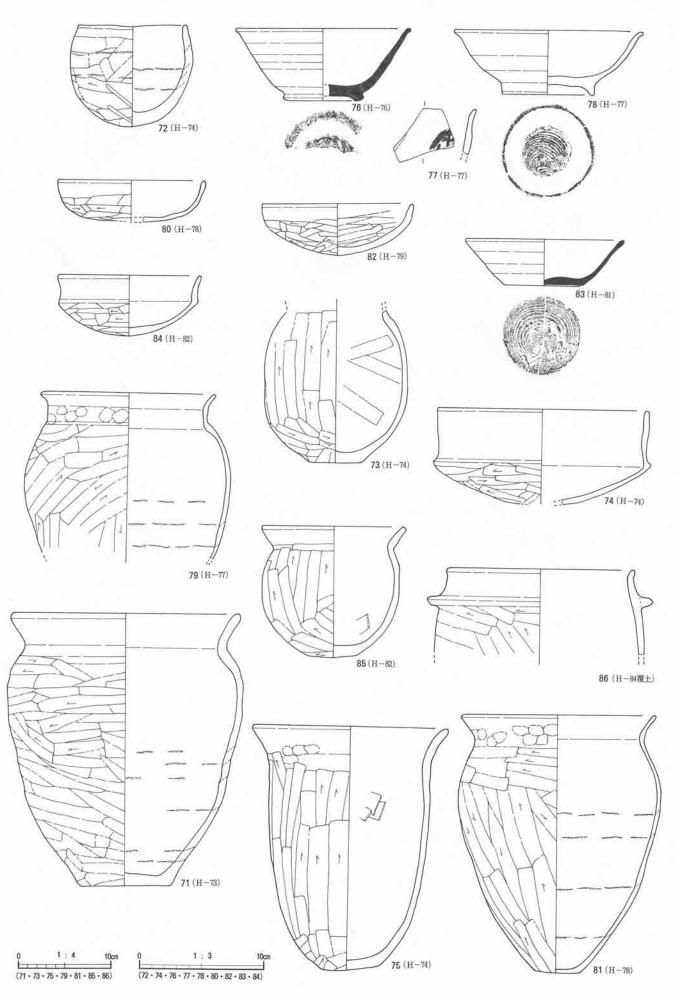


Fig. 56 H-73・74・76~79・81・82・84号住居址出土の土器

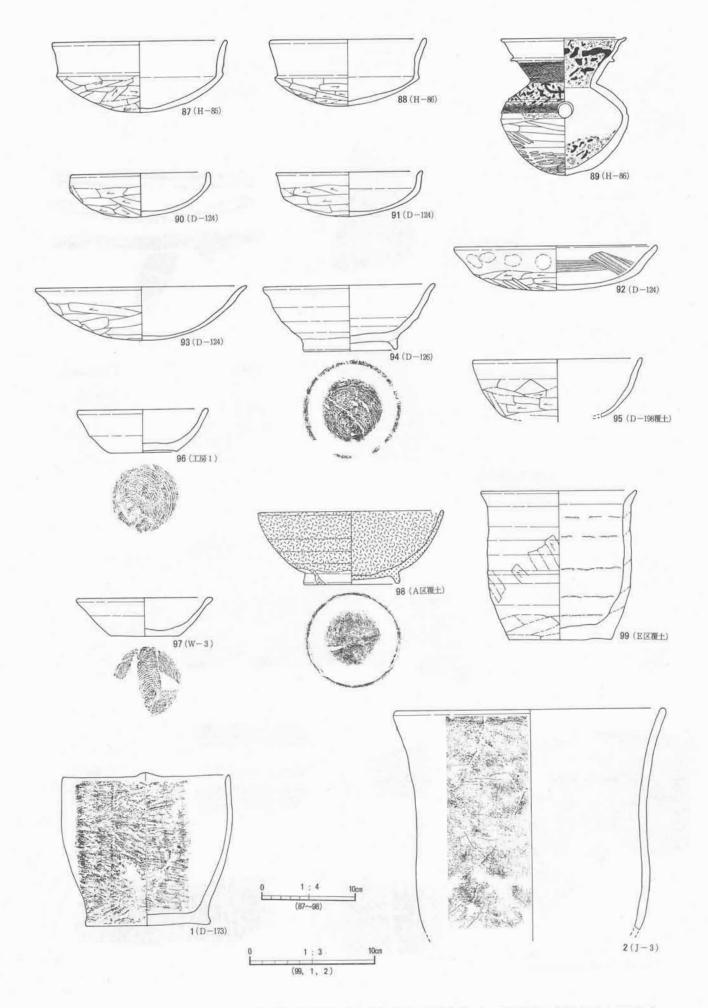


Fig. 57 H $-85 \cdot 86$ 号住居址、工房址1号、W-3号溝址、D $-124 \cdot 126 \cdot 198$ 号土坑、A \cdot E区出土の土器、縄文式土器(1)

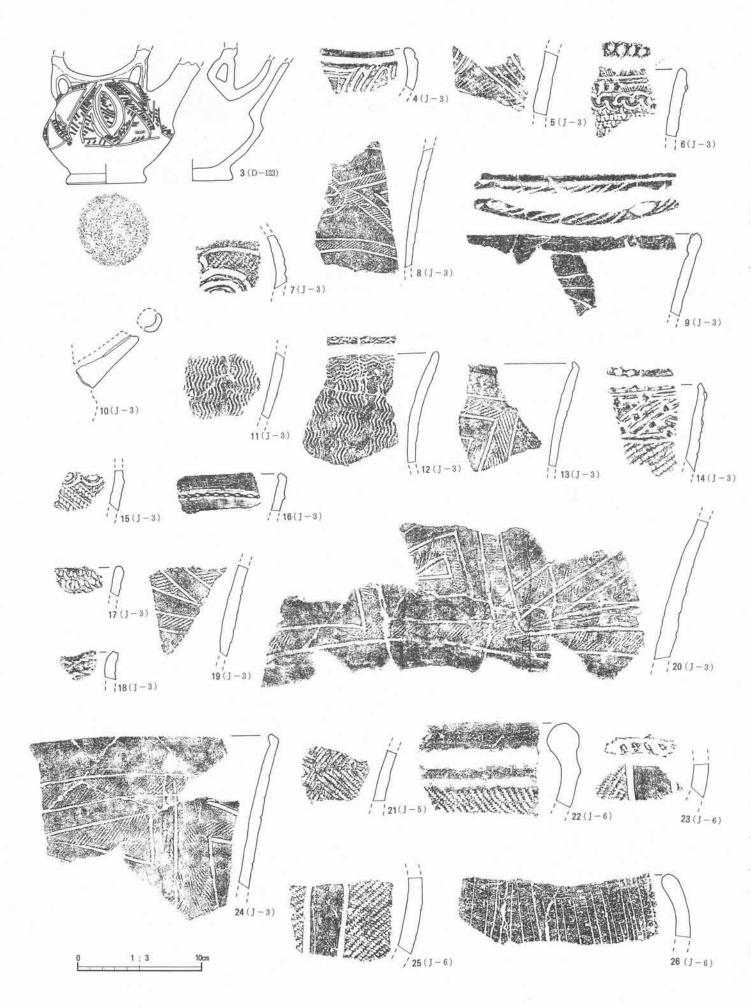


Fig. 58 縄文式土器 (2)

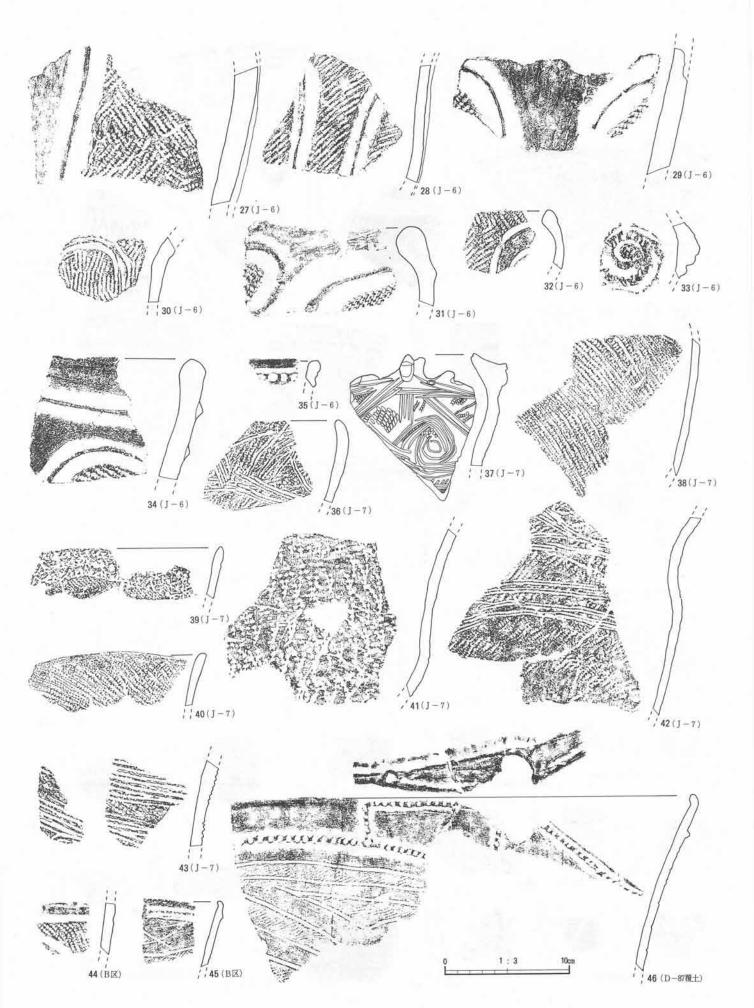


Fig. 59 縄文式土器 (3)

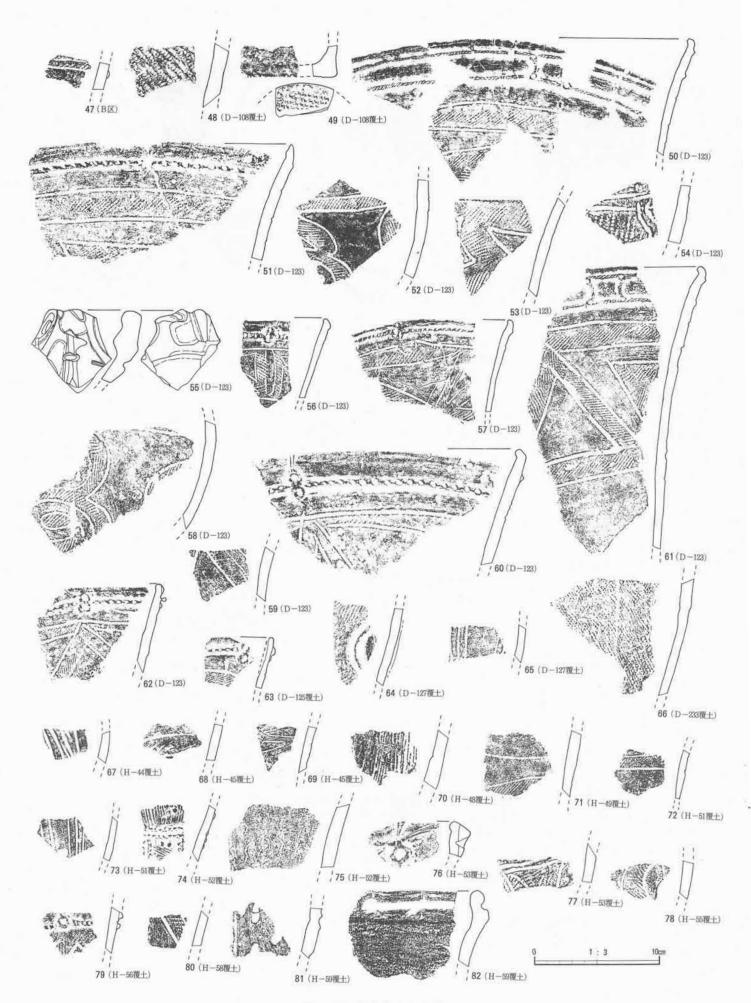


Fig. 60 縄文式土器 (4)

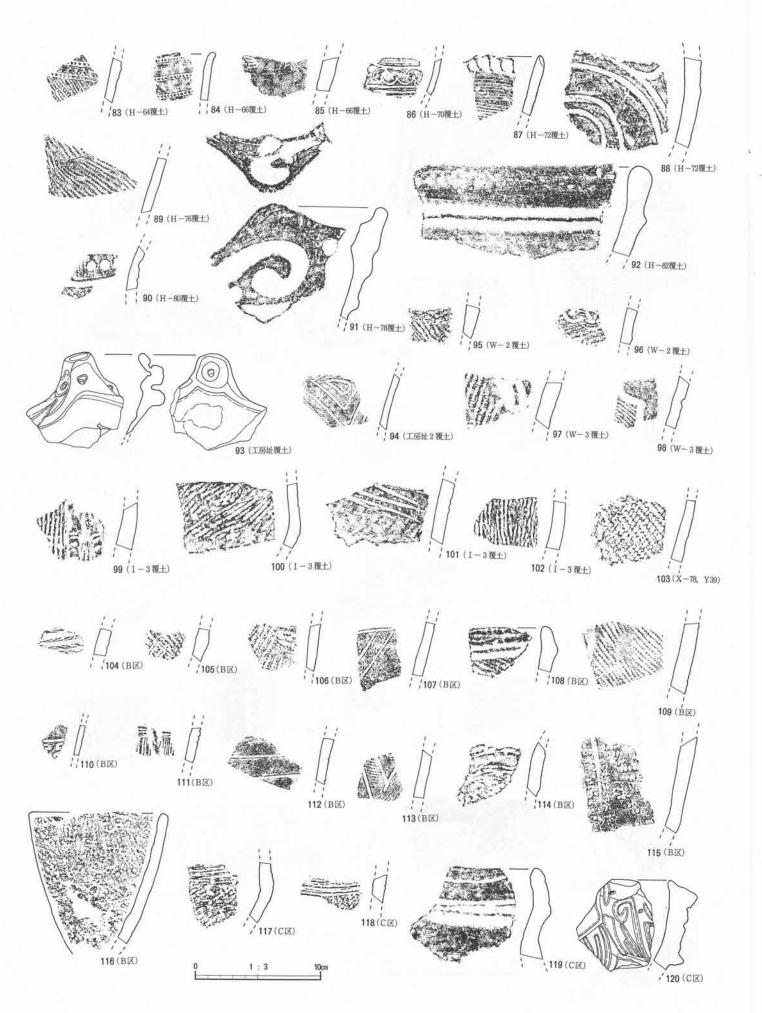


Fig. 61 縄文式土器 (5)

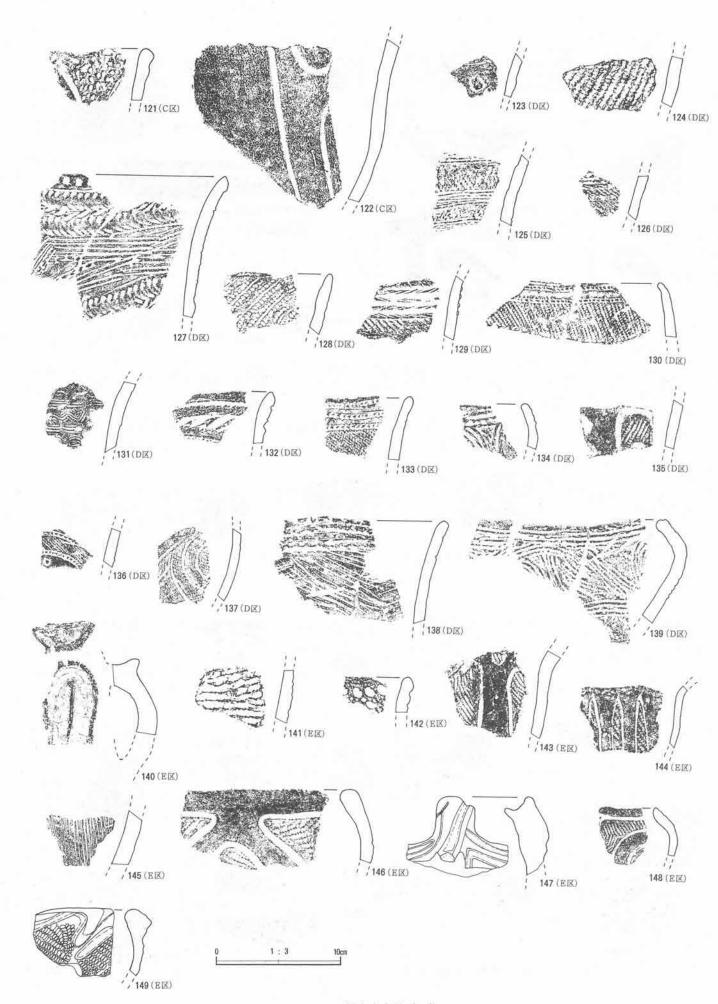


Fig. 62 縄文式土器 (6)

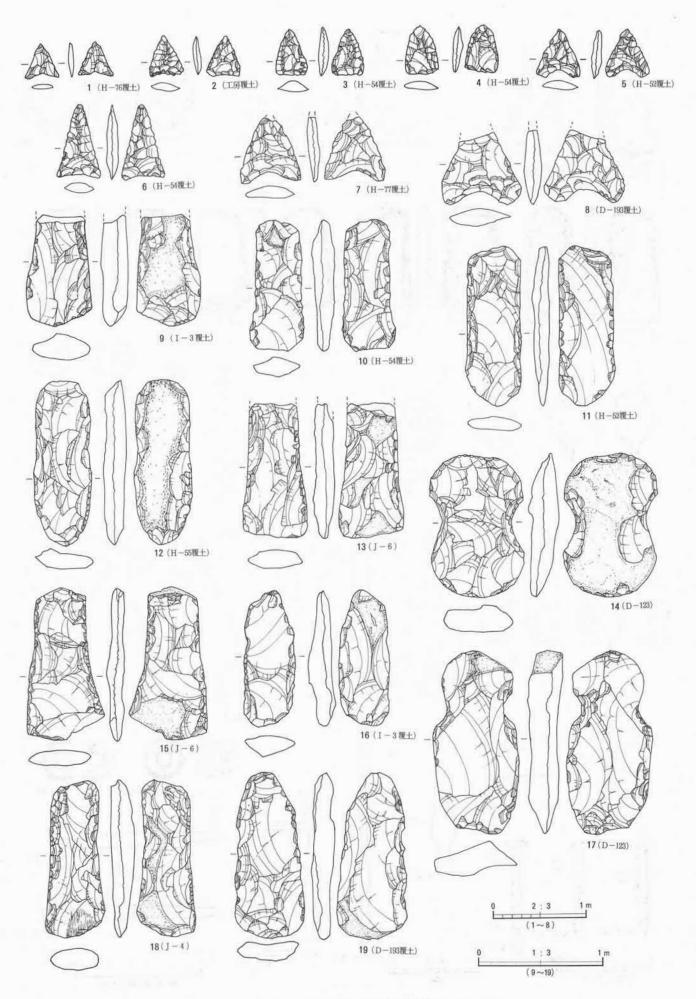


Fig. 63 石器·石製品 (1)



Fig. 64 石器·石製品(2)、特殊遺物、鉄器·鉄製品

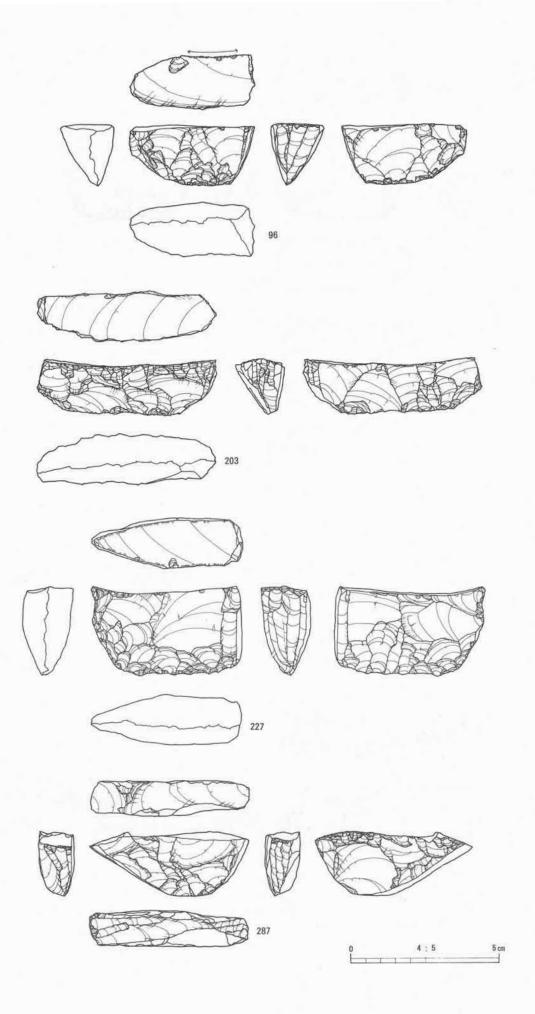


Fig. 65 旧石器 (1)

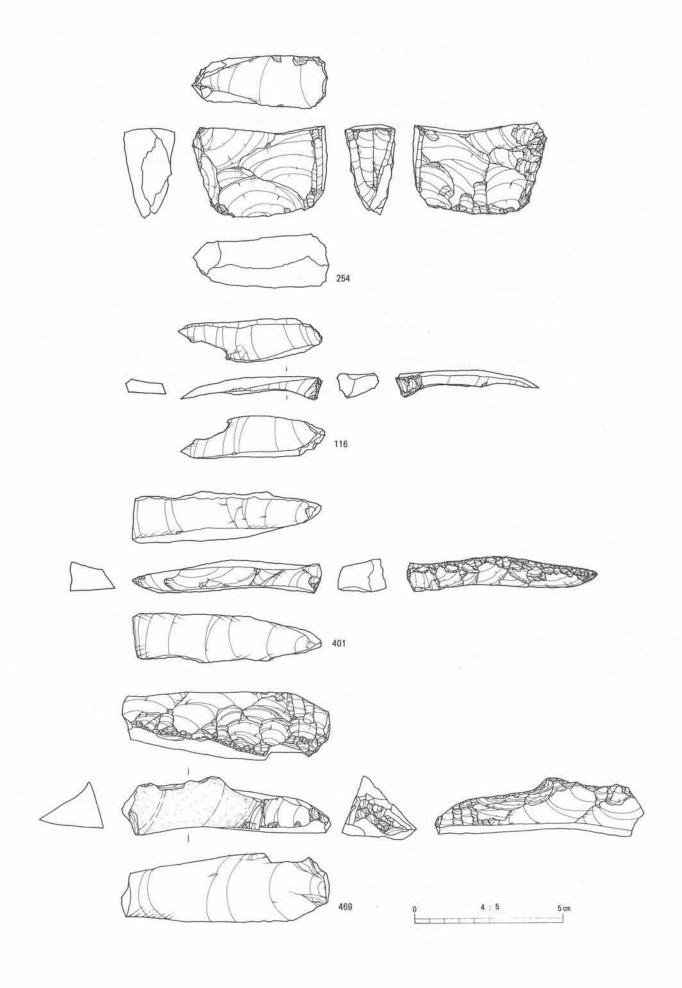


Fig. 66 旧石器 (2)

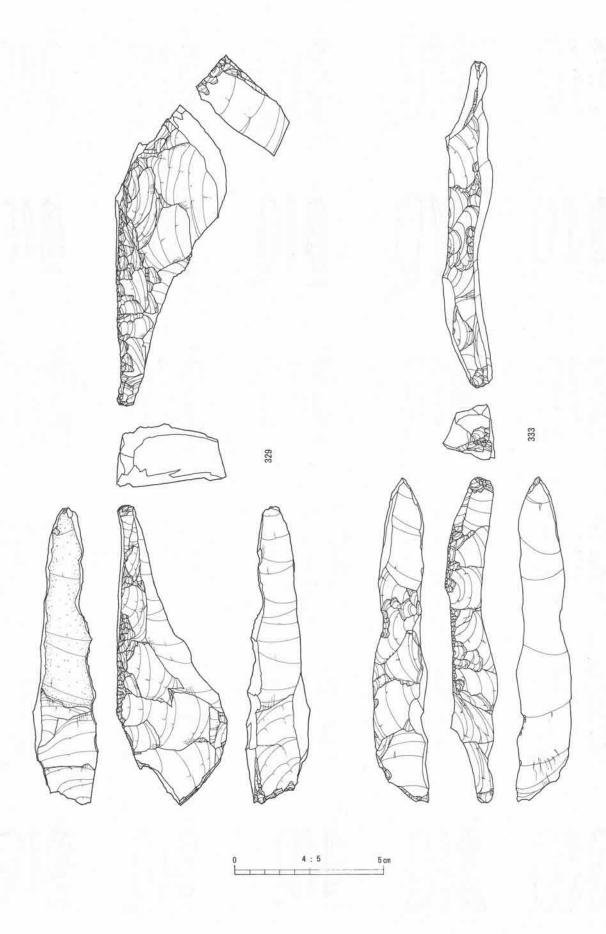


Fig. 67 旧石器 (3)

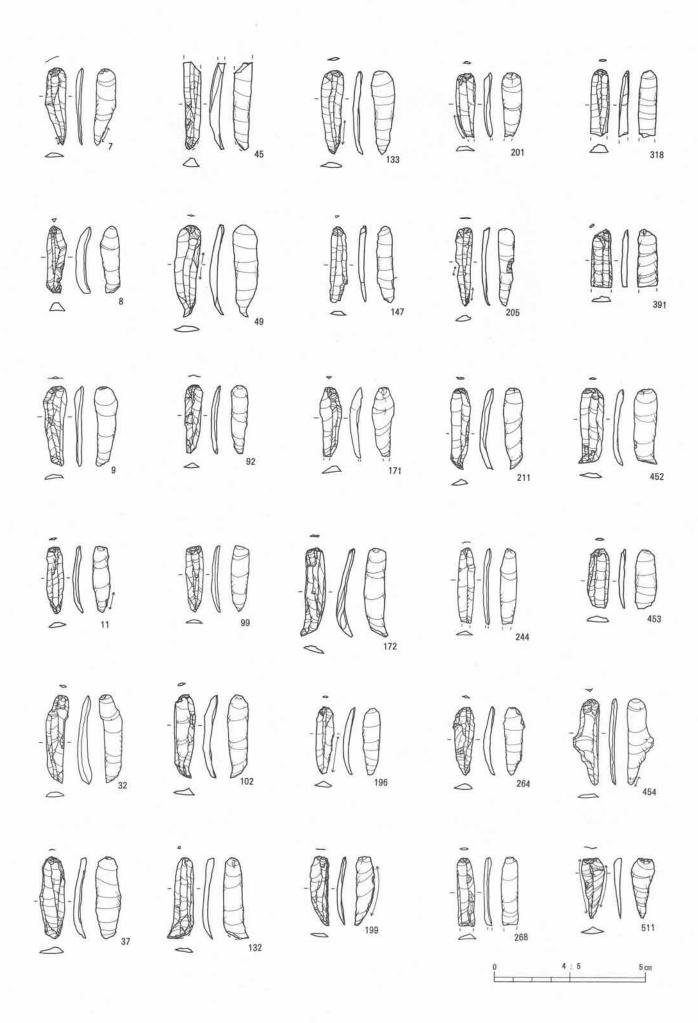


Fig. 68 旧石器 (4)

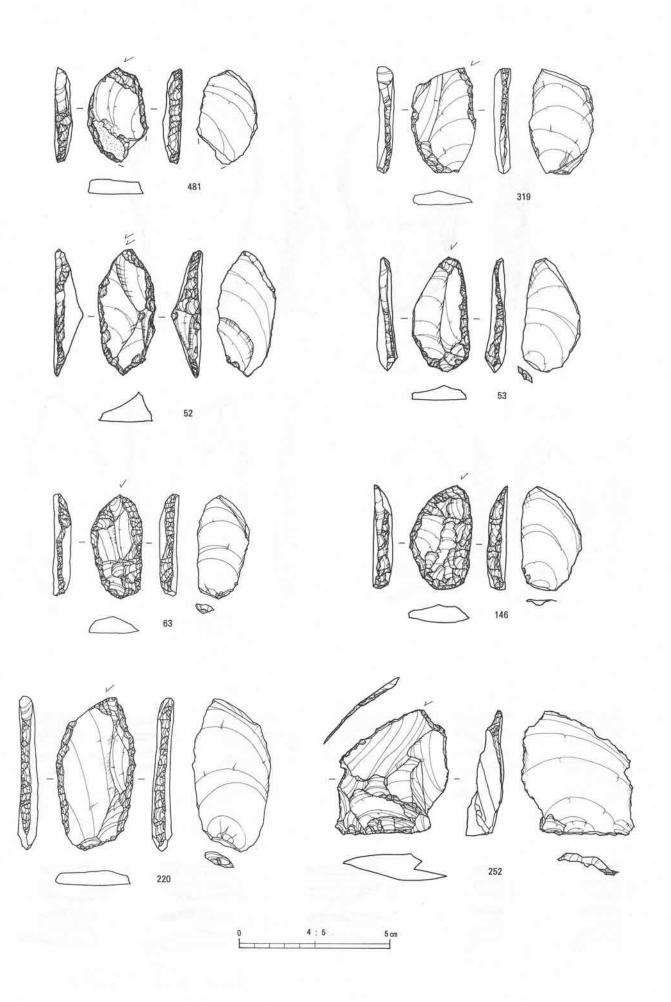


Fig. 69 旧石器 (5)

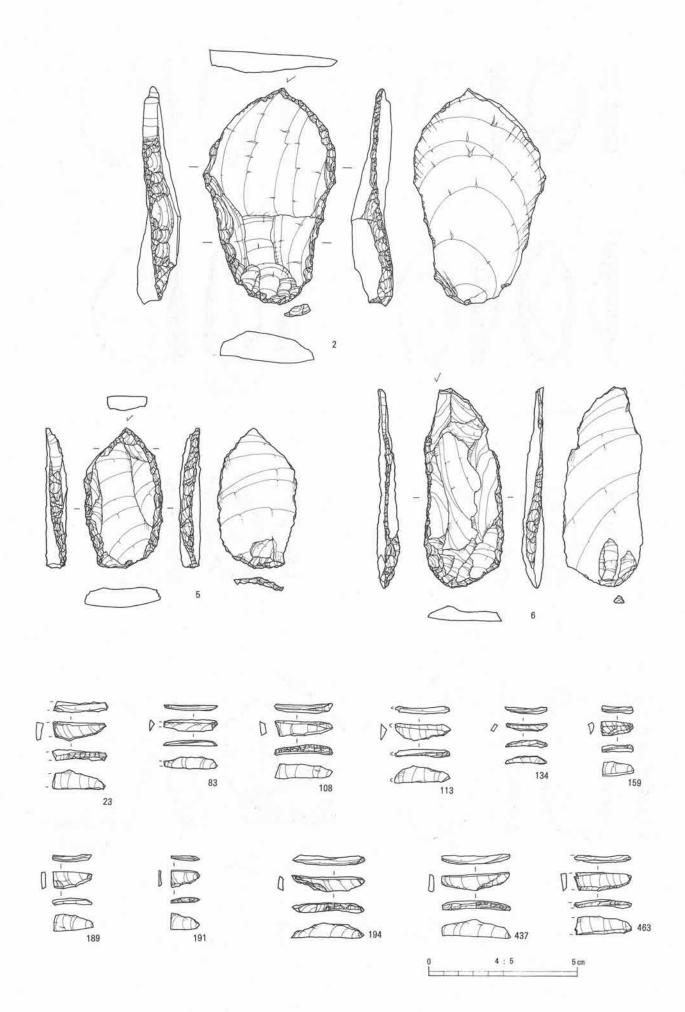


Fig. 70 旧石器 (6)

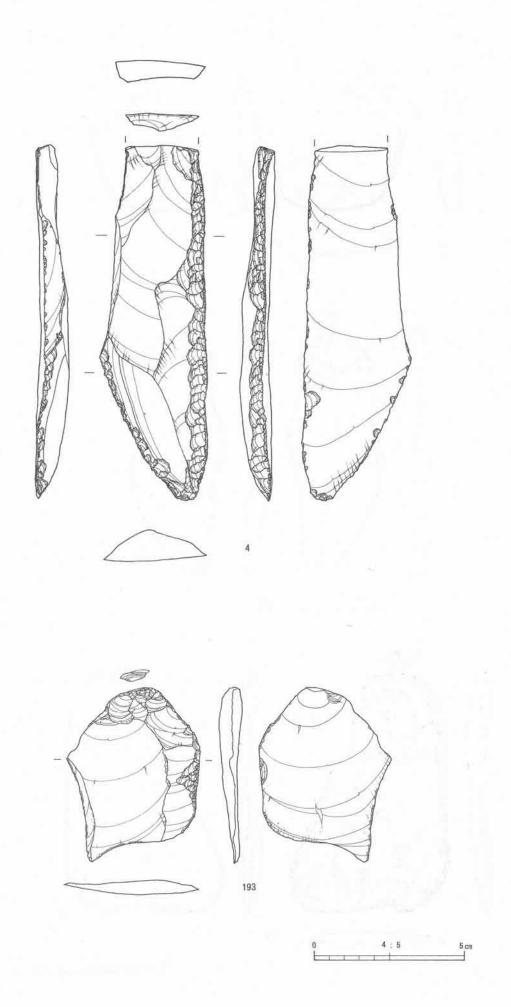


Fig. 71 旧石器 (7)

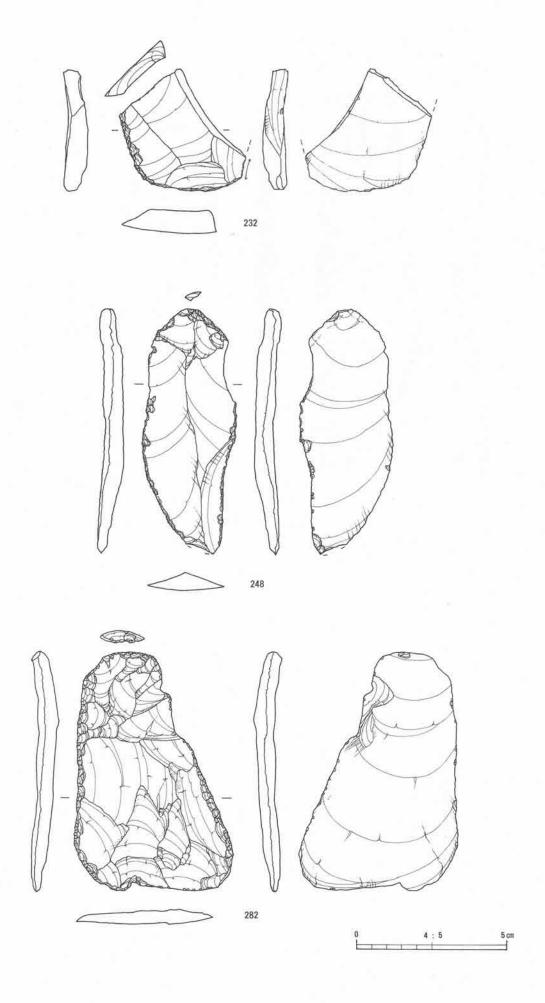


Fig. 72 旧石器 (8)

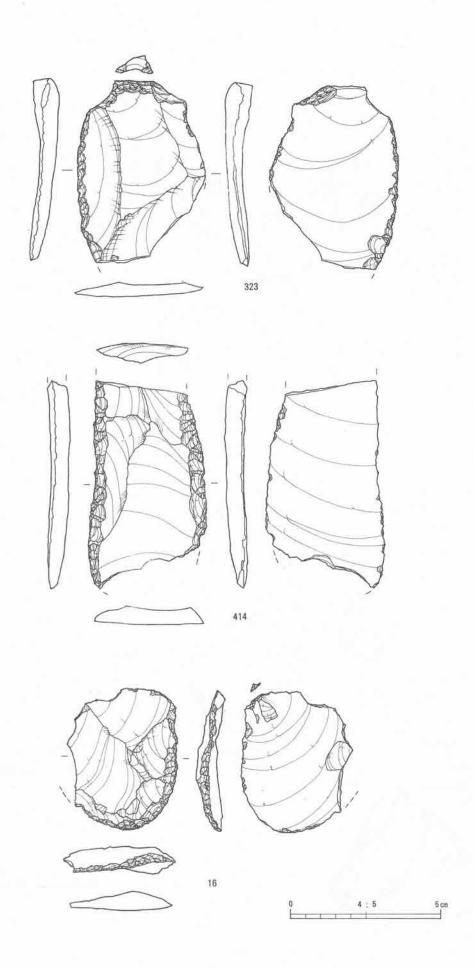
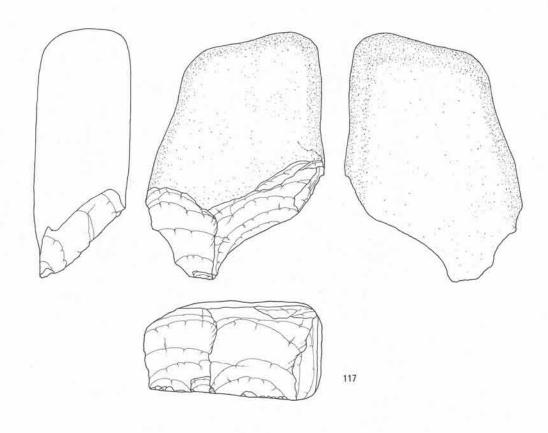


Fig. 73 旧石器 (9)



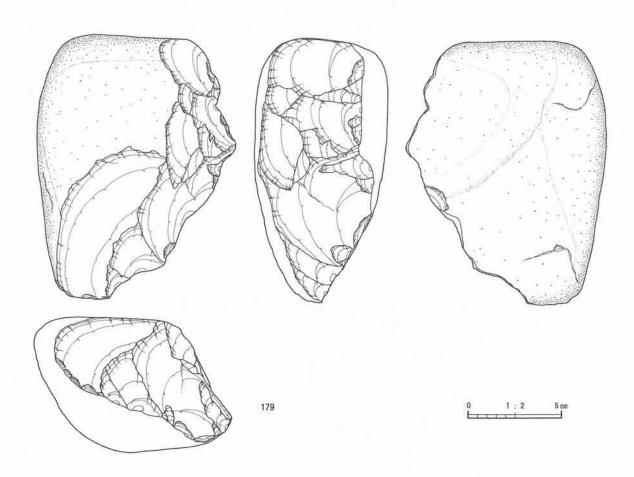


Fig. 74 旧石器 (10)

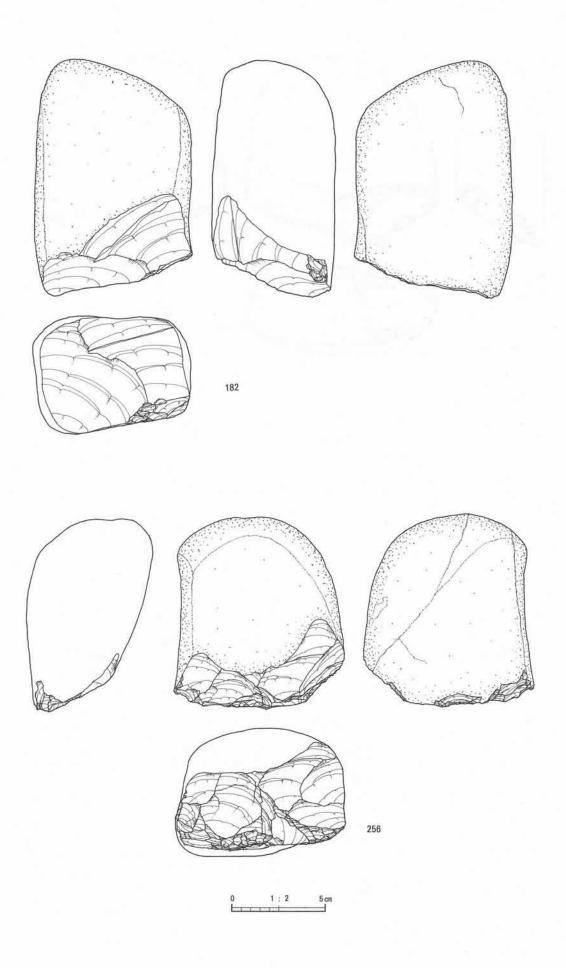
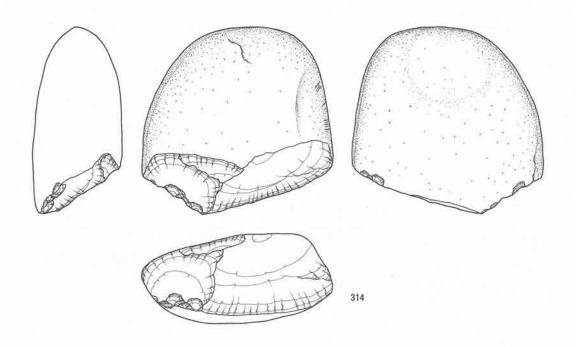


Fig. 75 旧石器 (11)



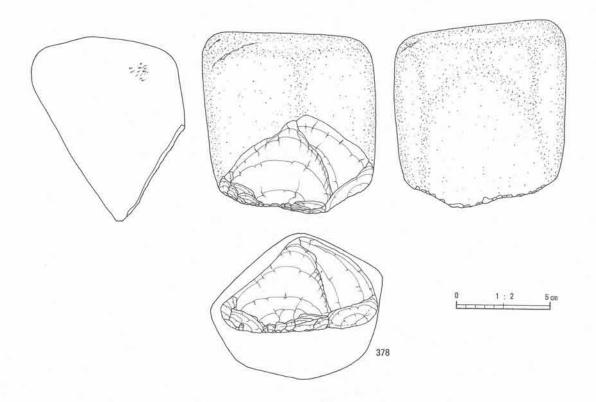


Fig. 76 旧石器 (12)

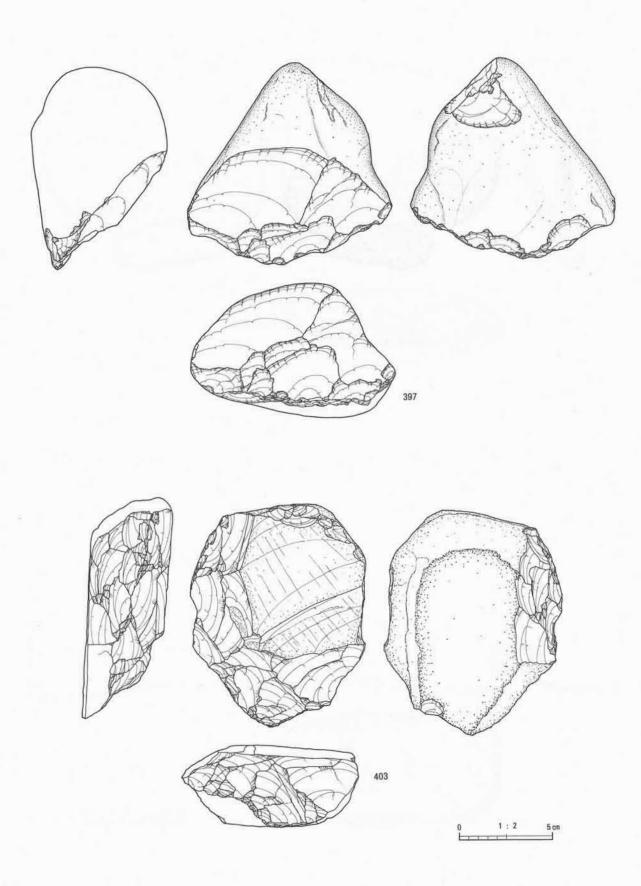


Fig. 77 旧石器 (13)

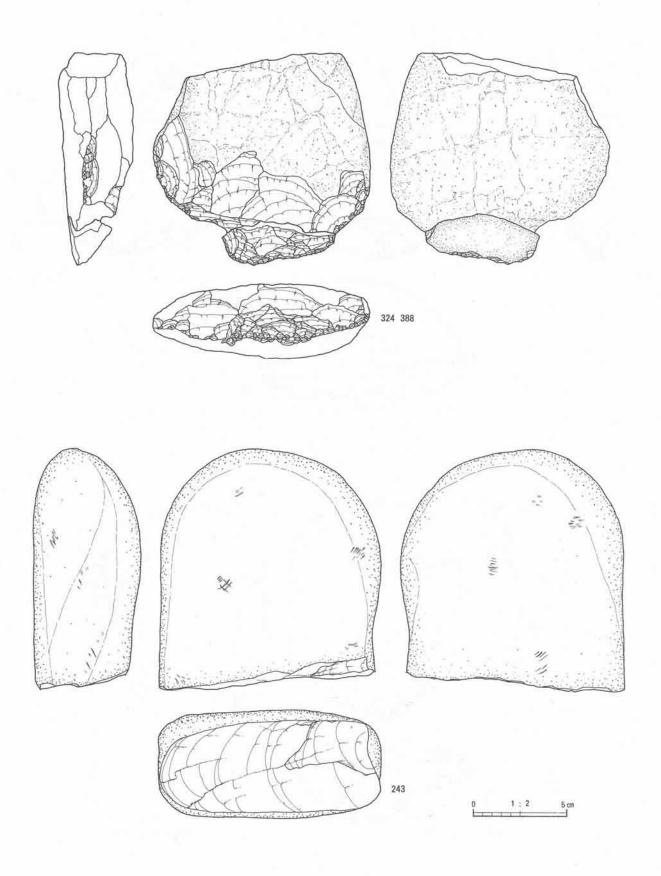
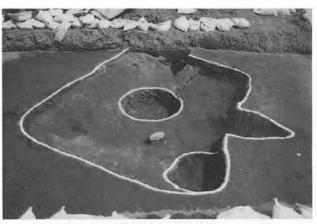


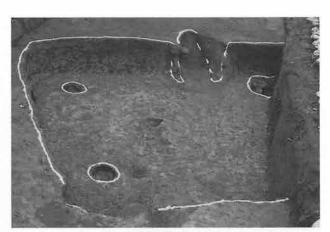
Fig. 78 旧石器 (14)



A区 全景



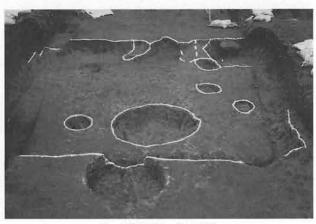
H-44号住居址 全景(S)



H-48号住居址 全景(W)



H-49号住居址 全景(S)



H-50号住居址 全景(E)





H-48号住居址 遺物出土状態 (N)



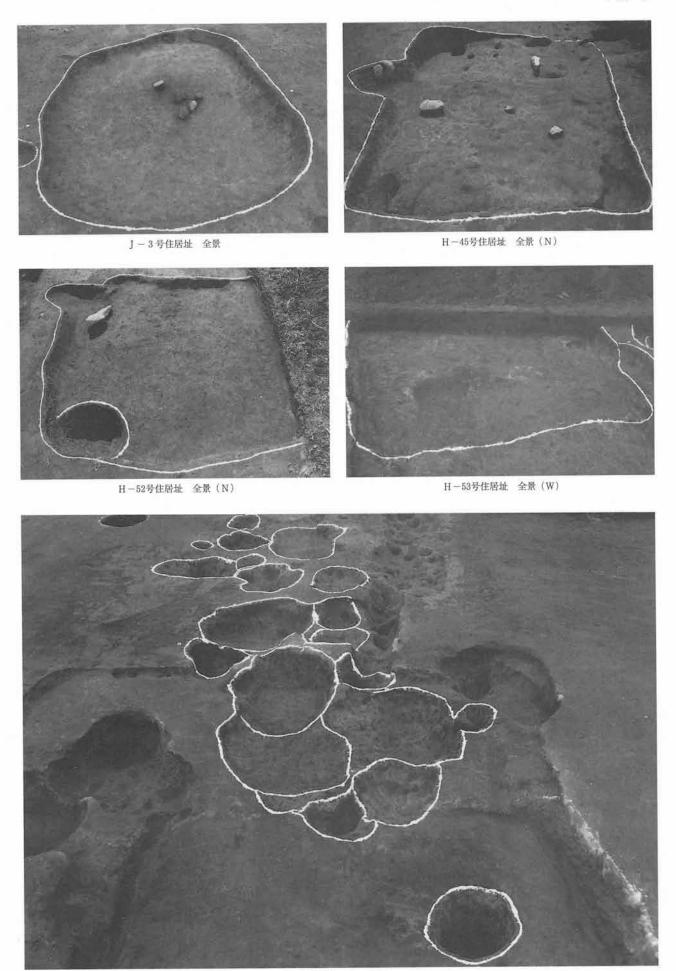
H-50号住居址 遺物出土状態(E)



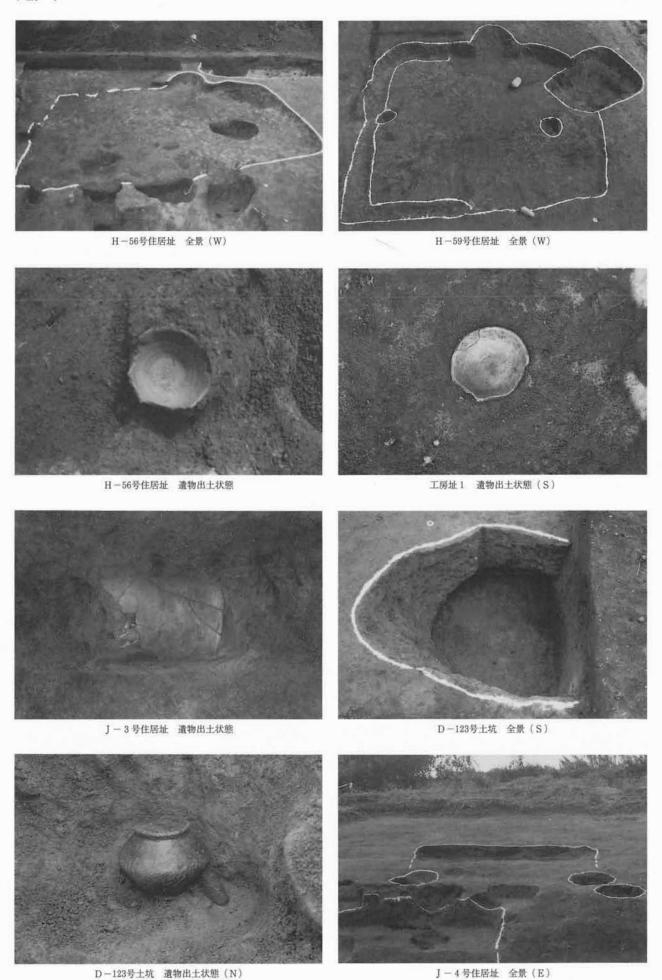
H-51号住居址 遺物出土状態(S)



B区 全景



工房址1 · 2 全景

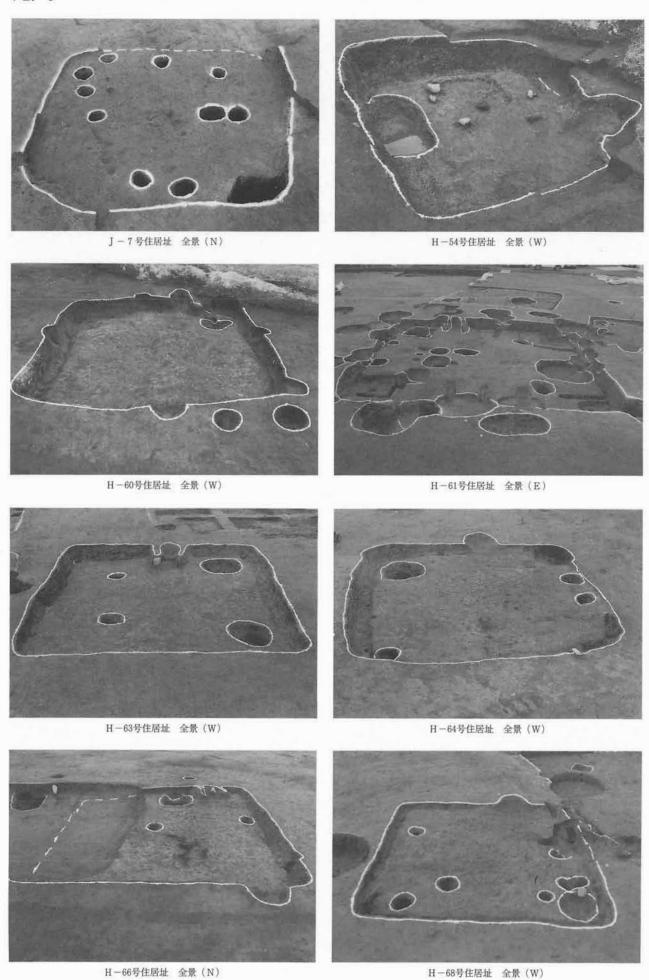


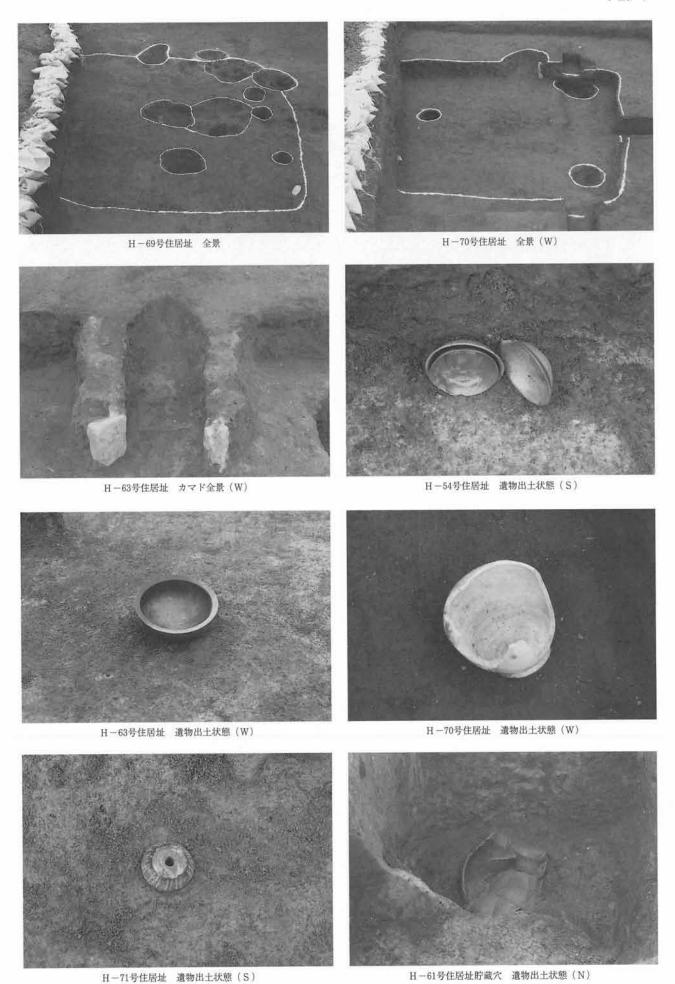


C区 全景



D区 全景



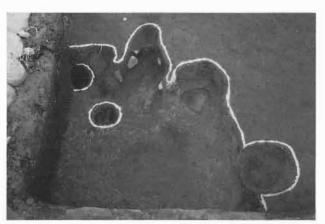




E区 全景



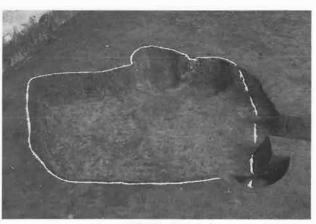
J-6号住居址 全景(S)



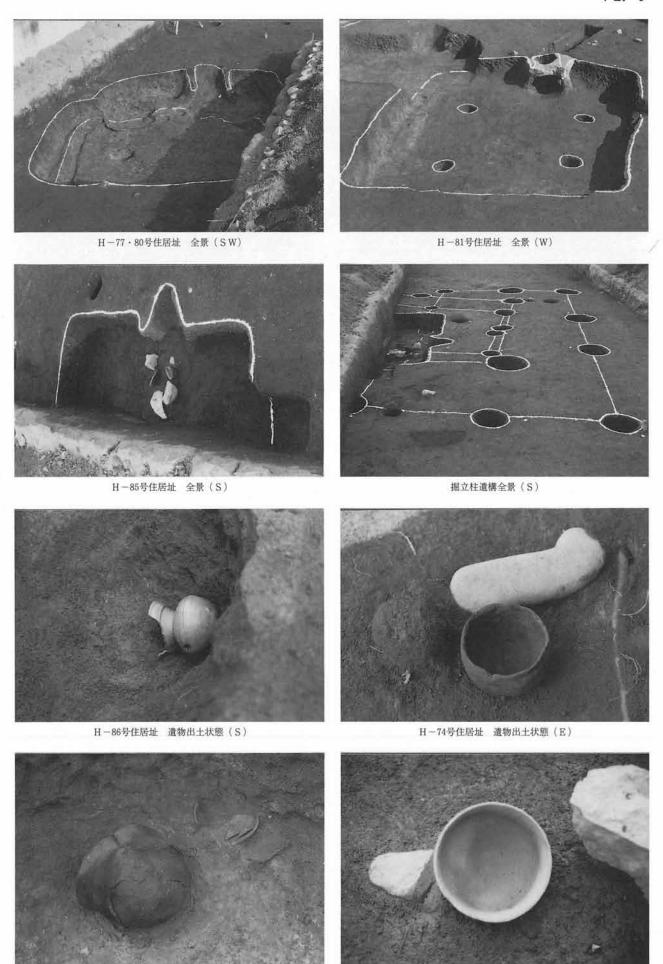
H-73号住居址 全景 (W)



H-74号住居址 カマド全景 (N)



H-76号住居址 全景 (W)



H-82号住居址 遺物出土状態 (E) H-85号住居址 遺物出土状態 (S)



旧石器 検出状態(N)



旧石器 検出状態(W)



旧石器 出土状態 (SE)

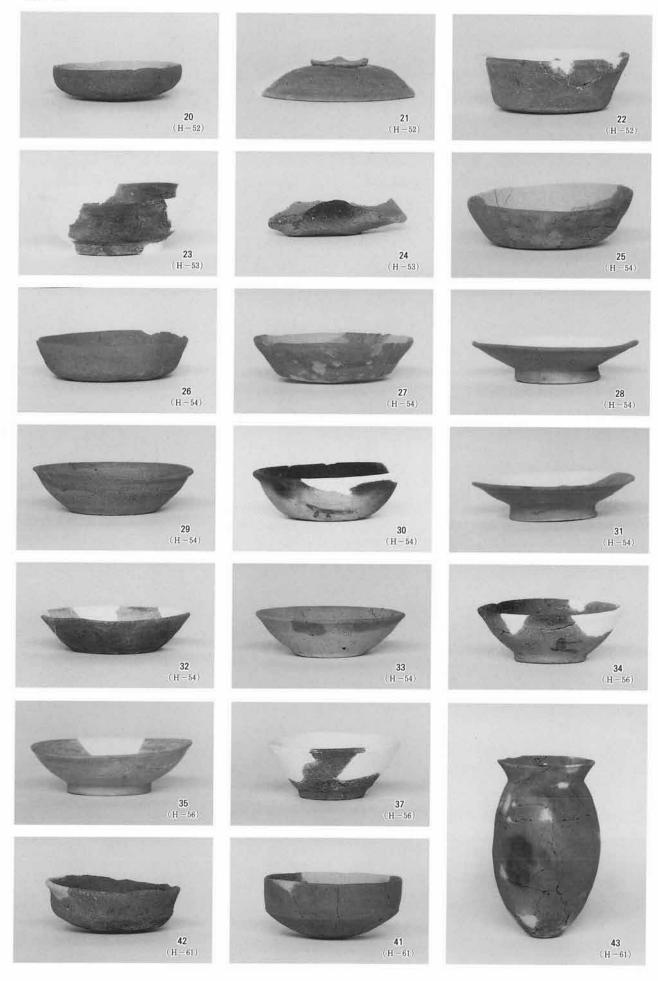


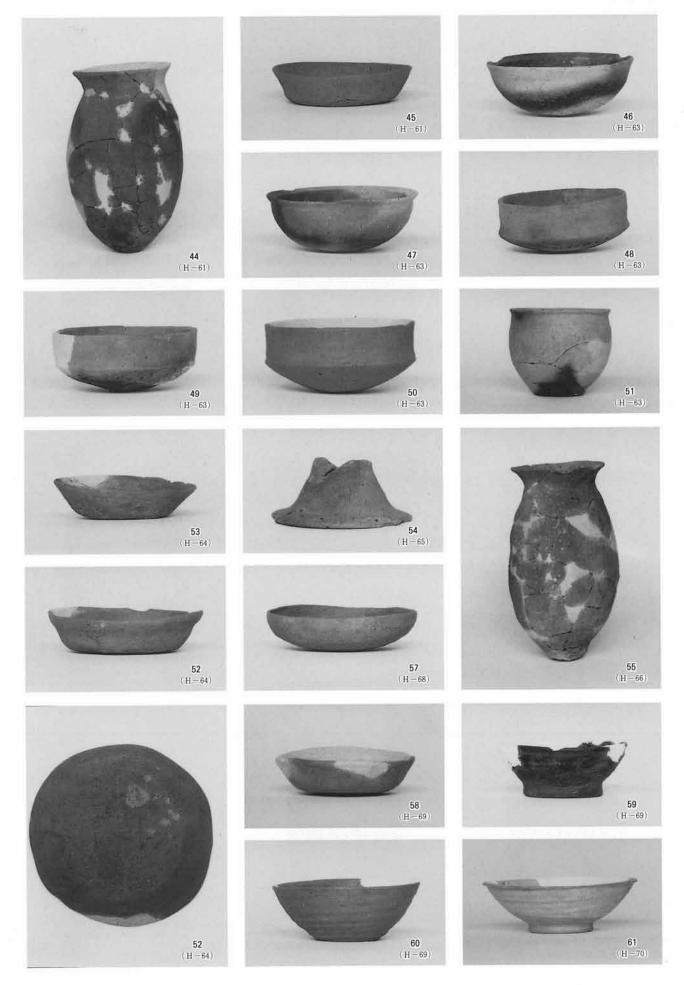
旧石器 出土状態(N)



調査を終えて

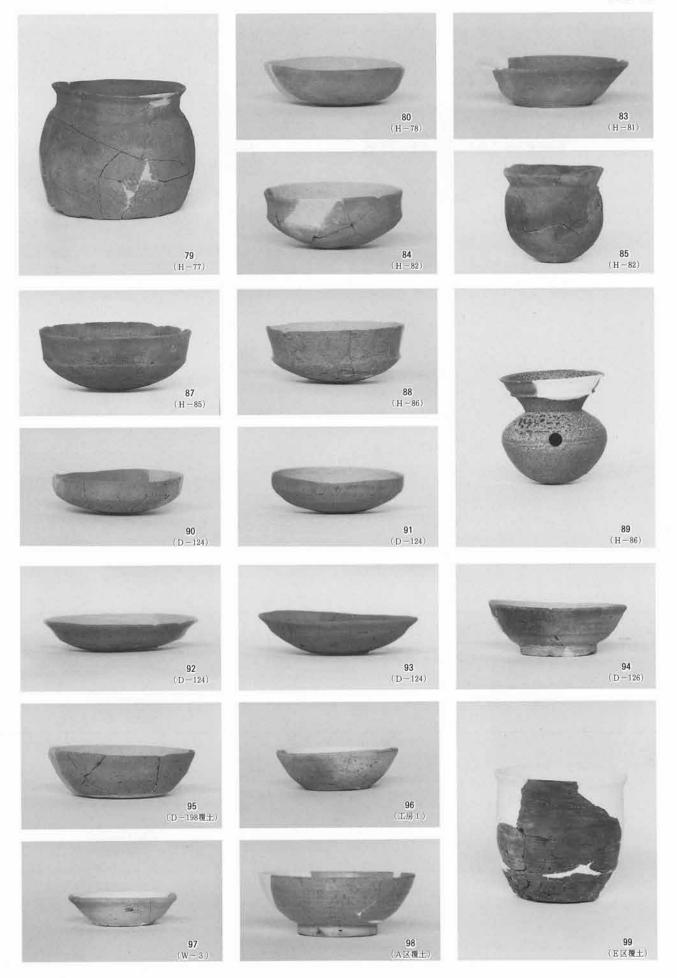




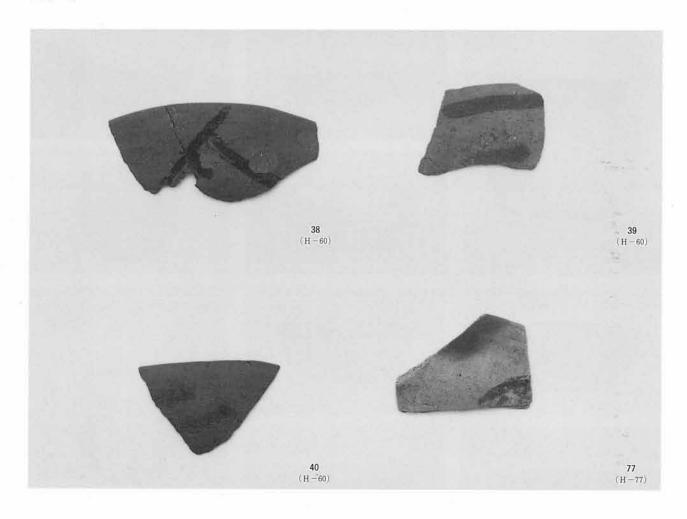


PL. 14





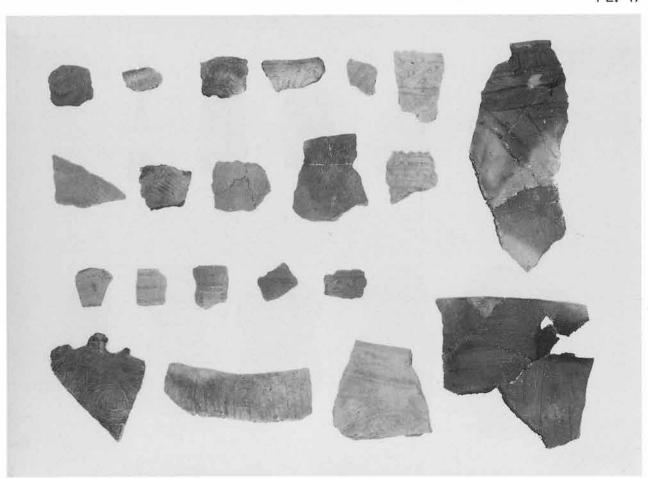
PL. 16



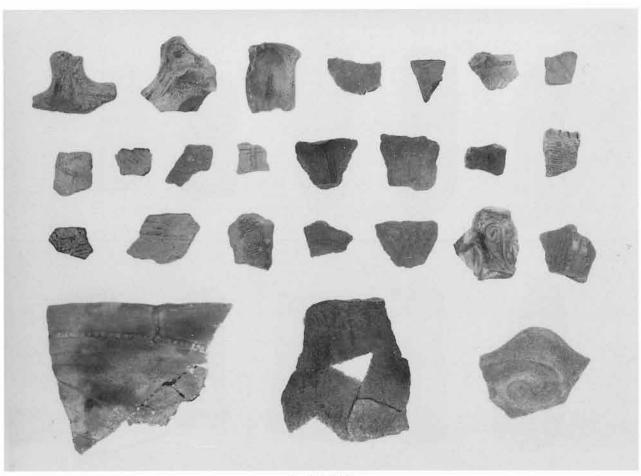




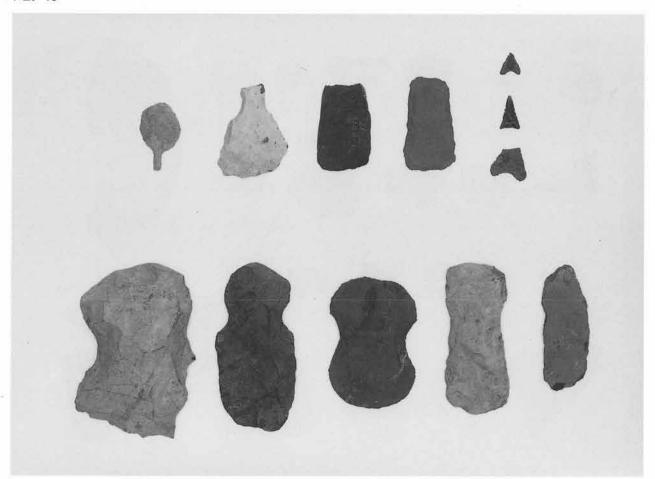




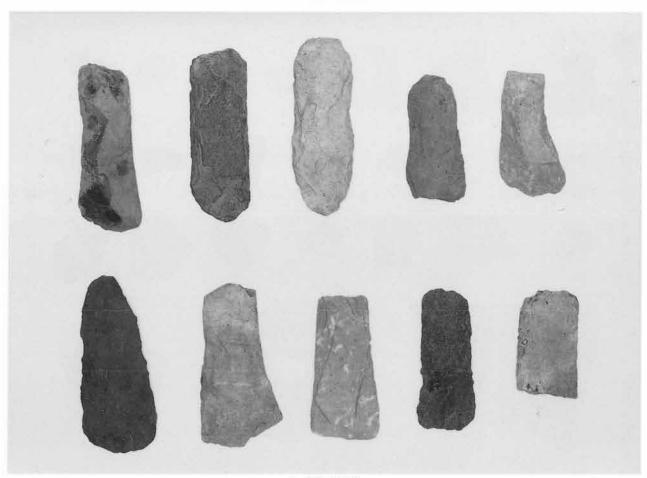
1 縄文式土器



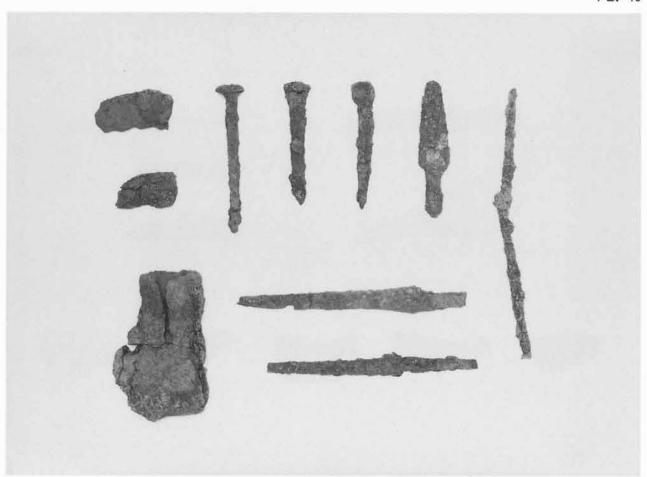
2 縄文式土器



1 石器・石製品



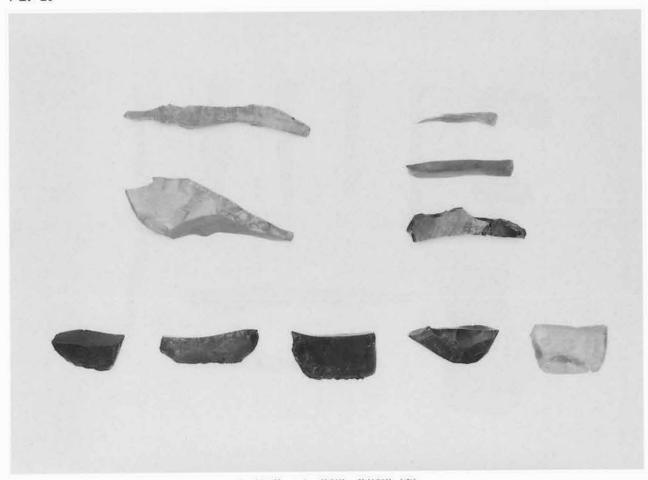
2 石器・石製品



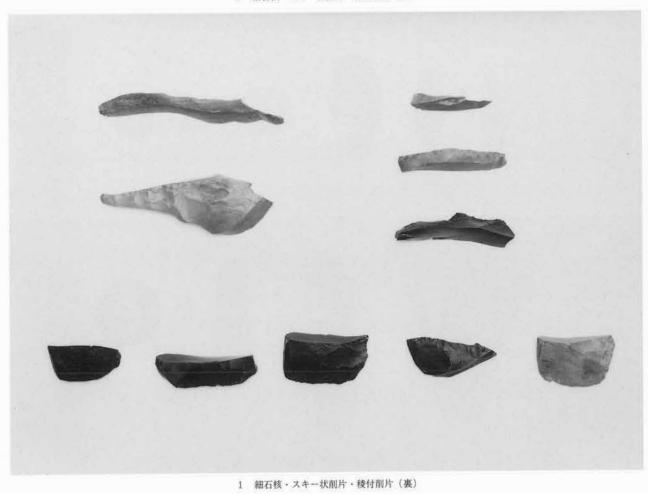
1 鉄器・鉄製品

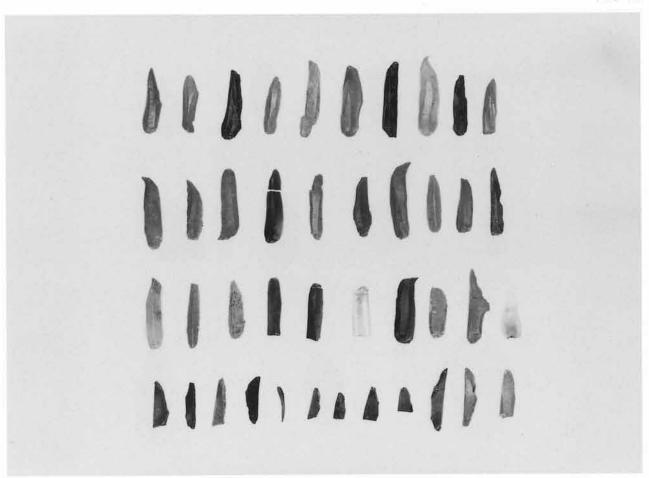


2 特殊遺物



1 細石核・スキー状削片・稜付削片(表)





1 細石刃・彫器削片(表)



1 細石刃・彫器削片(裏)



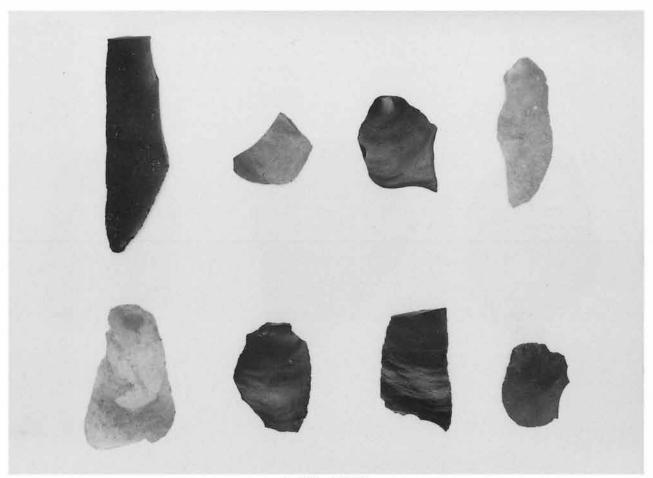
1 彫刻刀型石器(表)



1 彫刻刀型石器(裏)



1 削器・掻器(表)



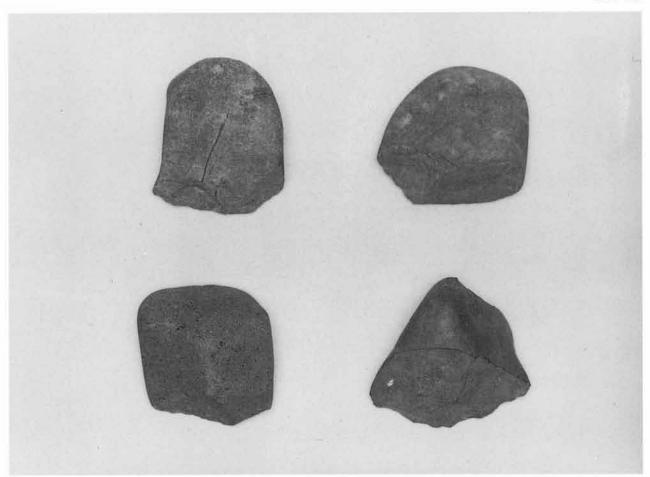
1 削器・掻器(裏)



1 礫 器(表)



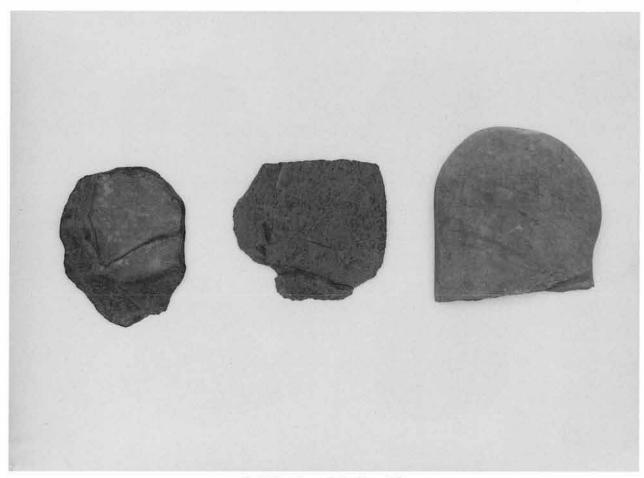
1 碟器(裏)



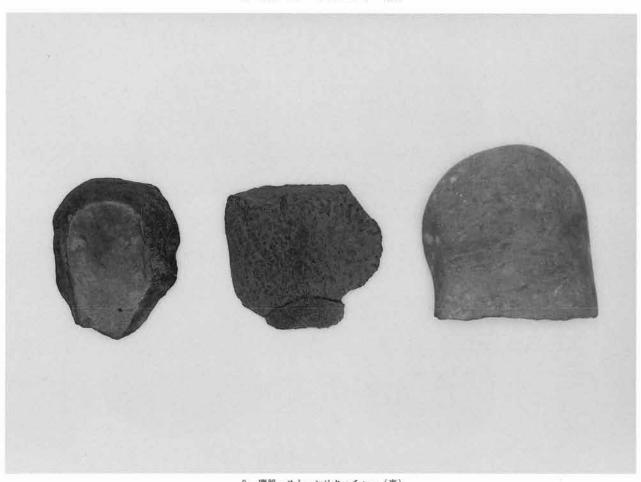
2 礫 器(表)



2 礫 器(裏)



3 礫器・ストーンリタッチャー (表)



3 礫器・ストーンリタッチャー(裏)

フリガナ	トットリフクゾウジニイセキ
書 名	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡
副書名	鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	トットリフクゾウジ
シリーズ番号	2.
編著者名	林 信也 福田 貫之
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦1999年 3 月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ	コード		位	置	300 A: 107 BB	3日本755年	調本質四
	所 在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東 経	調査期間	 	調査原因
トットリフケゾウジニ	マエバシシトットリマチ	- CONTRACTOR	10C19	36° 24′ 46″	139° 06′ 35″	19980709	5,727 m²	鳥取町 土地改良事業
鳥取福蔵寺Ⅱ	前橋市鳥取町	10201				19990326		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
鳥取福蔵寺Ⅱ	集落址他	旧石器時代 ~ 中世	住居址 50 土 坑 84 溝 址 5 井戸址 1 工房址 2 掘立柱遺構 9	基 旧石器、縄文式土器、土師器、 須恵器、灰釉陶器、鉄器・鉄製品、 本 石器・石製品、 世	旧石器分布域の 検出

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

1999年3月17日 印 刷 1999年3月26日 発 行

編集·発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市上泉町664-4 TEL 027-231-9531



